覆土　8層に分層され，ロームブロックや鹿沼パミスブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　黒褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック少量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
8　黒褐色　ローム小ブロック少量，鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片60点，凹石1点が出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器2点，凹石1点である。第146図1は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，南壁際の底面から出土している。2は浅鉢の口縁部片，3は凹石で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。

第96号土坑出土遺物観察表（第146図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B（9.3）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部には円筒状の突起を貼付させ，その直下に隆帯を垂下させている。隆帯上には指痕による押圧を加えている。	長石・石英・雲母に赤い褐色 普通	P147　5%
2	浅鉢 縄文土器	B（7.3）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。内側に稜を持ち，隆帯で指押形の区画文を施している。口縁部外面は無文。	長石・石英・雲母に赤い黄橙色 普通	P148　5%

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
3	凹石	(9.0)	7.5	3.6	(380.0)	砂岩	自然石を素材にしている。表面1穿孔。	Q30

第102号土坑（第147～150図）

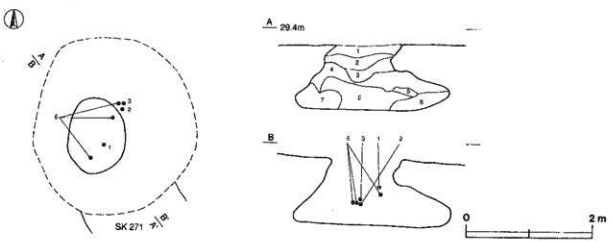
位置　調査1区の北西部，A4j3区。

重複関係　本跡は第271号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.20m，短径0.90mの楕円形，底面は長径2.80m，短径2.60mの楕円形で，深さは102cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。



第147図　第102号土坑実測図

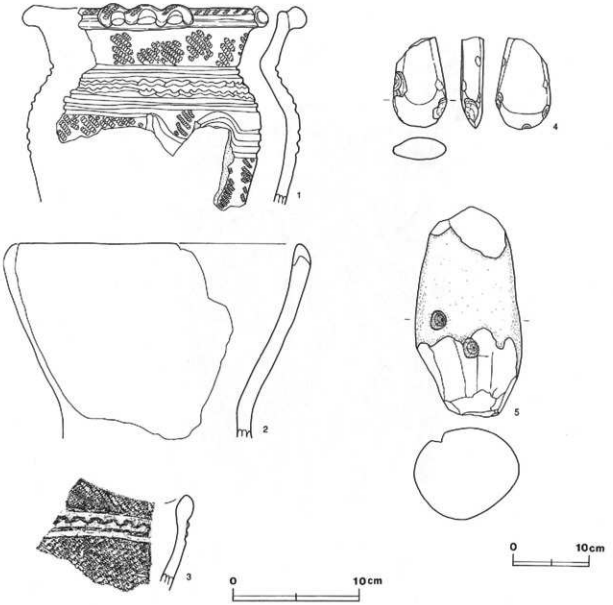
覆土　8層に分層され，ロームブロックや鹿沼パミスブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

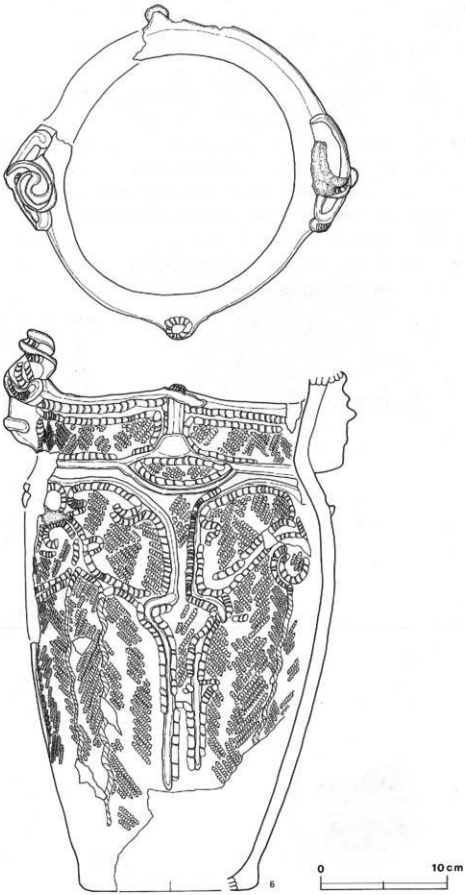
1　黒暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
2　黒暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，鹿沼パミス小ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム大ブロック多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
8　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片158点，磨製石斧１点，凹石１点が出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器４点，磨製石斧１点，凹石１点である。第149・150図６は口縁部が一部欠損する深鉢で，中央部の覆土下層から出土している。第148図２は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片で，中央部の覆土下層から出土している。１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，中央部の覆土中層から出土している。３は深鉢の口縁部片，４は磨製石斧，５は凹石で，それぞれ覆土から出土している。

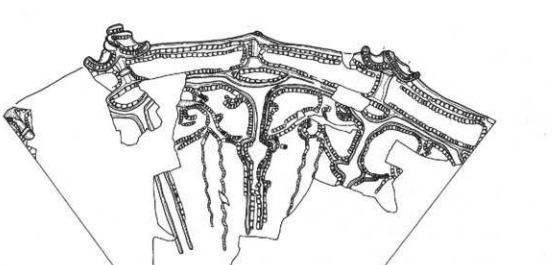
所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第148図　第102号土坑出土遺物実測図（１）



第149図　第102号土坑出土遺物実測図（2）



第150図　第102号土坑出土遺物実測図（3）

第102号土坑出土遺物観察表（第148～150図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［18.0］ B〔16.1〕	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部には押圧を加えた隆帯を巡らしている。隆帯に縄文を施している。頸部には沈線で区画し，半截竹管による波状沈線を２条施している。胴部には渦巻状の沈線を施している。地文はＲＬの単節縄文を施している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	Ｐ150　20%
2	深　鉢 縄文土器	A［22.8］ B〔15.3〕	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部はやや内彎して立ち上がる。口唇部はやや内彎して立ち上がる。	長石・石英・雲母 に赤い赤褐色 普通	Ｐ151　10%
3	深　鉢 縄文土器	B〔7.1〕	波状口縁を呈する口縁部片。波状部は欠損している。口縁部には隆帯を上下から交互に刺突した刺突文を施し，半截竹管による平行沈線を添えている。口縁部は反しの単節縄文を横方向に施し，地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	ＴＰ45　5%
6	深　鉢 縄文土器	A　22.5 B　44.4 C［14.0］	胴部の一部欠損，底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。２単位の突出した渦巻状の隆帯に結節沈線文を描出した大波状部と２単位の円形状の隆帯に結節沈線文を施した小波状部を呈する。口唇部直下には楕円形に区画した隆帯に沿って，複列の結節沈線文を施している。胴部には隆帯と結節沈線文で楕円形状や渦巻状を組み合わせた文様を描出している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	Ｐ149　60%

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	磨製石斧	(7.2)	4.2	1.7	(80.0)	砂　岩	刃部のみ遺存。刃部の平面形は円刃で，両刃。	Ｑ31
5	凹　石	27.7	14.2	11.9	5700.0	砂　岩	石棒を転用。表裏２穿孔。	Ｑ32　ＰＬ47

第107号土坑（第151・152図）

位置　調査１区の西部，Ｂ４d7区。

重複関係　本跡は屋外炉，第99土坑と重複しているが，それらとの新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径2.55m，短径2.40mの不整円形，底面は長径2.72m，短径2.36mの不整楕円形で，深さは38cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

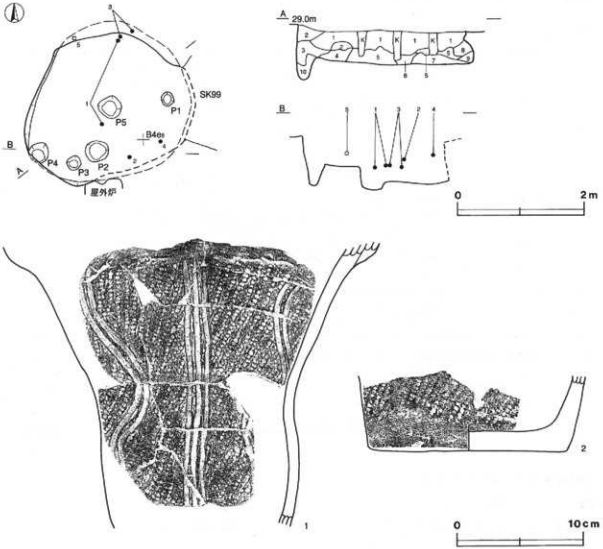
覆土　10層に分層され，不規則な堆積状況やロームブロック・鹿沼パミスブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

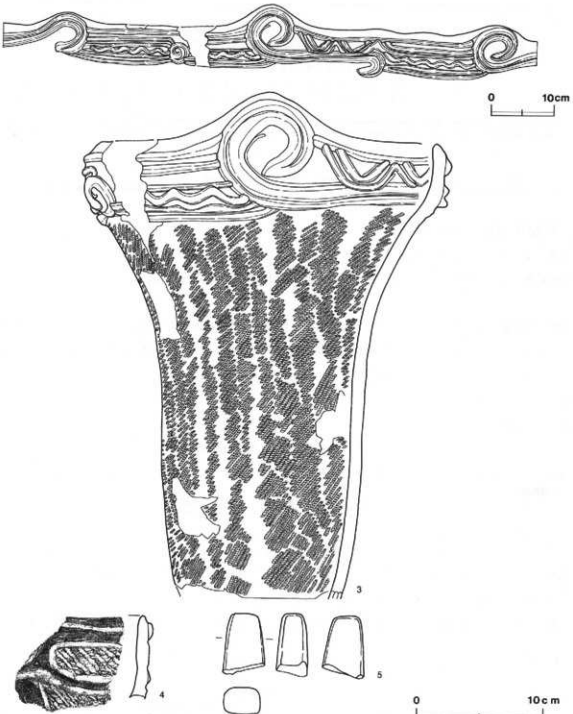
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック少量
6　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
7　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・炭化物少量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
9　褐　色　鹿沼パミス小ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　褐　色　鹿沼パミス小ブロック多量，ローム粒子少量

遺物　縄文土器片216点，磨製石斧片１点が出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器４点，磨製石斧１点である。第151図１は深鉢の胴部片，３は底部が欠損する深鉢で，覆土下層から出土している。２は深鉢の底部片，４は深鉢の口縁部片，５は磨製石斧で，覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第151図　第107号土坑・出土遺物実測図



第152図　第107号土坑出土遺物実測図

第107号土坑出土遺物観察表（第151・152図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（22.3）	口縁部・底部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。胴部の下方に最大径を持つ。胴部には３条の沈線や半截竹管による平行波状沈線を垂下させている。地文はＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母・礫 にぶい橙色 普通	Ｐ153　50%
2	深　鉢 縄文土器	B　（6.0） C　15.5	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。地文はＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	Ｐ154　10%

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	出土・色調・焼成	備　考
3	深　鉢 縄文土器	A 26.5 B (39.7)	底部欠損。胴部は内弯して立ち上がり，口縁部は内弯する。2単位の大波状部と2単位の小波状部を呈する。口縁部には隆帯で渦巻文や三角状の文様と波状を組み合わせた文様を描出している。地文は RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 赤色粒子 普通	P152　30% PL25
4	深　鉢 縄文土器	B (6.5)	口縁部片。口縁部は波線的に立ち上がる。隆帯で格円形の区画文を描し，区画内には LR の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP46　5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
5	磨製石斧	(4.9)	3.4	2.5	(80.0)	緑色凝灰岩	刃部欠損。	Q33

第108号土坑（第153・154図）

位置　調査1区の北東部，B 4 d6区。

重複関係　本跡は西側を除いたほとんどの上面を第3号住居跡に掘り込まれていることから，第3号住居跡より古い。

規模と平面形　西側を除いたほとんどの上面を第3号住居跡に掘り込まれていることから規模及び平面形はともに推定で，開口部は長径2.30m，短径2.05mの楕円形，底面は長径2.10m，短径1.95mの円形で，深さは55cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

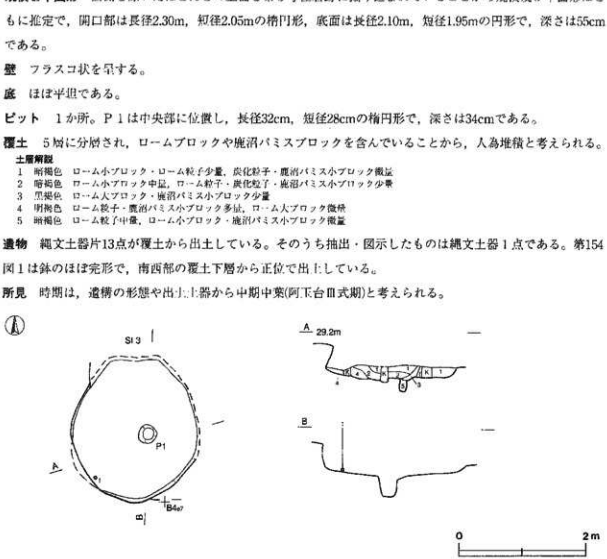
ピット　1か所。P 1は中央部に位置し，長径32cm，短径28cmの楕円形で，深さは34cmである。

覆土　5層に分層され，ローム ブロックや鹿沼パミス ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

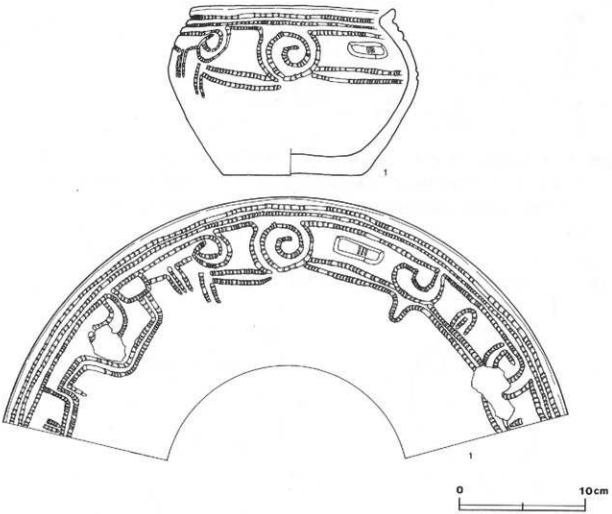
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック少量
3　黒褐色　ローム大ブロック・鹿沼パミス小ブロック少量
4　明褐色　ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック多量，ローム大ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片13点が覆土から出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器1点である。第154図1は鉢のほぼ完形で，南西部の覆土下層から正位で出土している。

所見　時期は，遺構の形態や出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第153図　第108号土坑実測図



第154図　第108号土坑出土遺物実測図

第108号土坑出土遺物観察表（第154図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	鉢 縄文土器	A 15.8 B 13.5 C 10.5	完形。胴部は内弯して立ち上がり，口唇部は外短する。口唇部直下には結節沈線文を巡らしている。胴部には結節沈線で渦巻状や区画状を組み合わせた文様を描出している。また，沈線で楕円形の区画文を作出している。	長石・雲母 褐色 普通	P 155　100% P L 26

第112号土坑（第155・156図）

位置　調査１区の西部，Ｂ４ｲ区。

重複関係　本跡は第10号住居跡・第114号土坑と重複しているが，それらとの新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径2.30m，短径2.15mの楕円形，底面は長径2.05m，短径1.94mの楕円形で，深さは72cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　１か所。Ｐ１は北東壁寄りに位置し，長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さは65cmである。

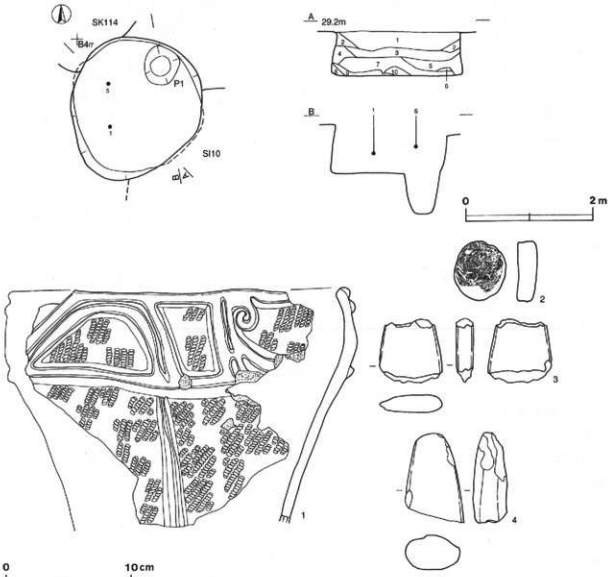
覆土　10層に分層され，ロームブロックや鹿沼パミスブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

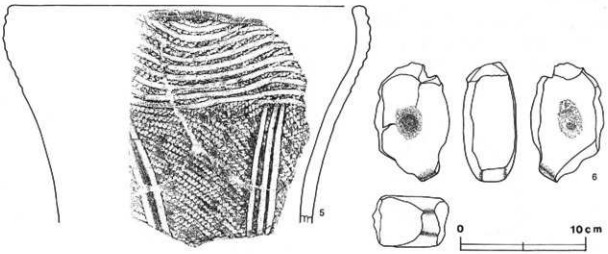
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，鹿沼パミス小ブロック微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
7　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム大ブロック・ローム粒子中量，鹿沼パミス小ブロック少量
8　暗褐色　ローム大ブロック少量，鹿沼パミス小ブロック微量
9　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
10　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片119点，土器片円盤１点，磨製石斧２点，凹石１点が出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器２点，土器片円盤１点，磨製石斧２点，凹石１点である。第155図１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，南西部の覆土中層から出土している。５は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，北西部の覆土上層から出土している。２は土器片円盤，３・４は磨製石斧，６は凹石で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，遺構の形態や出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第155図　第112号土坑・出土遺物実測図



第156図　第112号土坑出土遺物実測図

第112号土坑出土遺物観察表（第155・156図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A〔26.0〕 B〔18.5〕	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部には撚糸と沈線で区画文を施している。また，隆帯による渦巻文を施している。胴部には3条の沈線を垂下させている。区画内・外はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	Ｐ156　10%
5	深　鉢 縄文土器	A〔27.5〕 B〔17.1〕	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口唇部平坦。口縁部には波状沈線を施している。胴部には沈線を2条から3条垂下させている。地文はＬＲＬの複節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	Ｐ157　10%

図版番号	器　種	計測値				材　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
2	土器片円盤	4.7	4.2	1.4	40.8	土　製	文様不明。周縁部は部分的に研磨。	ＤＰ７

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	磨製石斧	(5.0)	4.9	1.4	(60.0)	緑泥片岩	頭部と刃部欠損。	Ｑ34
4	磨製石斧	(7.1)	4.7	2.7	(120.0)	凝灰岩	刃部欠損。頭部は全面風化。	Ｑ35
6	凹　石	9.4	6.0	4.0	340.0	安山岩	表面に１摩孔。	Ｑ36

第121号土坑（第157・158図）

位置　調査１区の北西部，Ｂ４e6区。

規模と平面形　長径2.05m，短径1.75mの楕円形で，深さは10cmである。

壁　外傾して緩やかに立ち上がる。

底　ほぼ平坦である。

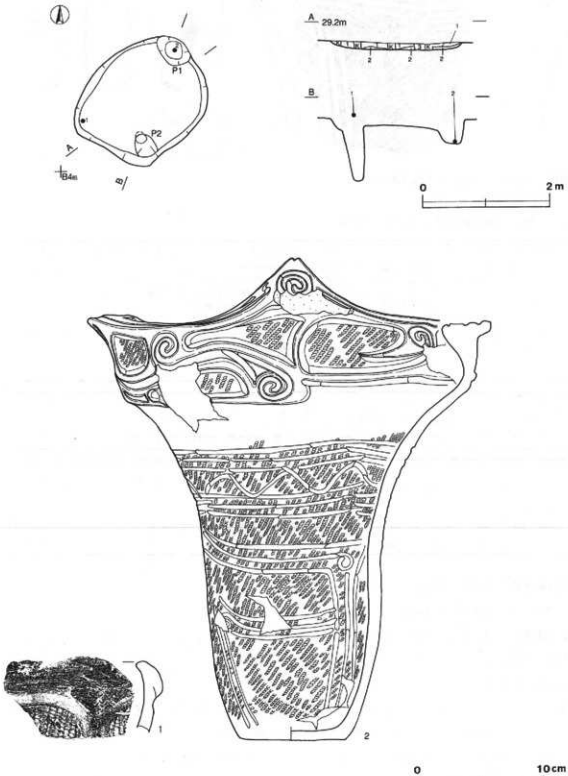
ピット　２か所。Ｐ１は北東壁寄りに位置し，長径55cm，短径40cmの楕円形で，深さは20cmである。Ｐ２は南壁際に位置し，長径42cm，短径38cmの楕円形で，深さは86cmである。

覆土　３層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

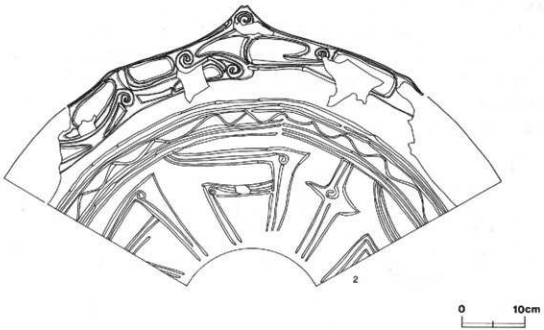
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子多量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片15点が覆土から出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器２点である。第157・158図２は口縁部が一部欠損する深鉢で，Ｐ１の覆土から斜位で出土している。１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，北西部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第157図　第121号土坑・出土遺物実測図



第158図　第121号土坑出土遺物実測図

第121号土坑出土遺物観察表（第157・158図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（5.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。太い沈線で楕円形の区画文を施している。区画内にはLRの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP47　5%
2	深　鉢 縄文土器	A　31.8 B　38.0 C　8.5	口縁部，胴部一部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎する。4単位の波状口縁を呈する。口縁部には隆帯と沈線で渦巻文を施している。胴部には棒状工具による沈線を巡らし，沈線で渦巻状に文様を描出している。	長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P158　70% PL25

第125号土坑（第159図）

位置　調査1区の北部，B4e7区。

重複関係　本跡は第63・126号土坑と重複しているが，両土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.77m，短径1.35mの楕円形，底面は長径1.71m，短径1.57mの楕円形で，深さは137cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　1か所。P1は南東壁寄りに位置し，径33cmの円形で，深さは27cmである。

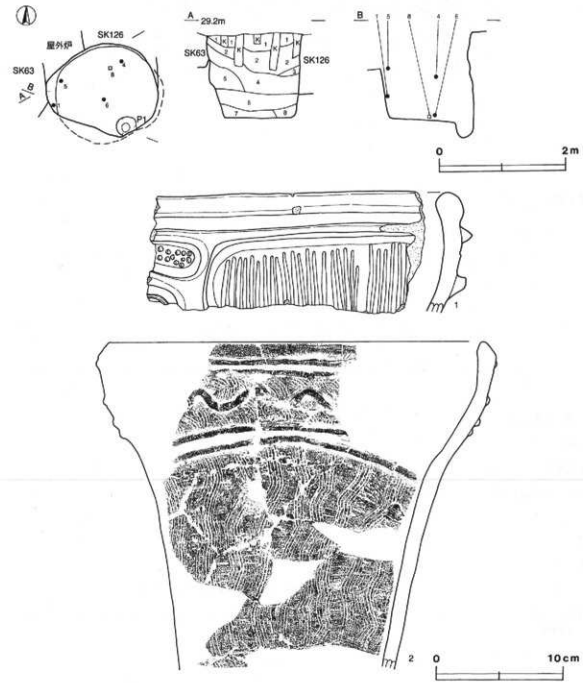
覆土　8層に分層され，不規則な堆積状況やロームを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

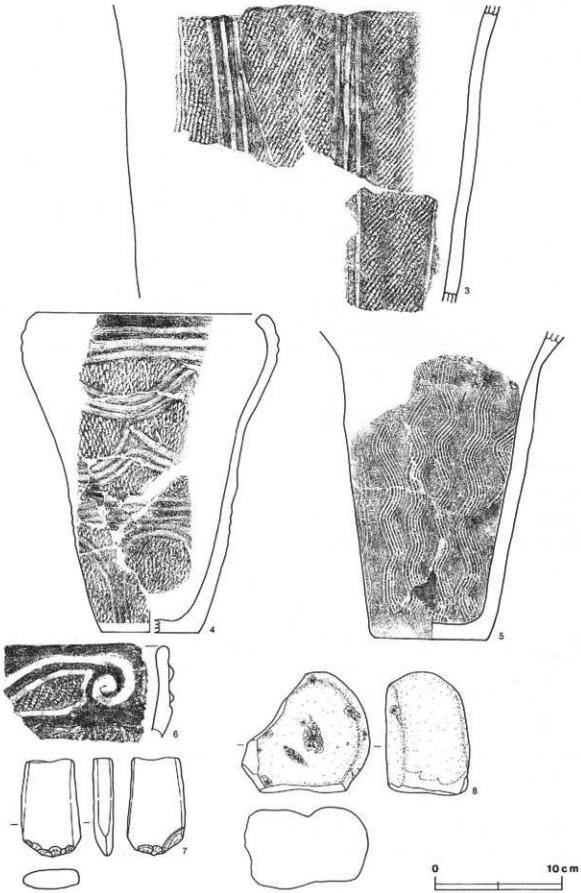
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片191点が覆土から出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器6点，磨製石斧1点，凹石1点である。第160図8は凹石で，北部の底面から出土している。6は深鉢の口縁部片で，中央部の覆土下層から出土している。4は口縁部，胴部，底部が一部欠損する深鉢で，覆土中層から出土している。1は深鉢の口縁部片，5は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，それぞれ覆土中層から出土している。2は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，3は深鉢の胴部片，7は磨製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利EⅡ式期)と考えられる。



第159図　第125号土坑・出土遺物実測図



第160図　第125号土坑出土遺物実測図

第125号土坑出土遺物観察表（第159・160図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・焼成・発色	備考
1	深鉢 縄文土器	B (9.5)	口縁部片。口縁部は内弯する。口縁部直下には沈線を巡らしている。その下方は隆帯で区画され、区画内には棒状工具による沈線を垂下させている。また、区画内には刺突文を施している。	長石 にぶい褐色 普通	P161 5%
2	深鉢 縄文土器	A [24.8] B (26.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外開して立ち上がり、口縁部は内弯する。口縁部には2本の隆帯が巡り、隆帯には刻線でサデを施している。隆帯間には波状の隆帯を貼付し、クシ状工具による沈線が巡る。胴部にはクシ状工具による波状沈線を施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P160 40% PL25
3	深鉢 縄文土器	B (23.6)	胴部片。胴部は外開して立ち上がる。2条から3条の沈線を垂下させている。胴部はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P163 10%
4	深鉢 縄文土器	A [18.1] B 25.2 C [7.7]	口縁部、胴部一部欠損。胴部は外開して立ち上がり、口縁部は内弯する。口縁部には3条の沈線が巡る。胴部には沈線で付形状に文様を構出し、胴部の中位には3条の沈線文を巡らしている。地文は撚糸文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P159 20% PL26
5	深鉢 縄文土器	B (24.5) C 9.0	口縁部欠損。胴部一部欠損。胴部は外開して立ち上がる。胴部にはクシ状工具による波状の沈線を施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P162 40%
6	深鉢 縄文土器	B (17.3)	口縁部片。口縁部は内弯気味に立ち上がる。隆帯や沈線で装飾文を施している。また、2条の沈線を垂下させている。区画内にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP48 5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
7	磨製石斧	(7.7)	4.6	1.5	(100.0)	砂岩	頭部欠損。刃部に潰れ面有り。	Q37
8	凹石	(9.6)	10.1	6.7	(900.0)	花崗岩	表面1穿孔。	Q38

第141号土坑（第161図）

位置　調査1区の北部，B 4 i5区。

重複関係　本跡が第159号土坑の北東部分を掘り込んでいることから，第159号土坑より新しい。

規模と平面形　開口部は長径2.00m，短径1.93mの楕円形，底面は長径2.75m，短径2.50mの楕円形で，深さは94cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

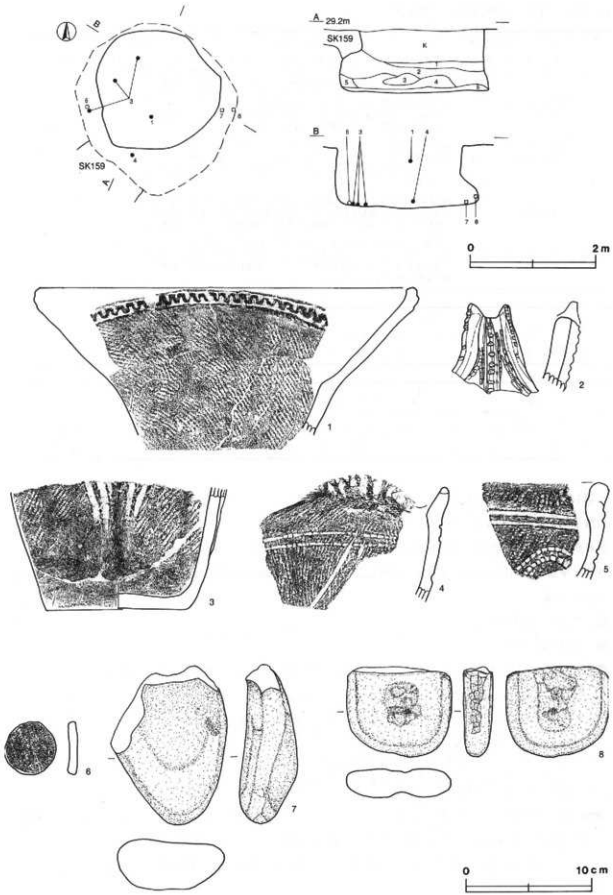
底　ほぼ平坦である。

覆土　6層に分層され，不規則な堆積状況やローム ブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片308点，土器片円盤1点，石皿1点，凹石1点が出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器5点，土器片円盤1点，石皿1点，凹石1点である。第161図6は土器片円盤で，西部の底面から出土している。3は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，西部の覆土下層から出土している。4は深鉢の口縁部片で，南西部の覆土下層から出土している。7は石皿。8は凹石で，東部の覆土下層から出土している。1は深鉢の口縁部片で，中央部の覆土上層から出土している。2は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，5は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。



第161図　第141号土坑・出土遺物実測図

第141号土坑出土遺物観察表（第161図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A〔29.7〕 B（11.5）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや内彎気味に立ち上がる。口縁部直下には上下に交互刻突を施した隆帯を巡らしている。地文は上の無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P164　5％
2	深鉢 縄文土器	B（7.2）	波状部片。波状部には大小の耳状の突起を背中合わせに付けている。その中央には隆帯を縦位に施している。耳状の突起と隆帯には キザミを加えている。隆帯に沿って結節沈線文を施している。	長石・雲母 普通	P165　5％
3	深鉢 縄文土器	B（9.5） C　11.0	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には隆帯を並下させている。それに平行して2条の沈線を施している。底部には棒状工具による当て具痕が有る。地文は R L の半截縄文を縦方向に施している。	石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P166　10％
4	深鉢 縄文土器	B（9.0）	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部にはキザミを施している。口縁部には複列の結節沈線文を巡らし，棒状工具による沈線を斜位に施している。地文は L R の半截縄文を横や斜方向に施している。	長石・雲母 赤褐色 普通	T P49　5％
5	深鉢 縄文土器	B（7.2）	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部には隆帯を巡らし，隆帯に沿って，平行沈線文を施している。また，複列の結節沈線文で円形状に文様を配している。地文は R L の半截縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P50　5％

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	土偶形埴製	4.2	4.0	0.8	15.0	土製	ほぼ円形で，無文。周縁部に先細りのみ。	D P 8

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
7	石皿	(12.5)	9.3	4.6	(560.0)	砂岩	中央から側面にかけての一部が遺存。	Q40
8	凹石	(7.1)	8.3	2.3	(220.0)	砂岩	表面に2箇孔。裏面に2箇孔。	Q41

第143号土坑（第162図）

位置　調査1区の北西部，B 4 j6区。

重複関係　本跡が第139号土坑の北側部分を掘り込んでいることから，第139号土坑より新しい。

規模と平面形　開口部は長径1.40m，短径1.32mの楕円形，底面は長径2.11m，短径2.02mの楕円形で，深さは78cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

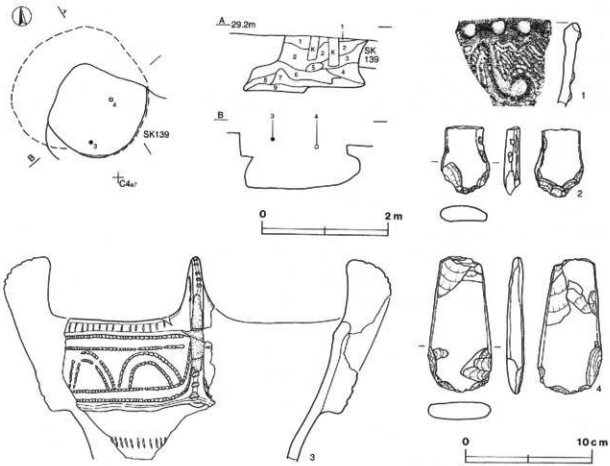
覆土　9層に分層され，ロームブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化物少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック少量，焼沼パミス小ブロック微量
5　黒褐色　ローム中ブロック多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
8　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック微量

遺物　縄文土器片81点，磨製石斧2点が出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器2点，磨製石斧2点である。第162図3は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，南部の覆土上層から出土している。4は磨製石斧で，中央部の覆土上層から出土している。1は深鉢の口縁部片，2は磨製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期)と考えられる。



第162図　第143号土坑・出土遺物実測図

第143号土坑出土遺物観察表（第162図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（6.5）	口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。口唇部には押圧を加えた隆帯を施している。口縁部には波状沈線や渦巻状の隆帯に沿って複列の結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP51　5%
3	深　鉢 縄文土器	A［24.4］ B（16.0）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はやや内彎して立ち上がる。波状部は耳状の突起を施し，口唇部及び波頂部にはキザミを施している。突起には結節沈線文で文様を描出している。口縁部には隆帯で区画文を施し，隆帯に平行して結節沈線文を施している。区画内には，結節沈線文を弧状に描出している。頸部との境にはキザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P167　10%

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
2	磨製石斧	(5.4)	3.9	1.4	(40.0)	凝灰岩	頭部欠損。刃部平面形は円刃で，剥離面有り。	Q43
4	磨製石斧	(10.7)	5.1	1.3	(100.0)	緑泥片岩	頭部欠損。刃部平面形は円刃で，剥離面有り。	Q42

第144号土坑（第163・164図）

位置　調査1区の北西部，B 4 f9区。

重複関係　本跡は第145・162・250号土坑と重複している。出土土器等から第145号土坑とはほぼ同時期と考えられる。第162・250号土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径2.80m，短径2.30mの楕円形，底面は長径2.30m，短径2.25mの円形で，深さは72cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　2か所。P１は西壁寄りに位置し，長径93cm，短径62cmの楕円形で，深さは56cmである。P２は西壁際に位置し，径52cmの円形で，深さは13cmである。

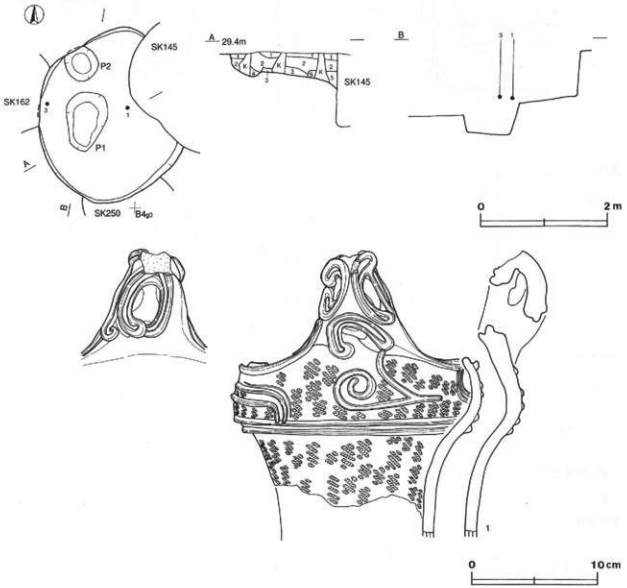
覆土　5層に分層され，不規則な堆積状況やロームブロック・炭化粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

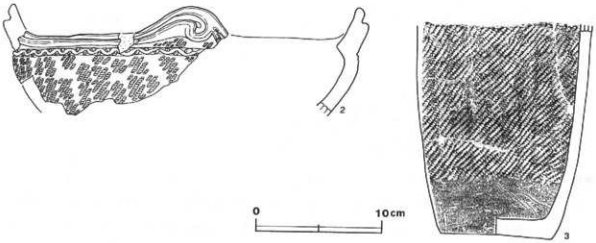
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片382点が出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器３点である。第163図１は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，覆土下層から出土している。３は口縁部が欠損する深鉢で，覆土下層から出土している。２は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第163図　第144号土坑・出土遺物実測図



第164図　第144号土坑出土遺物実測図

第144号土坑出土遺物観察表（第163・164図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［17.6］ B（23.0）	口縁部から胴部にかけての破片。眼鏡状の把手を呈する。口縁部は内弾して立ち上がる。口唇部には凹線で沈線を巡らしている。口縁部には隆帯と沈線で渦巻文を施している。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P168　30% PL26
2	深　鉢 縄文土器	A［27.2］ B　（8.8）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部の内側に棱を持つ。口唇部に沿って隆帯を巡らし，凹線の太い沈線を施している。口唇部直下には交互刺突文を巡らしている。地文は$\frac{1}{2}$LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P169　5%
3	深　鉢 縄文土器	B（17.0） C　8.9	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P170　30%

第145号土坑（第165～168図）

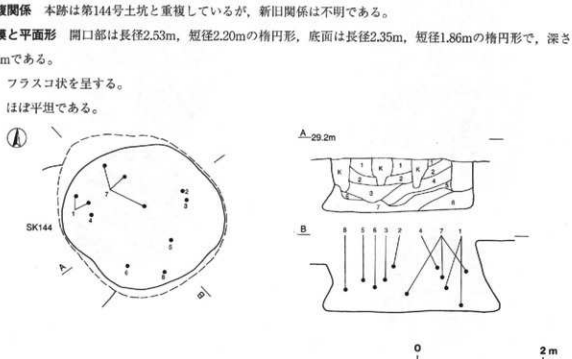
位置　調査1区の北部，B4和区。

重複関係　本跡は第144号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径2.53m，短径2.20mの楕円形，底面は長径2.35m，短径1.86mの楕円形で，深さは83cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。



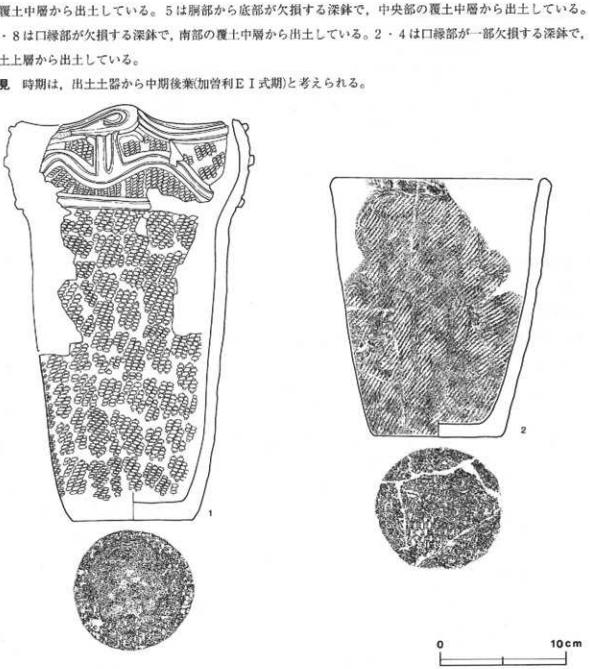
第165図　第145号土坑実測図

覆土　8層に分層され，1層から5層まではレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられ，6層からは，ロームブロック・鹿沼パミスブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

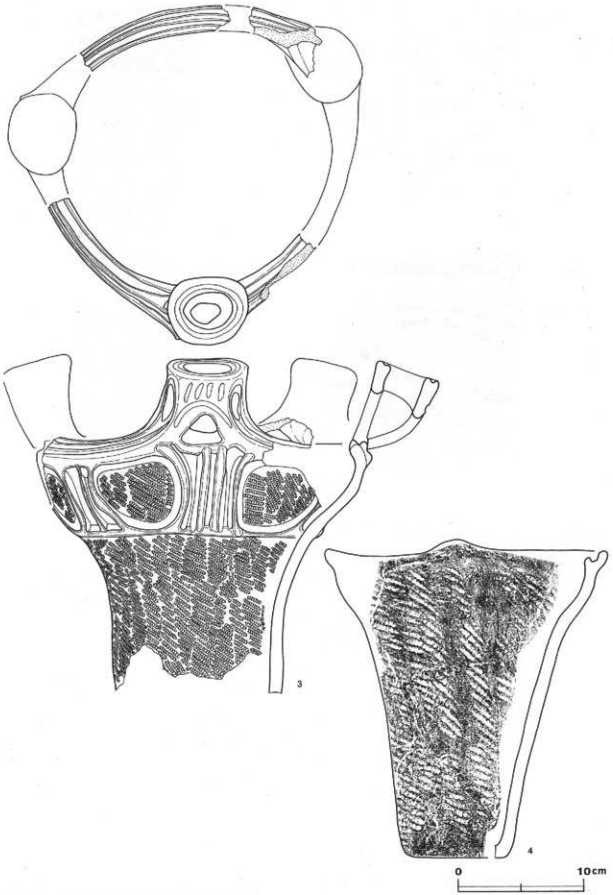
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　褐　色　ローム粒子多量，炭化物・炭化粒子少量，鹿沼パミス小ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，鹿沼パミス小ブロック微量
8　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片405点が出土している。そのうち抽出・図示したものは縄文土器8点である。第168図7は底部が欠損する深鉢で，北西の覆土下層から出土している。1は口縁部，胴部が一部欠損する深鉢で，西部の覆土下層から中層にかけて出土している。3は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，東部の覆土中層から出土している。5は胴部から底部が欠損する深鉢で，中央部の覆土中層から出土している。6・8は口縁部が欠損する深鉢で，南部の覆土中層から出土している。2・4は口縁部が一部欠損する深鉢で，覆土上層から出土している。

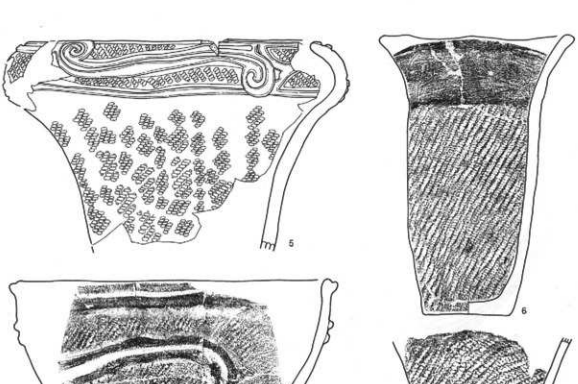
所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第166図　第145号土坑出土遺物実測図（1）



第167図　第145号土坑出土遺物実測図（2）



第168図　第145号土坑出土遺物実測図（3）

第145号土坑出土遺物観察表（第166～168図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［16.8］ B　32.8 C　9.6	口縁部，胴部一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内弯する。口縁部には2本の隆帯を巡らし，その間を1条の凹線でなぞている。口唇部の一部に突出した渦巻文を形成している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P173　60% PL26 底部網代痕有り
2	深　鉢 縄文土器	A［16.7］ B　20.3 C　9.8	口縁部及び胴部一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石 にぶい橙色 普通	P175　70% 底部網代痕有り
3	深　鉢 縄文土器	A［23.0］ B（26.3）	胴部一部欠損，底部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内弯する。口縁部は把手部を有する。把手部には筒状のものに沈線で文様を描出し，四方に孔が空けられた突出部を作出している。口唇部には沈線が巡る。口縁部には沈線で楕円形の区画文を施している。区画内にはLRの単節縄文を縦方向に施している。胴部にはLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P171　60% PL26
4	深　鉢 縄文土器	A　22.0 B　25.0 C［7.8］	胴部，底部一部欠損。小波状口縁を呈する。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや内弯する。波頂部には沈線で文様を描出している。口唇部には太い沈線を巡らしている。地文はLの無節縄文を縦位に施している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P174　70% PL26
5	深　鉢 縄文土器	A［23.1］ B（16.5）	底部欠損，胴部一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内弯する。口唇部には沈線を巡らしている。口縁部には隆帯と沈線で渦巻文を施している。口縁部はRLの単節縄文を横方向に施し，胴部はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P178　40% PL26
6	深　鉢 縄文土器	A　14.5 B　22.2 C　6.8	胴部，底部一部欠損。胴部は内弯して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は外傾してラッパ状に立ち上がる。口唇部は平坦。胴部はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P176　90% PL26

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	深鉢 縄文土器	A［24.2］ B［16.5］	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部には沈線を巡らしている。口縁部には隆帯と沈線で楕円形の区画文を施している。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	石英・針状鉱物・パミス 暗褐色 普通	Ｐ172　40% ＰＬ26
8	深鉢 縄文土器	B［16.0］ C［5.8］	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾してのびたのち，屈部はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	Ｐ177　30%

第148号土坑（第169・170図）

位置　調査１区の西部，Ｂ４i5区。

重複関係　本跡が第142号土坑の西側部分を掘り込んでいることから，第142号土坑より新しい。第168号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.75m，短径1.51mの楕円形，底面は長径2.28m，短径2.04mの不整楕円形で，深さは111cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

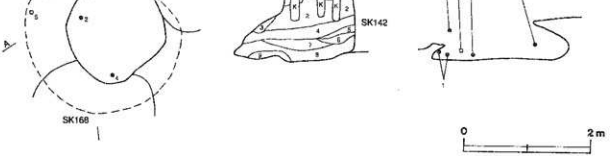
底　ほぼ平坦である。

覆土　９層に分層され，ロームブロックや鹿沼パミスブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

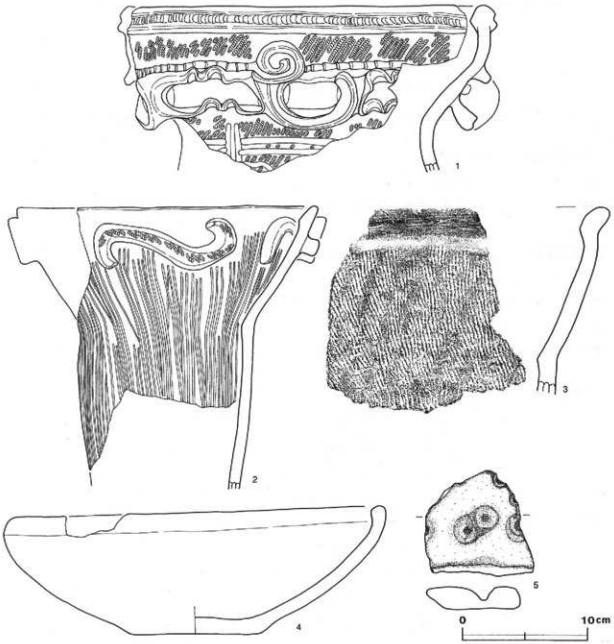
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　色　ローム粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
3　褐　色　炭化物・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，鹿沼パミス小ブロック微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量
7　褐　色　ローム中ブロック・炭化粒子中量，鹿沼パミス小ブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
9　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片307点，凹石１点が出土している。そのうち縄文土器４点，凹石１点を抽出・図示した。第170図１は深鉢の口縁部片，２は底部が欠損する深鉢で，それぞれ北西部の覆土下層から出土している。４は口縁部から胴部が一部欠損する浅鉢で，南部の覆土下層から出土している。５は凹石で，西部の覆土下層から出土している。３は深鉢の口縁部片で，北西部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。



第169図　第148号土坑実測図



第170図　第148号土坑出土遺物実測図

第148号土坑出土遺物観察表（第170図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［28.3］ B（13.2）	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外頸して立ち上がり，口縁部は内弯する。口唇部には太い隆帯を，口唇部直下には爪形文を巡らしている。口縁部には突出した隆帯を施し，隆帯で渦巻文や楕円形の区画文を施している。地文はＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	Ｐ179　10%
2	深　鉢 縄文土器	A［23.0］ B（22.2）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内弯して立ち上がり，口縁部はやや外頸して立ち上がる。口縁部の内側に棱を持つ。口縁部には４単位の横Ｓ字状の隆帯を貼付している。口縁部から胴部にかけて，クシ状工具による条線文を縦位に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	Ｐ180　70% ＰＬ26
3	深　鉢 縄文土器	B（15.5）	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は「く」の字状に外頸し，口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部はやや外頸する。口縁部の内側に棱を持つ。頸部にはクシ状工具よる沈線を縦位に施している。地文はＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	ＴＰ52　5%

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
4	浅　鉢 縄文上器	A　29.0 B　10.0 C　10.4	口縁部から胴部の一部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口唇部はやや丸味を帯びる。胴部は無文である。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P181　80% PL26

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
5	凹　石	8.4	8.7	1.8	100.0	凝　灰　岩	表面に3穿孔。	Q44

第150号土坑（第171・172図）

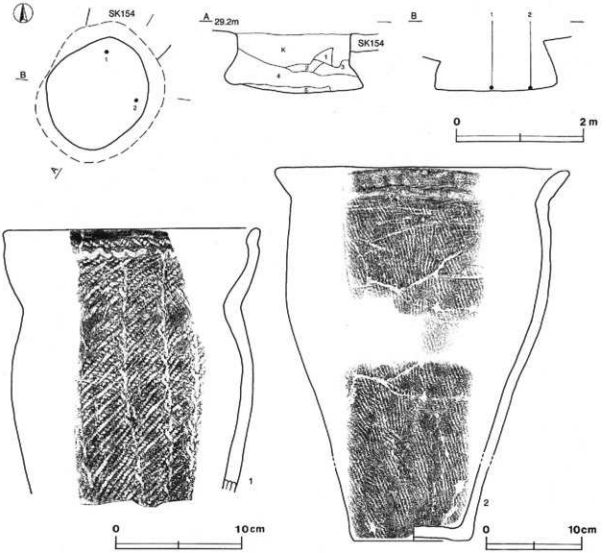
位置　調査1区の西部，B 4 i7区。

重複関係　本跡が第154号土坑の南側部分を掘り込んでいることから，第154号土坑より新しい。

規模と平面形　開口部は長径1.84m，短径1.60mの楕円形，底面は長径2.32m，短径1.94mの楕円形で，深さは85cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。



第171図　第150号土坑・出土遺物実測図

覆土　5層に分層され，不規則な堆積状況やロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　褐　色　ローム粒子少量

遺物　縄文土器片140点が出土している。そのうち縄文土器5点を抽出・図示した。第171図1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，底面から横位で出土している。2は胴部が一部欠損する深鉢で，底面から逆位で出土している。3は深鉢の把手部片，4・5は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台式Ⅳ式期)と考えられる。

第172図　第150号土坑出土遺物実測図

第150号土坑出土遺物観察表（第171・172図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［19.8］ B（20.8）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部の内側に稜を持つ。口唇部直下には波状の沈線が巡る。その下に縄縄文を縦に施している。口唇部にはLの単節縄文を横方向に施している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P183　20%
2	深　鉢 縄文土器	A　30.9 B［39.4］ C　12.5	胴部の一部欠損。胴部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部直下の外面に稜を巡らしている。地文はLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 胴部上半 灰黄褐色 胴部下半 普通	P182　85%
3	深　鉢 縄文土器	B（10.3）	把手部を有する口縁部片。把手は鎖状把手。把手部には隆帯で突出部を作出し，孔の周りには結節沈線文や爪形文で文様を描出している。隆帯にはキザミを施している。口縁部には条線文を施している。	長石・雲母 鼠灰色 普通	P184　5%
4	深　鉢 縄文土器	B（8.7）	波状口縁を呈する口縁部片。波状部の隆帯にはキザミを施している。口縁部にはクシ状工具による条線文と沈線を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP53　5%
5	深　鉢 縄文土器	B（5.0）	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。2条の沈線を巡らし，クシ状工具による沈線を縦方向や波状に施している。	雲母 にぶい橙色 普通	TP54　5%

第151号土坑（第173・174図）

位置　調査1区の西部，B4i7区。

重複関係　本跡は南側部分を第152号土坑に掘り込まれていることから，第152号土坑より古い。

規模と平面形　開口部は長径1.46m，短径1.11mの楕円形，底面は長径2.47m，短径2.20mの楕円形で，深さは78cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

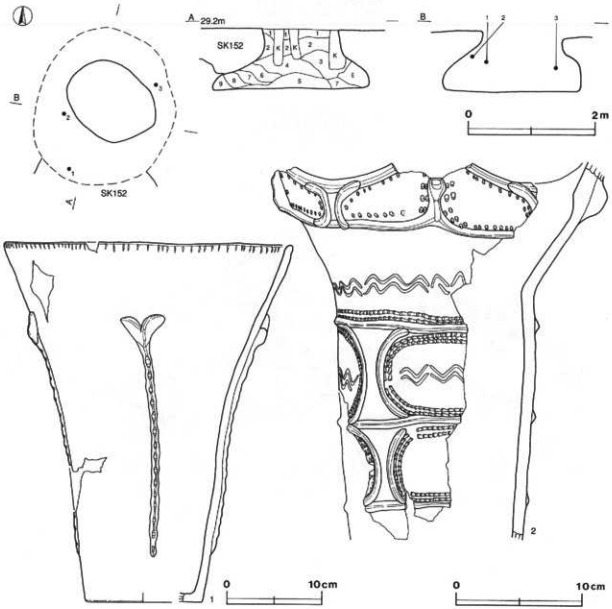
底　ほぼ平坦である。

覆土　9層に分層され，不規則な堆積状況やロームブロック・鹿沼パミスブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

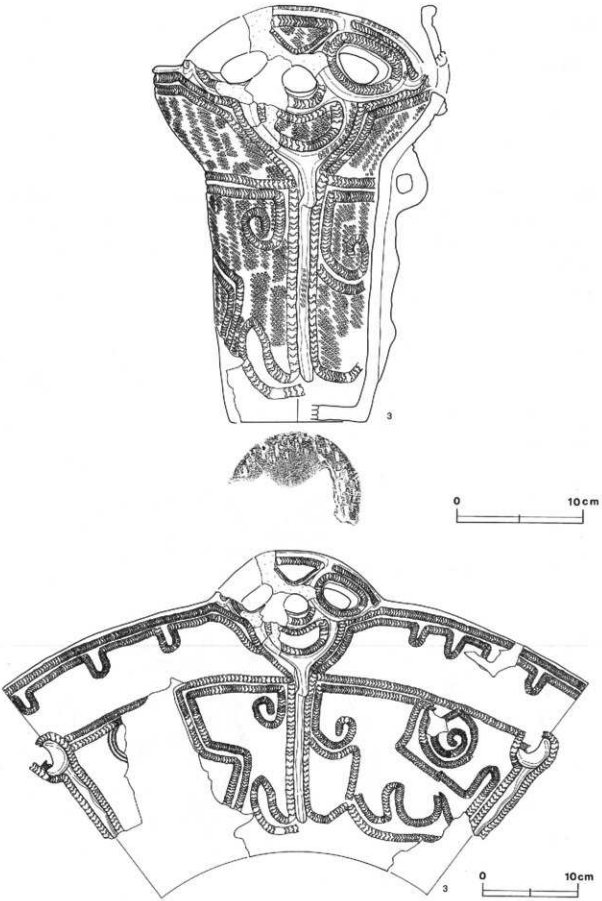
土層解説
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
2　暗褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　鹿沼パミス小ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
7　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
8　黒褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
9　褐　色　鹿沼パミス小ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　縄文土器片80点が出土している。そのうち縄文土器3点を抽出・図示した。第173図1は口縁部から胴部が一部欠損する深鉢で，南西部の覆土中層から出土している。2は口縁部，胴部が一部欠損，底部が欠損する深鉢で，西部の覆土中層から出土している。3は口縁部，胴部，底部が一部欠損する深鉢で，東部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台式Ⅱ式期)と考えられる。



第173図　第151号土坑・出土遺物実測図



第174図　第151号土坑出土遺物実測図

第151号土坑出土遺物観察表（第173・174図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A　30.2 B　38.0 C［12.2］	底部の一部欠損。胴部は外開して立ち上がる。口唇部直下には爪形文を巡らしている。胴部には4単位の「Y」字状の隆帯を垂下させている。隆帯には指頭による押圧を施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 185　70% P L 27
2	深　鉢 縄文土器	B（29.6）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は外短して立ち上がる。波状口縁を呈するが，波頂部は欠損している。口縁部には断面三角形の細い隆帯で楕円形の区画文を4単位施している。区画内には突出部を作出している。隆帯に沿って，円形状の竹管の先端による刺突を施している。胴部には隆帯に沿って複列の結節沈線文を施している。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 186　50% P L 27
3	深　鉢 縄文土器	A　22.6 B　32.1 C［10.5］	口縁部の一部欠損。胴部は外開して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部には孔が空けられ，その周りを爪形文で区画している。胴部には隆帯を垂下させ，その左右に爪形文で区画文や渦巻状の文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 187　70% P L 27 底部胴代痕有り

第157号土坑（第175図）

位置　調査1区の北部，B 4 e9区。

重複関係　本跡が第50号土坑の北側部分，第61号土坑の南側部分を掘り込んでいることから両土坑より新しい。

規模と平面形　開口部は，長径0.96m，短径0.77mの楕円形，底面は長径1.91m，短径1.75mの楕円形で，深さは128cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

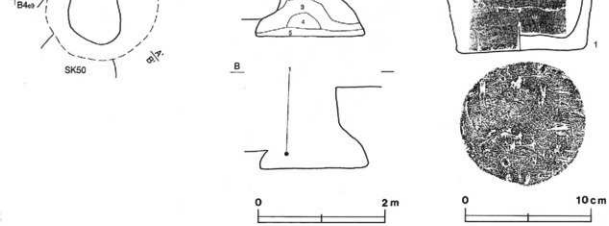
底　ほぼ平坦である。

覆土　5層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　明褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片50点が出土している。そのうち縄文土器1点を抽出・図示した。第175図1は深鉢の胴部から底部に欠けての破片で，北東部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，遺構の形態や出土土器から中期と考えられる。



第175図　第157号土坑・出土遺物実測図

第157号土坑出土遺物観察表（第175図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（7.2） C　9.7	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には複列の結節沈線文を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P189 15% 底部網代痕有り

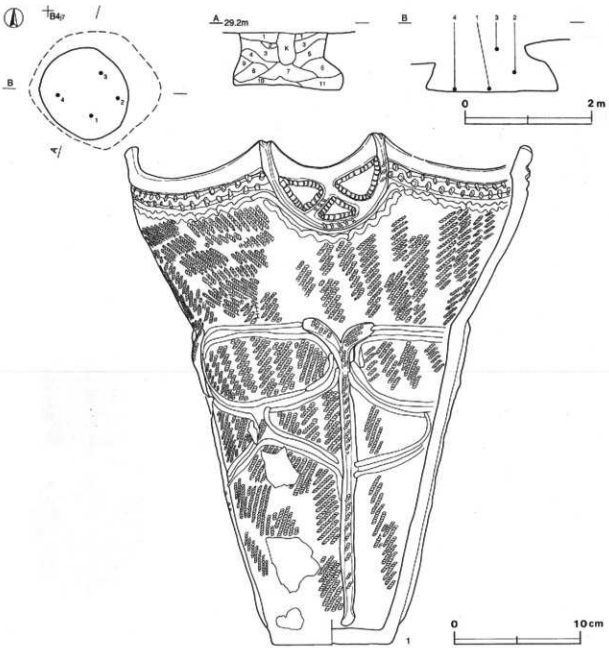
第158号土坑（第176・177図）

位置　調査1区の西部，B 4j7区。

重複関係　本跡は第166号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.65m，短径1.30mの楕円形，底面は長径1.88m，短径1.75mの円形で，深さは74cmである。

壁　フラスコ状を呈する。



第176図　第158号土坑・出土遺物実測図

底　ほぼ平坦である。

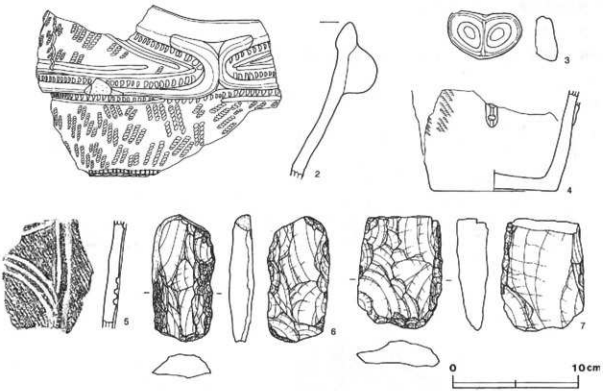
覆土　11層に分層され，1層から3層は，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。4層から11層は，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化物少量
7　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
8　黒褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
9　暗褐色　炭化物中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
10　暗褐色　ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
11　黒褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　縄文土器片128点，打製石斧2点が出土している。そのうち縄文土器5点，打製石斧2点を抽出・図示した。第176図1は胴部が一部欠損する深鉢，4は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，底面から出土している。2は深鉢の口縁部片で，覆土中層から出土している。3は深鉢の口縁部に付く把手部片で覆土上層から出土している。5は深鉢の胴部片，6・7は打製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第177図　第158号土坑出土遺物実測図

第158号土坑出土遺物観察表（第176・177図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 30.5 B 40.3 C 9.4	胴部の一部欠損。胴部は外短して立ち上がり，口縁部で内彎する。4単位の波状口縁を呈し，その内の一単位の波状部は双頭となる。双頭の波底部には結節沈線文で三角形の区画による文様を描出させている。口唇部直下には交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。胴部には隆帯を「Y」字状に垂下させ，その間には，沈線による X 字状文を施している。地文は R L の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 190　80% P L 26

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
2	深　鉢 縄文土器	B (13.5)	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部ははやや内彎して立ち上がる。口縁部には横状把手を有する隆帯で区画されている。区画内には隆帯に沿ってペン先状の刺突文及び沈線を施している。口縁部はRLの単節縄文を縦方向に，一部横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P191　10%
3	深　鉢 縄文土器	B　3.5	把手部片。把手部には窪みを2か所施し，厳面把手の様相を呈する。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P192　5%
4	深　鉢 縄文土器	B (8.0) C 10.0	胴部から底部にかけての破片。底部から胴部にかけて外傾して立ち上がる。胴部には隆帯を垂下させ，隆帯には指頭による押圧を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P193　10%
5	深　鉢 縄文土器	B (8.6)	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には垂下した隆帯に沿って沈線を施し，棒状工具による沈線で楕円形状に文様を描出している。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	TP55　5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	打製石斧	(10.0)	4.9	1.8	(120.0)	粘　板　岩	刃部欠損。短冊形。刃部断面形は片刃。	Q46　PL46
7	打製石斧	(8.8)	6.7	2.6	(180.0)	凝　灰　岩	基部欠損。短冊形。	Q45　PL46

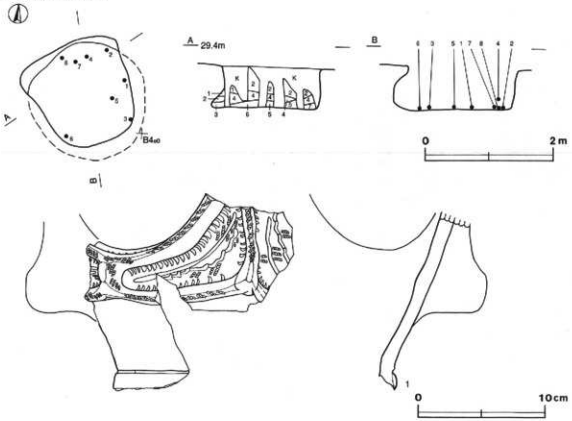
第160号土坑（第178～180図）

位置　調査1区の北部，B4d9区。

規模と平面形　開口部は長径1.90m，短径1.48mの不整楕円形，底面は長径1.88m，短径1.77mの円形で，深さは65cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。



第178図　第160号土坑・出土遺物実測図

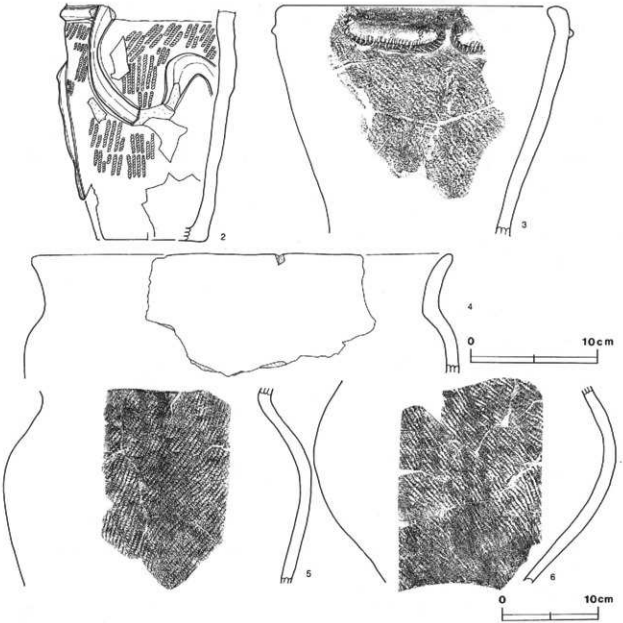
覆土　7層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

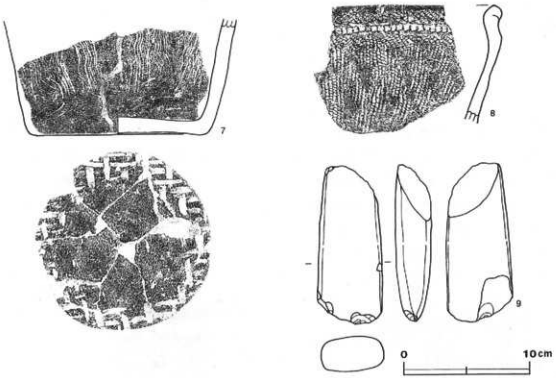
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，炭化物少量，焼土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片109点，磨製石斧１点が出土している。そのうち縄文土器８点，磨製石斧１点を抽出・図示した。第179図２は口縁部，胴部が一部欠損する深鉢で，北部の底面から出土している。１は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，３は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，５は深鉢の胴部片で，東部の底面からそれぞれ出土している。６は深鉢の胴部片で，南西部の底面から出土している。７は深鉢の胴部から底部にかけての破片，８は深鉢の口縁部片で，それぞれ北部の底面から出土している。４は深鉢の口縁部片で，北部の覆土下層から出土している。９は磨製石斧で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期)と考えられる。



第179図　第160号土坑出土遺物実測図（１）



第180図　第160号土坑出土遺物実測図（２）

第160号土坑出土遺物観察表（第178～180図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（15.5）	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部は欠損している。口縁部には隆帯で突出部を作出し，隆帯に沿って爪形文を施している。また，波状沈線を施している。胴部との境には隆帯と平行沈線文を巡らしている。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P195　5％
2	深　鉢 縄文土器	B（18.6） C［8.5］	胴部片。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部に至る。胴部には蛇行隆帯を貼り付けている。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P194　30％ PL27
3	深　鉢 縄文土器	A［21.2］ B（18.0）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。口唇部直下にはキザミを施した隆帯による区画文を施している。胴部はＲの無節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P196　10％
4	深　鉢 縄文土器	A［32.2］ B（9.2）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部から胴部は無文。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P197　5％
5	深　鉢 縄文土器	B（20.8）	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。地文はＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P198　10％
6	深　鉢 縄文土器	B（21.4）	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。地文はＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P199　20％
7	深　鉢 縄文土器	B（9.1） C　14.1	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部にはクシ状工具による波状沈線や縦位の沈線を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P200　30％ 底部網代痕有り
8	深　鉢 縄文土器	B（9.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。半截竹管による綾節沈線文を巡らしている。地文はＬＲの単節縄文を縦や横方向に施している。	長石 橙色 普通	TP56　5％

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	磨製石斧	(12.4)	5.3	3.0	(300.0)	流　紋　岩	頭部欠損。刃部の平面形は円刃状。刃部剥離。	Q47　PL45

第162号土坑（第181・182図）

位置　調査１区の北部，Ｂ４f9区。

重複関係　本跡は第144号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.86m，短径1.73mの円形，底面は長径2.75m，短径2.60mの円形で，深さは102cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　３か所。Ｐ１は北壁際に位置し，径24cmの円形で，深さは６cmである。Ｐ２は東壁寄りに位置し，径35cmの円形で，深さは16cmである。Ｐ３は中央部に位置し，長径28cm，短径20cmの楕円形で，深さは10cmである。

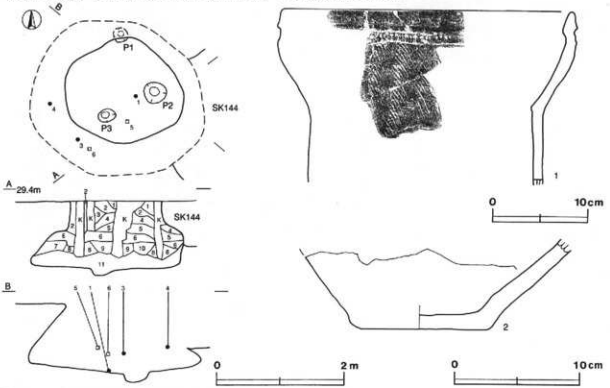
覆土　11層に分層され，ローム・炭化物・鹿沼パミスブロックの含有状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

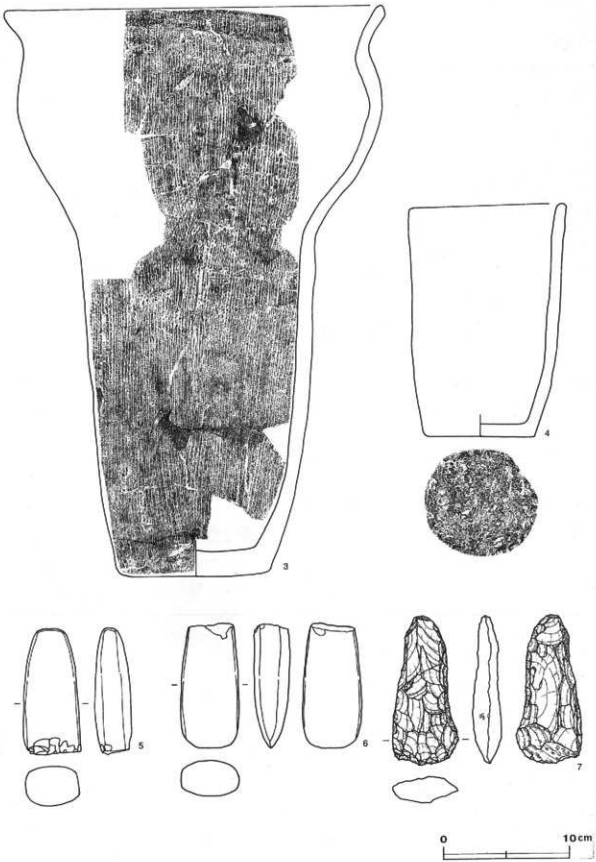
1	黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・炭化物微量
5	暗褐色	ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
6	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子多量
8	暗褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
9	暗褐色	ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子多量，炭化物・鹿沼パミス小ブロック微量
11	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック少量

遺物　縄文土器片298点，打製石斧１点，磨製石斧２点が出土している。そのうち縄文土器４点，打製石斧１点，磨製石斧２点を抽出・図示した。第182図１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，中央部の覆土下層から出土している。３は口縁部が一部欠損する深鉢，６は磨製石斧で，南西部の覆土下層から出土している。４は口縁部が一部欠損する深鉢で，西部の覆土下層から横位で出土している。５は磨製石斧で，中央部の覆土下層から出土している。２は浅鉢の底部片，７は打製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期)と考えられる。



第181図　第162号土坑・出土遺物実測図



第182図　第162号土坑出土遺物実測図

第162号土坑出土遺物観察表（第181・182図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A (30.2) B (18.4)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内湾して立ち上がり，口縁部は内弯する。口縁部の内側に稜を持つ。口唇部直下には隆帯が巡る。隆帯に平行して半截竹管による平行沈線文を施している。施文は上の加節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 黒褐色 普通	P202　5%
2	深鉢 縄文土器	B (7.2) C 10.2	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。底部の内面は摩滅している。胴部は無文。	長石・雲母 暗赤褐色 普通	P204　10%
3	深鉢 縄文土器	A 29.9 B 44.8 C 11.8	口縁部，胴部一部欠損。胴部はやや内弯して立ち上がる。口縁部は内弯して立ち上がり，口唇部で外傾する。口縁部から胴部にかけてクシ状工具による条線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色胴部上半 にぶい橙色胴部下半 普通	P201　80% P L 27
4	深鉢 縄文土器	A 12.2 B 18.3 C 8.7	ほぼ完形。口縁部は外傾して立ち上がり，口唇部は丸味を持ってやや外傾する。胴部は無文で縦割している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P203　95% P L 27 底部縄代痕有り

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
5	磨製石斧	(9.9)	4.7	2.9	(240.0)	緑色凝灰岩	刃部欠損。	Q48
6	磨製石斧	(9.8)	4.7	2.8	(220.0)	緑色凝灰岩	頭部欠損。刃部平面形は円形で断面形は楕円。	Q49　P L 45
7	打製石斧	11.7	5.2	2.3	140.0	緑泥片岩	刃部断面形は楕円。表裏面に剥離有り。	Q50　P L 46

第164号土坑（第183・184図）

位置　調査i区の西部，B 4 h6区。

重複関係　本跡は東側部分を第167号土坑に掘り込まれていることから，第167号土坑より古い。

規模と平面形　開口部は長径2.15m，短径1.83mの楕円形，底面は長径2.40m，短径2.14mの楕円形で，深さは32cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

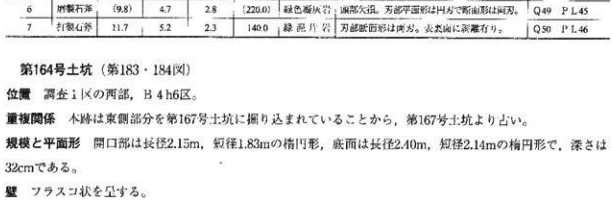
底　ほぼ平坦である。

覆土　5層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

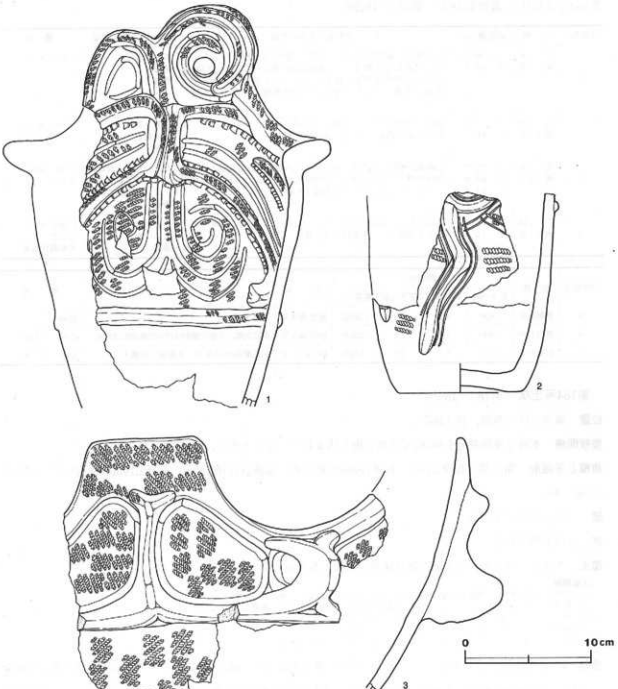
土層解説
1　暗褐色　炭化物・炭化粒子中量，ロ・ム小ブロック・ロ・ム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ロ・ム小ブロック・ロ・ム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ロ・ム粒子多量，ロ・ム中ブロック・ロ・ム小ブロック少量
4　暗褐色　ロ・ム小ブロック・ロ・ム粒子中量，炭化粒子少量
5　褐　色　ロ・ム小ブロック中量，ロ・ム粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片150点が出土している。そのうち縄文土器3点を抽出・図示した。第184図1は底部が欠損する深鉢，3は深鉢の橋状把手が付く口縁部片で，それぞれ北西部の壁際の底面から出土している。2は口縁部から胴部が欠損する深鉢で，北西壁際の底面から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉阿玉台Ⅳ式期と考えられる。



第183図　第164号土坑実測図



第184図　第164号土坑出土遺物実測図

第164号土坑出土遺物観察表（第184図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A〔20.0〕 B〔31.6〕	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は眼鏡状把手を呈する。把手には，沈線で渦巻文を施し，片方に孔が穿されている。眼鏡状把手の直下にはキザミを施した隆帯で突出部を作出し，その隆帯の延長上に文様を描出している。隆帯に沿って三角押文を施している。胴部には沈線で渦巻文とＲＬの羊歯縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	Ｐ205　30% ＰＬ27
2	深　鉢 縄文土器	B〔15.5〕 C　9.6	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には隆帯に沿って，平截竹管による平行沈線文を施している。地文はＲＬの羊歯縄文を斜方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	Ｐ207　20% 底部網代痕有り

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
3	深　鉢 縄文土器	B（20.5）	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は内彎する。口縁部には隆帯が巡る。偶状把手を有する。隆帯で区画された内・外はＲＬの単節縄文を横方向に，地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P206　10%

第165号土坑（第185・186図）

位置　調査１区の西部，B37区。

規模と平面形　開口部は長径2.10m，短径1.24mの楕円形，底面は長径2.00m，短径1.45mの楕円形で，深さは72cmである。

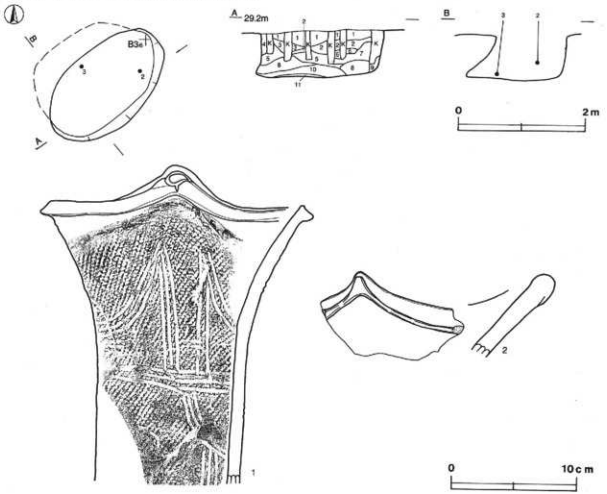
壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

覆土　11層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

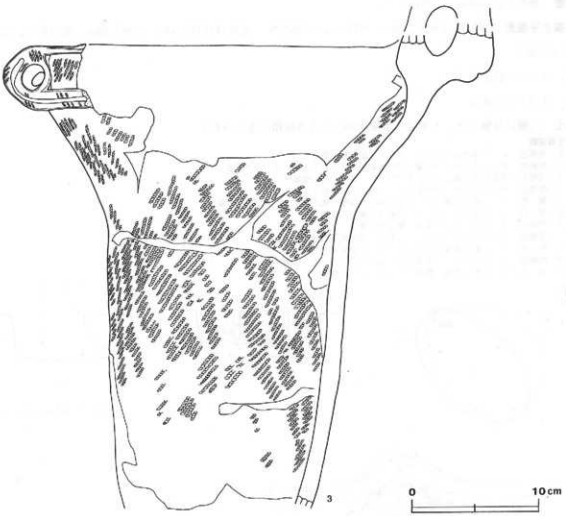
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，鹿沼パミス小ブロック微量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量
7　黒褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
10　明褐色　ローム大ブロック多量，ローム小ブロック少量，鹿沼パミス小ブロック微量
11　褐　色　ローム粒子多量，鹿沼パミス小ブロック微量



第185図　第165号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片114点が出土している。そのうち縄文土器３点を抽出・図示した。第186図３は底部から胴部が一部欠損する橋状把手を有する深鉢で，中央部の覆土下層から出土している。２は波状口縁を呈する浅鉢の口縁部片で，東部の覆土下層から出土している。１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第186図　第165号土坑出土遺物実測図

第165号土坑出土遺物観察表（第185・186図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A〔19.8〕 B〔25.2〕	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口唇部には浅い沈線が巡る。口縁部は波状口縁を呈し，波頂部には沈線で渦巻文を施している。胴部には縦位や横位の沈線や渦巻文を施している。地文はＲＬの単節縄文を施している。	長石・パミス 灰褐色 普通	Ｐ209　30% ＰＬ27
2	浅鉢 縄文土器	B〔6.5〕	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。波頂部は平坦である。波状部は無文で，研磨している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	Ｐ210　5%
3	深鉢 縄文土器	A〔28.0〕 B〔38.5〕	口縁部，胴部の一部欠損。底部欠損。１単位の波状口縁を呈する。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部には隆帯で円形状に文様を描出している。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	Ｐ208　60% ＰＬ27

第172号土坑（第187・188図）

位置　調査1区の西部，B 4 j3区。

重複関係　本跡は第209号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　第209号土坑と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，長径2.25m，短径2.15mの円形，深さは88cmである。

壁　円筒状を呈し，直立する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　4か所。P 1は北壁寄りに位置し，径25cmの円形で，深さは29cmである。P 2は中央部に位置し，径23cmの円形で，深さは73cmである。P 3は西壁寄りに位置し，径22cmの円形で，深さは61cmである。P 4は北壁際に位置し，径65cmの円形で，深さは69cmである。

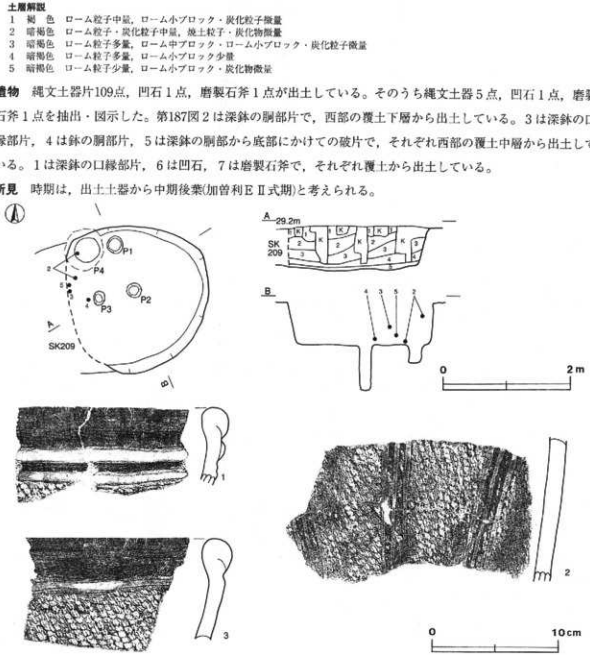
覆土　5層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

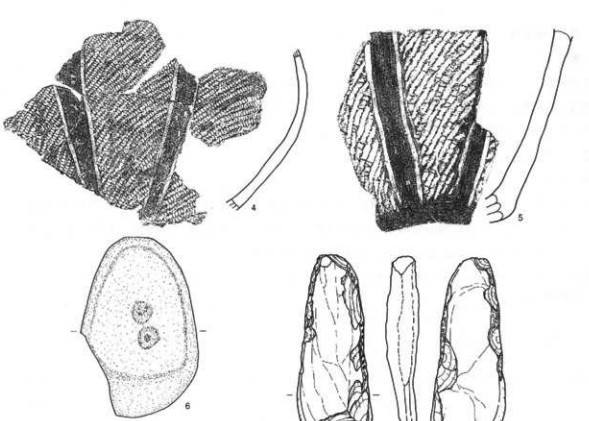
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量

遺物　縄文土器片109点，凹石1点，磨製石斧1点が出土している。そのうち縄文土器5点，凹石1点，磨製石斧1点を抽出・図示した。第187図2は深鉢の胴部片で，西部の覆土下層から出土している。3は深鉢の口縁部片，4は鉢の胴部片，5は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，それぞれ西部の覆土中層から出土している。1は深鉢の口縁部片，6は凹石，7は磨製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅡ式期)と考えられる。



第187図　第172号土坑・出土遺物実測図



第188図　第172号土坑出土遺物実測図

第172号土坑出土遺物観察表（第187・188図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（5.9）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部直下には2条の凹線を巡らしている。地文は複節縄文を施している。	石英・雲母・赤色粒子・輝 にぶい褐色，普通	ＴＰ58　5％
2	深　鉢 縄文土器	B（11.3）	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には3条の沈線を垂下させている。地文はＬＲＬの複節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黄橙色 普通	ＴＰ60　5％
3	深　鉢 縄文土器	B（7.8）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部直下には沈線を巡らしている。地文は複節縄文を施している。	長石・雲母 橙色 普通	ＴＰ59　5％
4	鉢 縄文土器	B（13.4）	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。胴部には沈線による懸垂文を施し,沈線間を磨り消している。地文はＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 良好	ＴＰ61　5％ 内・外面赤彩
5	深　鉢 縄文土器	B（15.0）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には沈線による懸垂文を施し，沈線間を磨り消している。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石 にぶい褐色 良好	ＴＰ62　5％

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	凹　石	14.2	9.4	6.4	1000.0	砂　岩	表面2穿孔。裏面1穿孔	Q52
7	磨製石斧	15.0	5.9	2.4	260.0	緑泥片岩	刃部断面形は片刃。	Q51　ＰＬ46

第177号土坑（第189・190図）

位置　調査1区の西部，C 4 a6区。

重複関係　本跡は第169・189・308号土坑と重複しているが，それらの土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径0.88m，短径0.64mの楕円形，底面は長径3.06m，短径2.95の円形で，深さは145cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

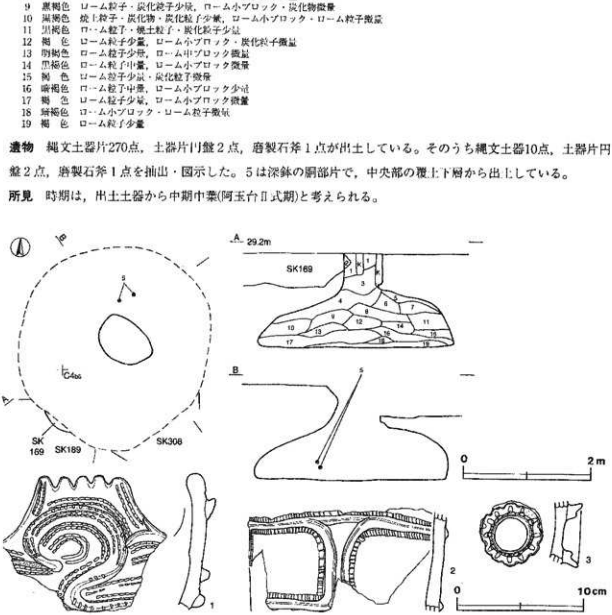
覆土　19層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

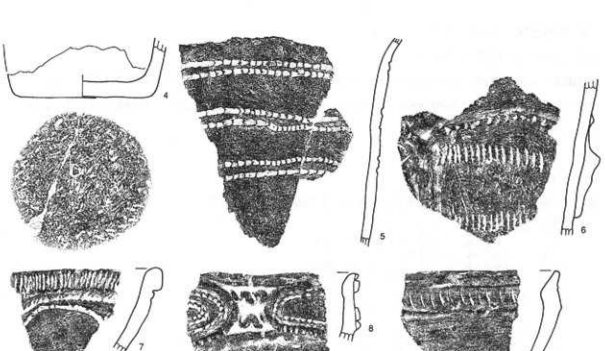
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　明褐色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
6　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
9　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
10　黒褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
11　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
12　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
13　明褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
14　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
15　褐　色　ローム粒子少量・炭化粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
17　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
18　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
19　褐　色　ローム粒子少量

遺物　縄文土器片270点，土器片円盤2点，磨製石斧1点が出土している。そのうち縄文土器10点，土器片円盤2点，磨製石斧1点を抽出・図示した。5は深鉢の胴部片で，中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第189図　第177号土坑・出土遺物実測図



第190図　第177号土坑出土遺物実測図

第177号土坑出土遺物観察表（第189・190図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（10.7）	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部には山形状の深いキザミを施している。波状部には逆S字状の隆帯を貼付している。隆帯に沿って複列の結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P211　5%
2	深　鉢 縄文土器	B（7.9）	口縁部片。口唇部欠損。口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部には断面三角形の隆帯で方形に区画し，隆帯に沿って結節沈線文を施している。	長石・雲母・パミス 褐灰色 普通	P213　10%
3	深　鉢 縄文土器	B（5.1）	突起部。円形状の突起を呈する。円形に隆帯を施し，その周りを刺突し，中央部に窪みを施している。隆帯の外側には爪形文を施している。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P212　5%
4	深　鉢 縄文土器	B（4.8） C　10.0	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。底部は平坦である。胴部は無文で研磨している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P214　5% 底部胴代痕有り
5	深　鉢 縄文土器	B（16.5）	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には複列の結節沈線文を3段に巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP67　5%
6	深　鉢 縄文土器	B（12.2）	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。「V」字状の隆帯を貼付し，そこから縦位に隆帯を垂下させている。垂下した隆帯には指頭による押圧を加えている。隆帯には一部キザミを施している。また，器面にはキザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母・ 蛇 にぶい褐色 普通	TP68　5%
7	深　鉢 縄文土器	B（7.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下には隆帯が巡り，隆帯に沿って爪形文を施している。口縁部には半截竹管による結節沈線文で楕円状の区画を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP63　5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	深鉢 縄文土器	B（5.5）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部にはキザミを施した隆帯で楕円形の区画文を描している。区画内には撚糸の格子状縄文を施している。天面則には短い波状の隆帯を2段に貼付している。	長石・石英・赤色粒子 暗赤褐色 普通	TP64　5%
9	深鉢 縄文土器	B（8.0）	口縁部片。口縁部は内湾気味に立ち上がる。内面に稜を持つ。キザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	TP65　5%
10	深鉢 縄文土器	B（7.1）	口縁部片。口縁部は内湾気味に立ち上がる。波状の沈線を巡らしている。	石英・雲母・赤色粒子 褐色，普通	TP66　5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
11	土師小型壺	3.9	3.7	1.2	16.8	土師	波状沈線で文様を描出している。	DP9　PL44
12	土師所謂	3.1	2.9	0.9	7.8	土師	RL の単節縄文を縦方向に施している。	DP10

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
13	剥製石斧	(6.8)	5.0	2.9	(160.0)	緑色凝灰岩	基部欠損。刃部の平面形は円刃で，断面形両刃	Q53

第181号土坑（第191・192図）

位置　調査1区の北西部，B 4 g7区。

重複関係　本跡は第199号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.47m，短径1.35mの円形，底面は長径1.55m，短径1.40mの楕円形で，深さは34cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

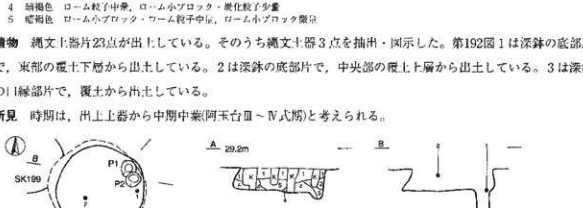
ピット　2か所。P 1は北東壁寄りに位置し，径25cmの円形で，深さは18cmである。P 2は北東壁寄りに位置し，径25cmの円形で，深さは42cmである。

覆土　5層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物　縄文土器片23点が出土している。そのうち縄文土器3点を抽出・図示した。第192図1は深鉢の底部片で，東部の覆土下層から出土している。2は深鉢の底部片で，中央部の覆土上層から出土している。3は深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期)と考えられる。



第191図　第181号土坑実測図

第192図　第181号土坑出土遺物実測図

第181号土坑出土遺物観察表（第192図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（9.5） C　9.1	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には隆帯が垂下する。胴部にはＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P217　5％
2	深　鉢 縄文土器	B（6.2） C　13.6	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部にはクシ状工具による沈線を縦位に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P216　5％
3	深　鉢 縄文土器	B（6.0）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部にはＲＬの単節縄文を縦や斜方向に施している。	長石・雲母 明褐色 普通	TP69　5％

第187号土坑（第193～195図）

位置　調査１区の西部，Ｃ４c6区。

重複関係　本跡は第191・211号土坑と重複しているが，両土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.92m，短径1.57mの楕円形，底面は長径2.20m，短径1.92mの楕円形で，深さは102cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

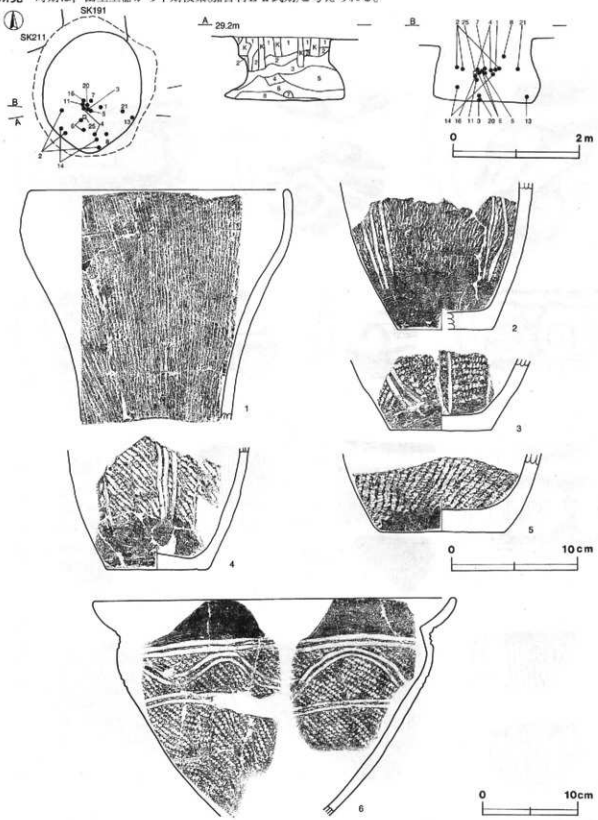
覆土　８層に分層され，１層から３層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられ，４層から８層は不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量
5　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　縄文土器片332点，土器片円盤１点，打製石斧１点，凹石１点が出土している。そのうち縄文土器22点，土器片円盤１点，打製石斧１点,凹石１点を抽出・図示した。第193図３は深鉢の底部片で，中央部の底面から出土している。13は深鉢の口縁部片で，東部の底面から出土している。20は深鉢の口縁部片で，中央部の覆土下層から出土している。１は底部が欠損する深鉢，４・５は深鉢の胴部から底部にかけての破片，６は口縁部が一部欠損する浅鉢，７は浅鉢の口縁部片で，それぞれ中央部の覆土中層から出土している。２は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，覆土中層から出土している。11・14は深鉢の口縁部片，25は凹石で，それぞれ南部の覆土中層から出土している。16は深鉢の口縁部片で，中央部の覆土中層から出土している。21は深鉢の口

縁部片で，東部の覆土中層から出土している。8は深鉢の口縁部片で，南部の覆土上層から出土している。9・10・12・15・17・18・19は深鉢の口縁部片，22は深鉢の胴部片，23は土器片円盤，24は打製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅡ式期)と考えられる。



第193図　第187号土坑・出土遺物実測図

第194図　第187号土坑出土遺物実測図（1）

第195図　第187号土坑出土遺物実測図（２）

第187号土坑出土遺物観察表（第193～195図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 20.6 B (18.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内弯する。胴部にはクシ状工具による条線文を縦位に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P219 60% PL27
2	深鉢 縄文土器	B (11.5) C [7.6]	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には３条の沈線を垂下させている。地文はRの無節縄文を斜方向に施している。	長石 にぶい橙色 普通	P220 30%
3	深鉢 縄文土器	B (5.6) C 8.0	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には太い３条の沈線を垂下させている。地文はLRの単節縄文を横や斜方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P222 30%
4	深鉢 縄文土器	B (9.5) C 8.0	口縁部欠損。胴部の一部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には太い３条の沈線を垂下させている。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P221 20%
5	深鉢 縄文土器	B (6.2) C 9.9	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	P223 30%
6	鉢 縄文土器	A [37.6] B (23.1)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内弯して立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。頸部との境に平行沈線文を巡らしている。胴部の上位に最大径を持ち，そこに平行沈線文を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P218 10%
7	浅鉢 縄文土器	B (7.3)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部の内側に稜をもつ。口縁部外面は無文。口縁部内面には沈線で文様を描出している。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P224 10% 口縁部内外面赤彩
8	深鉢 縄文土器	B (11.5)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部直下には太い沈線を巡らしている。口縁部には隆帯と沈線で渦巻文や区画文を施している。	長石・石英 褐色 普通	TP70 5%
9	深鉢 縄文土器	B (5.6)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部には沈線を巡らし，コブ状の隆帯を突出させている。口縁部には沈線と隆帯で渦巻文や区画文を施している。	長石 褐色 普通	TP72 5%
10	深鉢 縄文土器	B (9.0)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆帯と沈線で楕円形及び円形の区画文を施している。区画内には沈線を縦位に施している。口縁部と頸部との境には条線文を施している。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	TP74 5%
11	深鉢 縄文土器	B (6.0)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部はやや外傾する。口縁部の内側に稜を持つ。口縁部には隆帯と沈線で区画文及び渦巻文を施している。区画内には RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 黒褐色 普通	TP71 5%
12	深鉢 縄文土器	B (6.0)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆帯と沈線で渦巻文を施している。地文は RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 橙褐 普通	TP73 5%
13	深鉢 縄文土器	B (5.3)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆帯と沈線で楕円形の区画文を施している。また，短い沈線を横位に施し，その延長上に円形の刺突を１つ施している。その下に太い３条の沈線を垂下させている。	長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	TP75 5%
14	深鉢 縄文土器	B (8.1)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆帯と沈線を巡らしている。隆帯は円線で十字である。地文は RL の単節縄文を縦や斜方向に施している。	長石・礫 暗赤褐色 普通	TP76 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
15	深鉢 縄文土器	B (8.0)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口縁部直下には太い沈線を施し隆帯で楕円形の区画文を描出している。区画内にはLRの単節縄文を横方向に施している。	長石・雲 母 普通	TP77 5%
16	深鉢 縄文土器	B (10.4)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆帯と沈線で楕円形の区画文を施している。区画内・外にはクシ状工具による条線文を縦位に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP78 5%
17	深鉢 縄文土器	B (5.8)	波状部片。波状部は外傾して立ち上がる。波状部は扇状に開き、波状部には撚糸文を施している。	長石 にぶい褐色 普通	TP80 5%
18	深鉢 縄文土器	B (8.5)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆帯と沈線で区画文及び渦巻文を施している。渦巻文の下には棒状の工具による刺突文を縦位に施している。区画内にはLRの単節縄文を横方向に施している。	長石 にぶい黄橙色 普通	TP82 5%
19	深鉢 縄文土器	B (4.0)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。棒状工具による沈線で渦巻文を対に配したり、縦位に沈線を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP79 5%
20	深鉢 縄文土器	B (5.5)	口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。口唇部は窪減している。口縁部には3条の太い沈線を垂下させている。地文は撚糸文を施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP83 5%
21	深鉢 縄文土器	B (11.0)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部には沈線を巡らしている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石 にぶい橙色 普通	TP84 5%
22	深鉢 縄文土器	B (8.0)	頸部片。頸部は「く」の字状に外傾して立ち上がる。平行沈線と波状沈線を巡らしている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 褐色 普通	TP85 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
23	土器片錘	6.1	5.3	1.4	40.5	土製	無文。周縁部は荒削り。	DP11

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
24	打製石斧	11.1	7.2	2.1	220.0	頁岩	刃部の幅が狭く、刃部の幅が広い。	Q54
25	凹石	9.9	5.9	3.2	260.0	緑色凝灰岩	自然礫を素材にしている。表面1穿孔。	Q56

第188号土坑（第196～199図）

位置　調査1区の西部，C 4 c5区。

重複関係　本跡は第191・211号土坑と重複しているが，両土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.87m，短径1.45mの楕円形，底面は径2.40mの円形で，深さは88cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

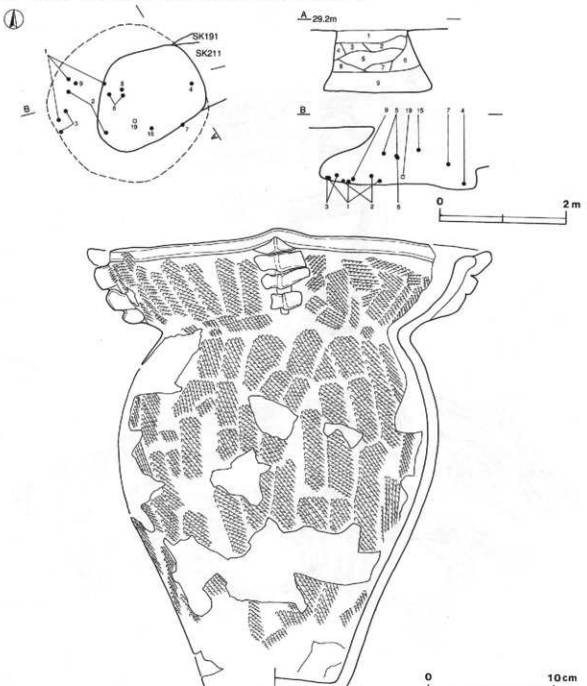
覆土　9層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子少量
3　褐褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　褐褐色　ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐褐色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
9　褐褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量

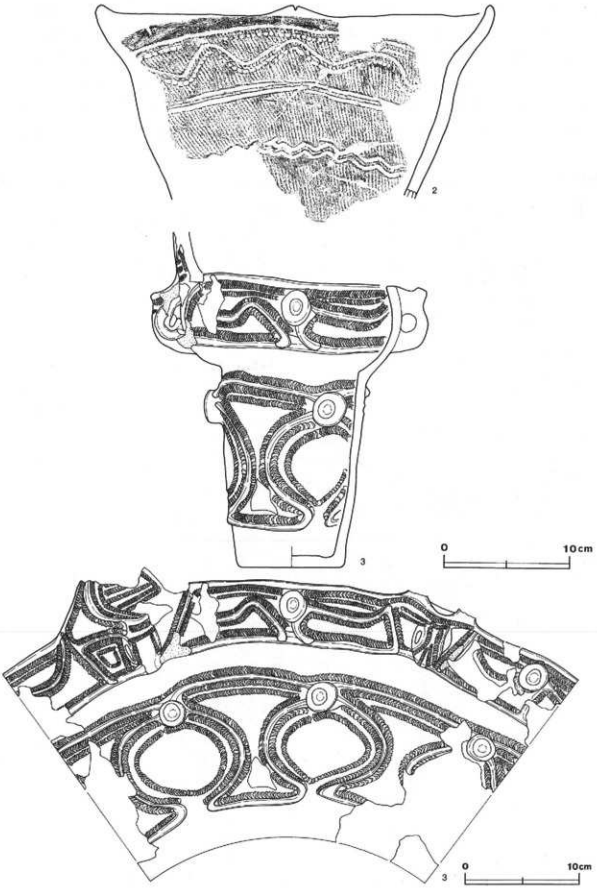
遺物　縄文土器片555点，ミニチュア土器1点，敲石1点，凹石2点が出土している。そのうち縄文土器17点，ミニチュア土器1点，敲石1点，凹石2点を抽出・図示した。第196・197図1・3は胴部が一部欠損する深鉢，2は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，西部の底面からそれぞれ出土している。4は深鉢の口縁部片で，

東部の底面から出土している。9は胴部が一部欠損する深鉢で，西部の底面から出土している。19は凹石で，中央部の覆土下層から出土している。5は小波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，中央部の覆土中層から出土している。7は口縁部に把手を有する深鉢で，東部の覆土中層から出土している。8は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，北部の覆土中層から出土している。15は深鉢の口縁部片で，中央部の覆土中層から出土している。11は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，西部の覆土から出土している。10はミニチュア土器，6・12・13・14は深鉢の口縁部片，16・17・18は深鉢の胴部片，20は凹石，21は敲石で，それぞれ覆土から出土している。

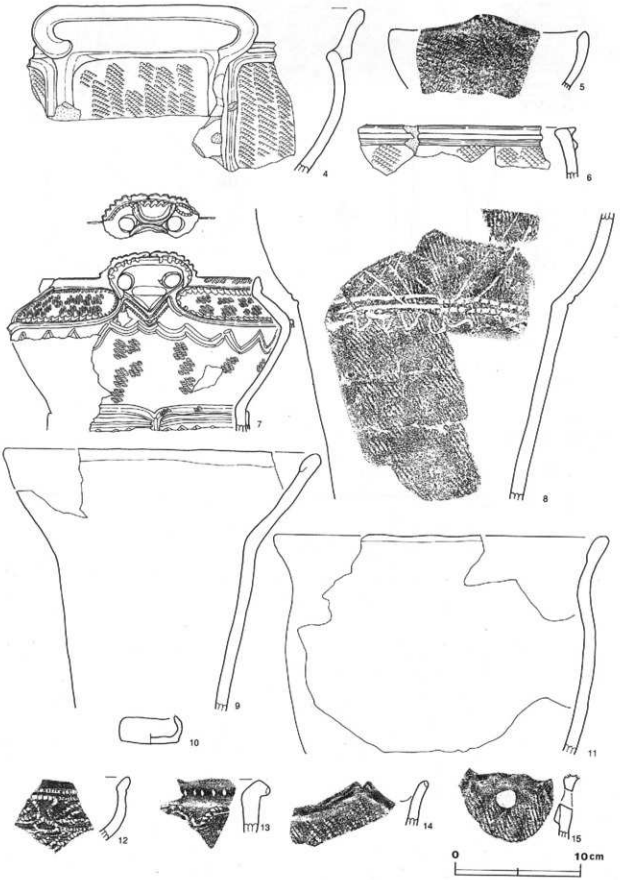
所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



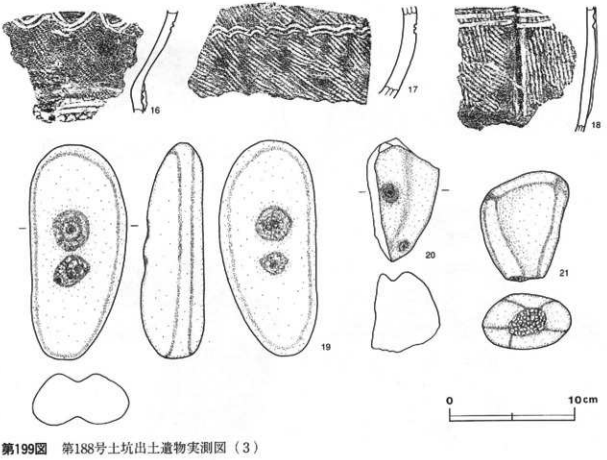
第196図　第188号土坑・出土遺物実測図



第197図　第188号土坑出土遺物実測図（1）



第198図　第188号土坑出土遺物実測図（2）



第199図　第188号土坑出土遺物実測図（3）

第188号土坑出土遺物観察表（第196～199図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A　28.0 B　36.8 C　10.6	胴部の一部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部で外傾する。小波状口縁を呈する。波底部には短い1本の隆帯を貼付し，そこに突出部を作出している。地文はLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 褐色 普通	P225　60% PL27
2	深　鉢 縄文土器	A［30.8］ B（15.5）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はやや内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。小波状口縁を呈する。口唇部直下には複列の結節沈線文を巡らしている。胴部との境には平行沈線を巡らしている。結節沈線文と平行沈線文との間には波状の複列の結節縄文を施している。地文はRLの単節縄文を横方向に施している。	長石・雲母 黒褐色 普通	P228　20%
3	深　鉢 縄文土器	A　17.0 B　26.5 C　8.0	胴部一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部・胴部は隆帯で区画文を描出し，文様の交点には環状の突起を施している。隆帯に沿ってペン先状の工具による結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P226　60% PL27
4	深　鉢 縄文土器	B（13.0）	口縁部片。口唇部には隆帯による楕円形の区画文を施した突出部を作出している。口縁部は隆帯と沈線で区画文を施している。区画内にはLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P229　10%
5	深　鉢 縄文土器	A［15.2］ B　(4.7)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。小波状口縁を呈する。口縁部の内側には稜を持つ。地文はRLの単節縄文を横方向に施している。	長石・雲母 橙色 普通	P230　10%
6	深　鉢 縄文土器	B　(3.9)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部は平坦である。口唇部直下には凹線の沈線が巡る。地文はLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・白色粒子 に赤い赤褐色，普通	P234　5%
7	深　鉢 縄文土器	A［17.5］ B（14.5）	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部には帆状の把手がけく。把手部の隆帯にはキザミを施している。口縁部は隆帯によって楕円形状に区画され，区画内には隆帯に沿って棒状工具による結節沈線文を施している。その直下には波状の沈線文を巡らしている。頸部との境には沈線と波状沈線を巡らしている。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	石英・雲母 に赤い黄橙色 普通	P227　30% PL28

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	深鉢 縄文土器	B〔22.9〕	頸部から胴部にかけての破片。頸部はやや外傾して立ち上がり，頸部で内湾する。頸部との境に複段の結節沈線文を巡らしている。頸部には沈線で区画状の文様を描出している。地文はRの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P233 30%
9	深鉢 縄文土器	A〔25.5〕 B〔20.5〕	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がり，口縁部はやや内湾する。口縁部の内端に稜を持つ。口径直下には隆帯が巡る。胴部は無文。	長石・雲母 灰褐色 普通	P231 70% PL28
10	深鉢 縄文土器	A 4.0 B 2.3 C 4.5	口縁部及び底部の一部欠損。胴部は内傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部の内側に稜を持つ。	長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P236 80% PL28
11	深鉢 縄文土器	A〔26.0〕 B〔17.1〕	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はやや内湾して立ち上がり，口縁部にやや外反する。口縁部から胴部は無文。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P232 30%
12	深鉢 縄文土器	B〔5.0〕	口縁部片。口縁部は内湾して立ち上がる。半截竹管による結節沈線文で文様を描出している。	長石・雲母 褐色 普通	TP88 5%
13	深鉢 縄文土器	B〔4.3〕	口縁部片。口縁部は内湾して立ち上がり，口端部で外傾する。口唇部には隆帯を巡らし，隆帯にはキザミを施している。口縁部には半截竹管による結節沈線文で文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP89 5%
14	深鉢 縄文土器	B〔3.7〕	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内湾して立ち上がる。波頂部の突端にはキザミを施している。地文はRLの単節縄文を横方向に施している。	長石・雲母 明赤褐色 普通	TP90 5%
15	深鉢 縄文土器	B〔5.5〕	波状口縁を呈する口縁部片。波状部には棒状工具による押圧を施している。中央に孔を穿けている。地文はLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP86 5%
16	深鉢 縄文土器	B〔8.0〕	頸部から胴部にかけての破片。頸部は「くJの字状に外傾して立ち上がる。胴部は内湾して立ち上がる。頸部には波状沈線を巡らしている。頸部には連帯で小突出部を作出し，波状沈線と平行沈線を巡らしている。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	TP91 5%
17	深鉢 縄文土器	B〔7.2〕	胴部片。胴部は内湾して立ち上がる。胴部には半截竹管による波状沈線を施している。地文はLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 褐色 普通	TP92 5%
18	深鉢 縄文土器	B〔10.0〕	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。隆帯を垂下させ，半截竹管による結節沈線文を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP93 5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
19	門石	18.0	7.6	5.0	880.0	安山岩	表面2穿孔，裏面2穿孔。	Q58
20	凹石	9.7	5.6	5.4	280.0	砂岩	表面2穿孔。加熱を受け，赤変。	Q59
21	敲石	8.6	7.0	4.4	340.0	安山岩	自然石を素材にして，長軸方向の端部を敲打。	Q57

第189号土坑（第200～202図）

位置　調査1区の西部，C4b5区。

重複関係　本跡は第169号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径2.47m，短径2.02mの楕円形，底面は径2.55mの円形で，深さは85cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　4か所。P1は北壁寄りに位置し，径15cmの円形で，深さは54cmである。P2は東壁寄りに位置し，径22cmの円形で，深さは12cmである。P3は南壁際に位置し，長径25cm，短径20cmの楕円形で，深さは47cmである。P4は中央部に位置し，径15cmの円形で，深さは16cmである。

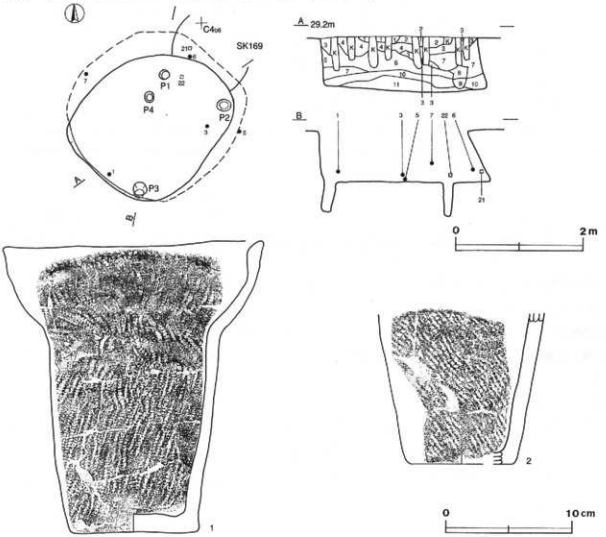
覆土　11層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

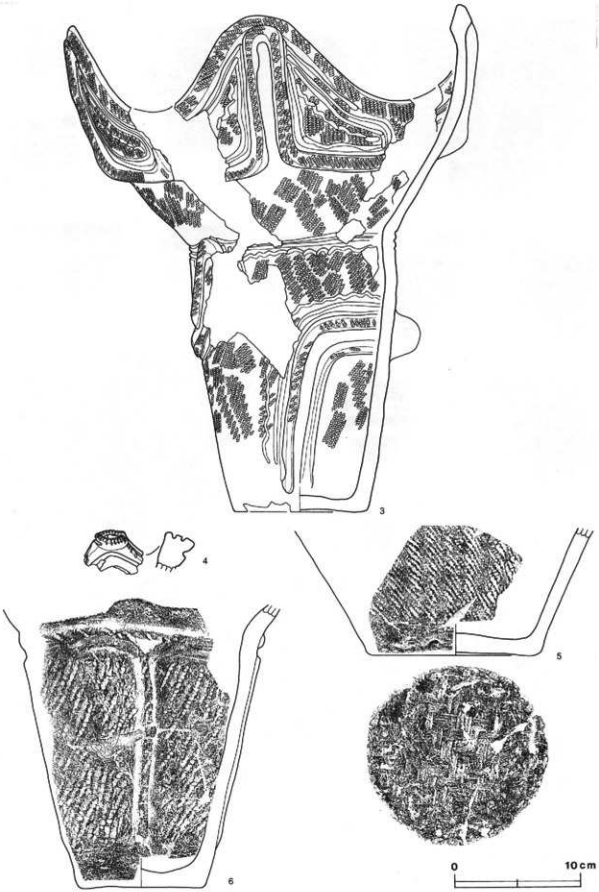
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
4　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
7　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
8　暗褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
10　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
11　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　縄文土器片274点，土器片円盤２点，磨製石斧１点，石皿１点が出土している。そのうち縄文土器18点，土器片円盤２点，磨製石斧１点，石皿１点を抽出・図示した。第201図５は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，東壁際の底面から出土している。１は口縁部が一部欠損する深鉢で，南西部の覆土下層から出土している。３は波状口縁を呈するほぼ完形の深鉢で，東部の覆土下層から出土している。６は口縁部が欠損する深鉢で，北部の覆土下層から出土している。21は凹石で，北壁際の覆土下層から出土している。22は磨製石斧で，北部の覆土下層から出土している。７は深鉢の口縁部片で，北西部の覆土中層から出土している。２は深鉢の胴部から底部にかけての破片，４は深鉢の把手部片，８～15は深鉢の口縁部片，16は浅鉢の口縁部片，17・18は深鉢の胴部片，19・20は土器片円盤で，それぞれ覆土から出土している。

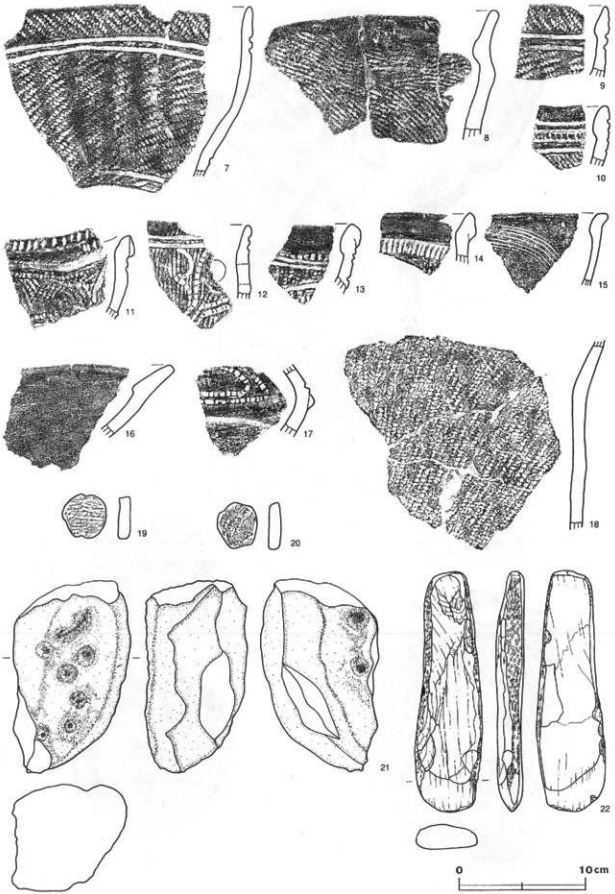
所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。



第200図　第189号土坑・出土遺物実測図



第201図　第189号土坑出土遺物実測図（1）



第202図　第189号土坑出土遺物実測図（2）

第189号土坑出土遺物観察表（第200～202図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	粘土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 20.4 B 22.9 C 10.0	胴部の一部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がり，口縁部は内弯する。口縁部には隆帯が巡る。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P237 90% PL28
2	深鉢 縄文土器	B (11.7) C (8.4)	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。地文はＬの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・パミス 橙色 普通	P241 10%
3	深鉢 縄文土器	A 30.5 B 40.2 C 10.4	口縁部，胴部の一部欠損。大波状口縁を呈する。波状部は隆帯によって区画されている。隆帯に沿って沈線を施し，区画内に波状沈線を施している。区画内・外には Ｒ Ｌの単節縄文を施している。胴部には隆帯と沈線で曲折文等を配する。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P239 80% PL28
4	深鉢 縄文土器	B (3.4)	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部には隆帯と沈線で渦巻文を描出している。波状部には隆帯と沈線を施し，隆帯には半ゼミを施している。	石英・黒色粒子 橙色 普通	P242 5%
5	深鉢 縄文土器	B (10.1) C 13.2	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部はＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・パミス 橙色 普通	P240 30% 底部網代痕有り
6	深鉢 縄文土器	B (22.3) C 9.9	口縁部欠損，胴部の一部欠損。胴部は内弯して立ち上がり，口縁部に至る。頸部との境に隆帯が巡り，「Ｙ」字状の隆帯を垂下させている。垂下した隆帯に沿って沈線を施している。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 赤色粒子 明赤褐色 普通	P238 20% PL28 底部網代痕有り
7	深鉢 縄文土器	B (13.5)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部直下には半截竹管による平行沈線を巡らしている。また，頸部との境に沈線を巡らしている。口唇部直下にＲＬの単節縄文を横方向に，地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP94 5%
8	深鉢 縄文土器	B (10.1)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口縁部の内側には稜を持つ。地文はＬの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP95 5%
9	深鉢 縄文土器	B (6.0)	口縁部片。口唇部は内弯気味に立ち上がる。平行沈線文を巡らしている。口唇部直下にはＲＬの単節縄文を横方向に，地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 灰褐色 普通	TP97 5%
10	深鉢 縄文土器	B (4.9)	口縁部片。口縁部には平行沈線文と爪形文を巡らしている。地文はＲＬの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	TP101 5%
11	深鉢 縄文土器	B (6.5)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部直下には隆帯を巡らしている。隆帯には爪形文を施し，隆帯に沿って提列の結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 橙褐 普通	TP96 5%
12	深鉢 縄文土器	B (5.8)	口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。半截竹管による結節沈線文を巡らし，また，結節沈線文で文様を描出している。文様の中には孔が空けられている。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP98 5%
13	深鉢 縄文土器	B (5.5)	口縁部片。口唇部直下には結節沈線文と平行沈線文を巡らしている。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP99 5%
14	深鉢 縄文土器	B (4.3)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がり，口唇部で外傾する。口唇部直下には爪形文を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP100 5%
15	深鉢 縄文土器	B (5.8)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がり，口唇部でやや外傾する。口縁部には楕円状工具で弧状に沈線を描出している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	TP102 5%
16	浅鉢 縄文土器	B (5.8)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部の内側に稜を持つ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	TP103 5%
17	深鉢 縄文土器	B (5.7)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部肥厚。口縁部には隆帯で楕円形の区画文を施し，区画内には半截竹管による複列の結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP105 5%
18	深鉢 縄文土器	B (15.0)	頸部から胴部にかけての破片。胴部は内弯気味に立ち上がり，頸部は外傾する。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP104 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
19	土器片円盤	3.5	3.4	1.0	14.8	土製	RLの単節縄文。	DP12 PL44
20	土器片円盤	3.7	3.2	0.9	12.8	土製	縄文。周縁部は荒割り。	DP13

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
21	石皿	(15.2)	(9.3)	8.1	(1360.0)	花崗岩	表面8穿孔。裏面2穿孔。	Q61
22	磨製石斧	20.0	5.3	2.1	300.0	緑泥片岩	完形。刃部平面形は円刃。両側縁面に敲打痕。基部側面にタール付着。	Q60 PL46

第192号土坑（第203・204図）

位置　調査1区の西部，C4a3区。

重複関係　本跡が第193号土坑の東側部分を掘り込んでいることから，第193号土坑より新しい。

規模と平面形　開口部は長径2.40m，短径1.97mの楕円形，底面は長径2.40m，短径2.25mの円形，深さは86cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　6か所。P1は北壁際に位置し，長径85cm，短径75cmの楕円形，深さは70cmである。P2は北東壁際に位置し，長径28cm，短径20cmの楕円形，深さは23cmである。P3は北東寄りに位置し，径30cmの円形，深さは26cmである。P4は中央部に位置し，径20cm円形，深さは40cmである。P5は南壁際に位置し，径45cmの円形，深さは28cmである。P6は南西の壁際に位置し，長径40cm，短径30cmの楕円形，深さは49cmである。

第203図　第192号土坑・出土遺物実測図

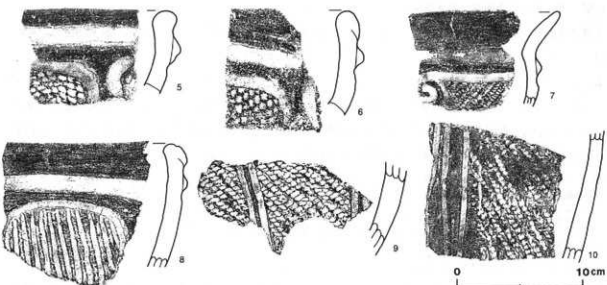
覆土　7層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片199点が出土している。そのうち縄文土器10点を抽出・図示した。第204図7は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片，9は深鉢の胴部片で，中央部の覆土下層から出土している。1は深鉢の胴部片で，西部の覆土中層から出土している。2は深鉢の口縁部片，10は深鉢の胴部片で，それぞれ北部の覆土上層から出土している。3は有孔鍔付土器の破片，4は深鉢の底部片，5・6・8は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第204図　第192号土坑出土遺物実測図

第192号土坑出土遺物観察表（第203・204図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（23.2）	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。沈線を縦位に施している。ＲＬＲの複節縄文を施している。	長石・石英・パミス にぶい褐色 普通	Ｐ244　20%
2	深　鉢 縄文土器	Ａ［21.6］ Ｂ（7.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部には隆帯と沈線で三角状の区画文を施している。また，３条の沈線を垂下させている。地文はＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	Ｐ243　5%
3	有孔鍔付土器 縄文土器	Ｂ（5.0）	鍔部から胴部にかけての破片。鍔部には鍔部の下部から上部に向かって，斜めに孔があけられている。	長石・雲母・針状鉱物 にぶい褐色，普通	Ｐ246　5%
4	深　鉢 縄文土器	Ｂ（4.5） Ｃ　6.1	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文。	パミス・黒色粒子 橙色 普通	Ｐ245　20%
5	深　鉢 縄文土器	Ｂ（6.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。太い沈線で楕円形状の区画文を施している。区画内にはＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 黒褐色 普通	ＴＰ107　5%
6	深　鉢 縄文土器	Ｂ（8.2）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部には太い沈線で楕円形状の区画文を施している。区画内にはＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	ＴＰ108　5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	深鉢 縄文土器	B (7.7)	口縁部片。口縁部は内傾して立ち上がり，口唇部は外挺する。口縁部には沈線で渦巻文を施している。地文はLRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 橙色 普通	TP109 5%
8	深鉢 縄文土器	B (9.6)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。太い沈線を巡らし，隆帯で楕円形の区画文を施している。区画内には棒状工具による沈線を縦方向に施している。	長石・雲母 明褐色 普通	TP106 5%
9	深鉢 縄文土器	B (7.5)	胴部片。胴部はやや外挺して立ち上がる。太い2条の沈線を垂下させている。地文はLRLの複節縄文を縦方向に施している。	長石・礫 にぶい黄橙色 普通	TP111 5%
10	深鉢 縄文土器	B (10.5)	胴部片。胴部はやや外挺して立ち上がる。太い3条の沈線を垂下させている。地文はLRLの複節縄文を縦方向に施している。	長石 灰黄褐色 普通	TP110 5%

第200号土坑（第205・206図）

位置　調査1区の北西部，B4区区。

規模と平面形　開口部は長径2.57m，短径2.30mの楕円形，底面は径2.35mほどの円形で，深さは70cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　4か所。P1は北東の壁際に位置し，径48cmの円形，深さは60cmである。P2は中央部に位置し，径25cmの円形，深さは55cmである。P3は南壁際に位置し，径40cmの円形，深さは36cmである。P4は南西の壁際に位置し，径82cmの円形，深さは62cmである。

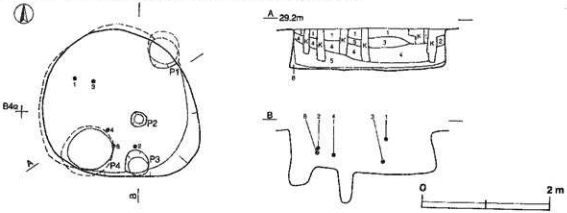
覆土　6層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

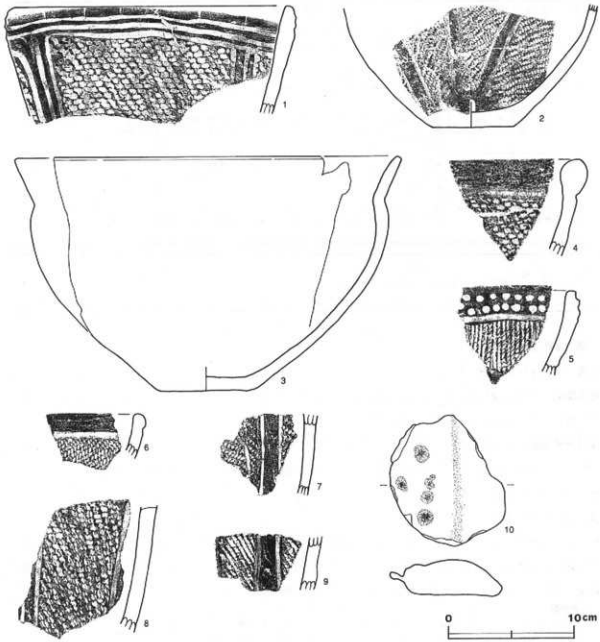
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
3　褐　色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物　縄文土器片82点，凹石1点が出土している。そのうち縄文土器9点，凹石1点を抽出・図示した。第206図2は深鉢の胴部から底部にかけての破片，8は深鉢の胴部片で，それぞれ南部の覆土中層から出土している。3は口縁部から胴部が一部欠損する鉢，4は深鉢の口縁部片で，それぞれ中央部の覆土中層から出土している。1は深鉢の口縁部片で，北西部の覆土上層から出土している。5・6は深鉢の口縁部片，7・9は深鉢の胴部片，10は凹石で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利EⅡ式期)と考えられる。



第205図　第200号土坑実測図



第206図　第200号土坑出土遺物実測図

第200号土坑出土遺物観察表（第206図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文上器	A［21.5］ B　(8.5)	口縁部片。口縁部は直線的に立ち上がる。沈線で区画文を施している。区画内にはＬＲＬの複節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・パミス にぶい黄橙色 普通	P247　5%
2	深　鉢 縄文上器	B　(9.6) C　6.5	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には沈線による懸垂文を施し,沈線間を磨り消している。地文はＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・雲母・パミス 黒褐色 普通	P248　10% 外面一部赤彩
3	鉢 縄文上器	A［30.5］ B　18.6 C　7.4	胴部及び口縁部の一部欠損。胴部は内彎して立ち上がり,口縁部は「く」の字状に立ち上がる。胴部は無文。	石英・パミス・針状 鉱物 にぶい黄橙色,普通	P249　40% PL28 胴部外面赤彩
4	深　鉢 縄文上器	B　(7.6)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯を巡らし,隆帯に平行して沈線文を巡らしている。地文はＬＲＬの複節縄文を横方向に施している。	長石・石英 橙色 普通	TP112　5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	深鉢 縄文土器	B (6.5)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。撚糸L具による斜交文を2段に施し，その下に沈線文を巡らしている。地文は撚糸文を施している。	長石・石英 黒褐色 普通	TP113 5%
6	深鉢 縄文土器	B (3.5)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部には隆帯を施し，その下に沈線文を施している。地文はLRの単節縄文を横方向に施している。	長石 にぶい褐色 普通	TP114 5%
7	深鉢 縄文土器	B (6.5)	胴部片。胴部は内彎気味に立ち上がる。沈線による懸垂文例を磨り消している。沈線で区画した内側にはLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP116 5%
8	深鉢 縄文土器	B (10.2)	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には沈線による懸垂文を施し，沈線例を磨り消している。地文はLRLの複節縄文を施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	TP115 5%
9	深鉢 縄文土器	B (4.5)	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。沈線による懸垂文を施し，沈線例を磨り消している。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP117 5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
10	円石	9.8	9.2	3.0	300.0	花崗岩	自然石を素材にして，表面5箇孔。	Q62

第204号土坑（第207図）

位置　調査1区の西部，B4i4区。

重複関係　本跡は東側部分を第205号土坑に掘り込まれていることから，第205号土坑より古い。第208号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　第205・208号土坑と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，開口部は長径1.88m，短径1.70mの楕円形，底面は長径2.40m，短径2.13mの楕円形で，深さは33cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　3か所。P1は北壁際に位置し，長径84cm，短径74cmの楕円形，深さは59cmである。P2は中央部に位置し，径22cmの円形，深さは30cmである。P3は西壁際に位置し，径50cmの円形，深さは46cmである。

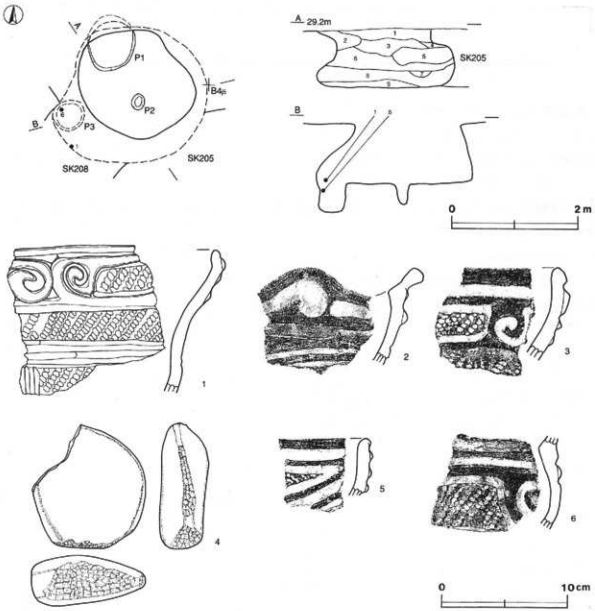
覆土　9層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
7　暗褐色　炭化粒子少量，炭化物微量
8　黒褐色　炭化物・炭化粒子微量
9　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片90点，敲石1点，凹石1点が出土している。そのうち縄文土器5点，敲石1点を抽出・図示した。第207図1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，南西部の覆土下層から出土している。6は深鉢の口縁端部が欠損する口縁部片で，西部の覆土下層から出土している。2・3・5は，深鉢の口縁部片，4は敲石で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利EⅠ式期)と考えられる。



第207図　第204号土坑・出土遺物実測図

第204号土坑出土遺物観察表（第207図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B（11.4）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯と沈線で区画文や渦巻文を施している。胴部との境には沈線を巡らしている。区画内外にはＬＲの単節縄文が地文に施されている。	長石・雲母 にぶい黄色 普通	P250　5％
2	深鉢 縄文土器	B（7.6）	波状口縁を呈する口縁部片。波状部には隆帯と太い沈線で渦巻文を施している。その下方に棒状工具による平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP118　5％
3	深鉢 縄文土器	B（7.3）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。沈線で渦巻文や楕円形の区画文を施している。区画内にはＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 橙色 普通	TP119　5％
5	深鉢 縄文土器	B（4.5）	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。隆帯と沈線で区画文を施している。区画内にはＲＬの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP120　5％
6	深鉢 縄文土器	B（7.4）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部は肥減。隆帯や沈線で渦巻文や区画文を施している。区画内にはＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	TP121　5％

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	硯石	9.8	9.0	3.7	400.0	砂岩	自然石を素材にして，側面を敲打。	Q63

第205号土坑（第208・209図）

位置　調査１区の西部，Ｂ４j4区。

重複関係　本跡が第204号土坑の東側部分を掘り込んでいることから，第204号土坑より新しい。第206，208号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径2.35mほどの円形，底面は長径3.25m，短径2.80mの不定形で，深さは94cmである。

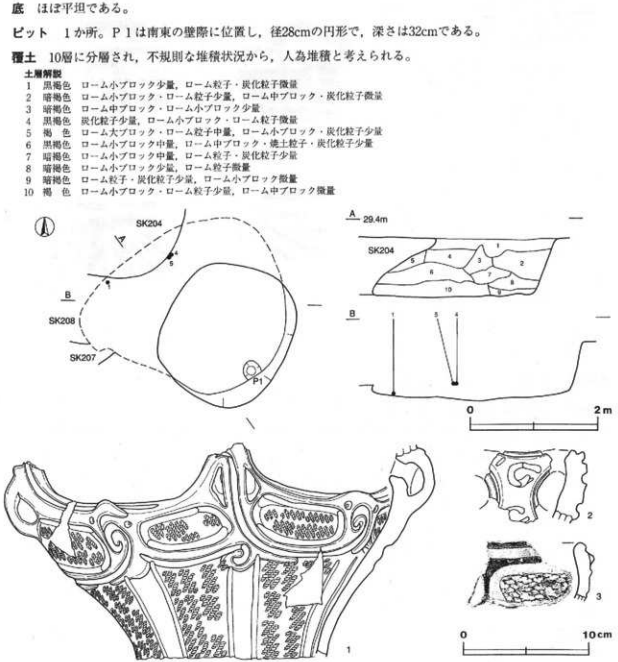
壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　１か所。Ｐ１は南東の壁際に位置し，径28cmの円形で，深さは32cmである。

覆土　10層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

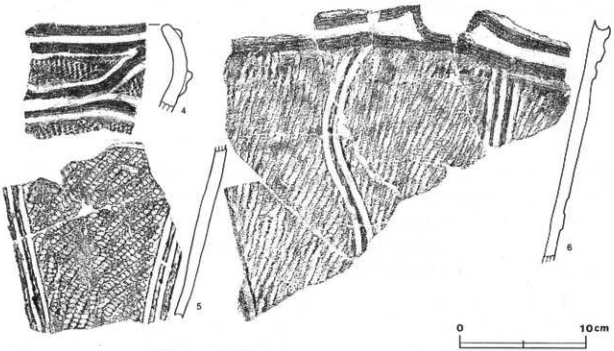
土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4　黒褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
5　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
10　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量



第208図　第205号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片225点が出土している。そのうち縄文土器６点を抽出・図示した。第209図１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，西部の底面から出土している。４は深鉢の口縁部片，５は深鉢の胴部片で，それぞれ東部の覆土下層から出土している。２は深鉢の把手部片，３は深鉢の口縁部片，６は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅡ式期)と考えられる。



第209図　第205号土坑出土遺物実測図

第205号土坑出土遺物観察表（第208・209図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A［29.2］ B（17.0）	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部はやや内彎して立ち上がる。波状口縁を呈する。口縁部には隆帯と沈線で楕円形の区画文や渦巻文を描いている。口縁部の区画内外にはRLの単節縄文を横方向に施している。胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P252　30%
2	深鉢 縄文土器	B（5.7）	把手部片。眼鏡状を呈する。孔に沿って沈線を施している。把手部には沈線で渦巻文を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P253　5%
3	深鉢 縄文土器	B（5.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。沈線で楕円形の区画文を施している。区画内にはＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 橙色 普通	TP123　5%
4	深鉢 縄文土器	B（7.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯と沈線で楕円形の区画文を施している。区画内にはＲＬの単節縄文を縦や斜方向に施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	TP122　5%
5	深鉢 縄文土器	B（13.5）	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。２条から３条の沈線を垂下させている。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP125　5%
6	深鉢 縄文土器	B（19.3）	口縁部から胴部にかけての破片。波状口縁を呈する。波頂部は一部欠損しているが，双頭と思われる。胴部には２条の波状沈線と３条の沈線を垂下させている。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・礫 にぶい橙色 普通	TP124　5%

第213号土坑（第210・211図）

位置　調査１区の西部，Ｃ４b4区。

重複関係　本跡は第212号土坑と重複しているが，それらの土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　第212号土坑と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，長径2.57m，短径2.14mの楕円形，深さは43cmである。

壁　円筒状を呈し，ほぼ直立する。

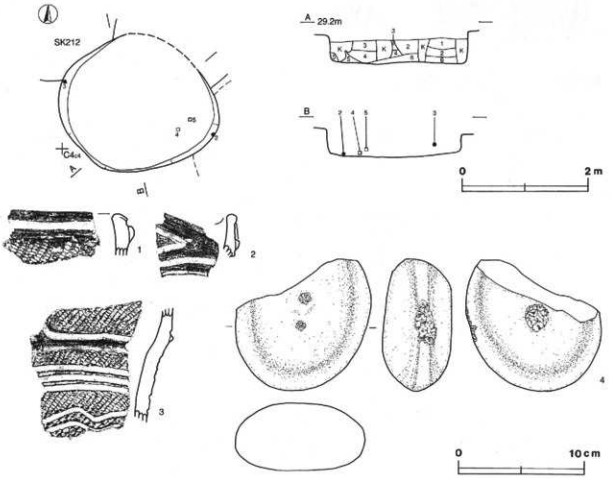
底　ほぼ平坦である。

覆土　６層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

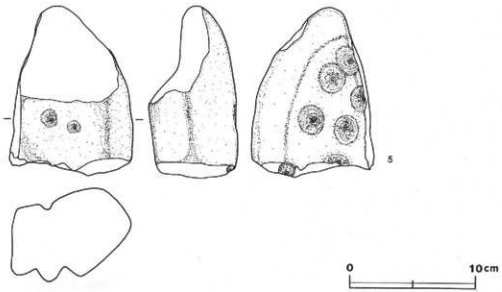
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量

遺物　縄文土器片43点，敲石１点，凹石１点が出土している。そのうち縄文土器３点，敲石１点，凹石１点を抽出・図示した。第210図２は深鉢の口縁部片で，南東部の底面から出土している。４は敲石で，南東部の覆土下層から出土している。５は凹石で，南東部の覆土下層から出土している。３は深鉢の胴部片で，西壁際の覆土中層から出土している。１は深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利Ｅ１式期)と考えられる。



第210図　第213号土坑・出土遺物実測図



第211図　第213号土坑出土遺物実測図

第213号土坑出土遺物観察表（第210・211図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（3.1）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下には沈線を施している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	TP126　5％ 外面赤彩
2	深　鉢 縄文土器	B（3.5）	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部欠損。波状部は沈線で区画し，区画内には縄文を施している。波底部には沈線を施している。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP127　5％
3	深　鉢 縄文土器	B（9.0）	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。隆帯と沈線で楕円形の区画文を施している。区画文の下には3条の太い沈線と波状沈線を巡らしている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP128　5％

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	礎　石	(10.9)	(10.6)	(5.5)	(760.0)	砂　岩	自然石を素材にして，側面を敲打。	Q65
5	石錘(円石)	13.5	9.8	7.1	1040.0	砂　岩	表面2穿孔。裏面5穿孔。	Q67

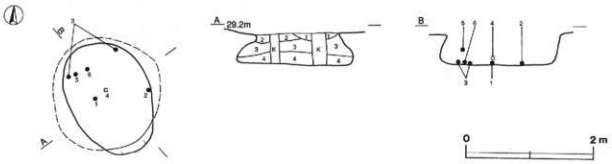
第219号土坑（第212・213図）

位置　調査1区の西部，B 4j7区。

規模と平面形　開口部は長径1.90m，短径1.30mの楕円形，底面は径1.82mほどの円形で，深さは53cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。



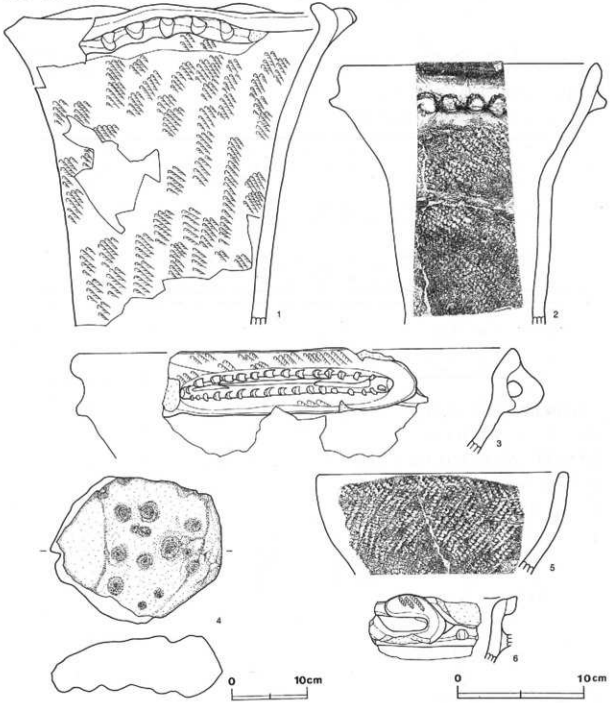
第212図　第219号土坑実測図

覆土　4層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片188点，石皿1点が出土している。そのうち縄文土器5点，石皿1点を抽出・図示した。第213図1は底部が欠損する深鉢で，中央部の底面から横位で出土している。2は底部が欠損する深鉢で，東壁際の底面から出土している。3・6は深鉢の口縁部片，4は石皿で，それぞれ覆土下層から出土している。5は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期)と考えられる。



第213図　第219号土坑出土遺物実測図

第219号土坑出土遺物観察表（第213図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A［23.1］ B（25.3）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。口唇部直下には狭い隆帯を3単位結付し，隆帯には指頭による押圧を施している。地文はLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P254 40% P L28
2	深鉢 縄文土器	A［20.0］ B（70.5）	底部欠損。胴部，口縁部とも内彎して立ち上がる。口唇部直下には隆帯が巡り，隆帯には縄文による押圧を施している。地文は単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P255 60% P L28
3	深鉢 縄文土器	A［34.2］ B（8.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯で楕円形の区画文を施している。区画内には瓢形文と沈線で文様を描出している。口唇部には突出部を作出し，Rの無節縄文を横方向に施している。	石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P256 10%
5	深鉢 縄文土器	A［19.6］ B（7.9）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部は平坦である。地文はRLの単節縄文を施文方向を変えることにより，羽状縄文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P257 5%
6	深鉢 縄文土器	B（5.4）	口縁部片。口縁部には押圧を加えた隆帯で楕円形の区画文を施している。隆帯にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P258 5%

図版番号	器種	計測値				石質	時期	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	石皿	（19.4）	（22.7）	8.7	（2640.0）	凝灰岩	多穿孔が表裏に存在する。	Q68

第221号土坑（第214・215図）

位置　調査1区の北西部，B4b7区。

重複関係　本跡は第282号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は径1.65mの円形，底面は径2.50mの円形で，深さは90cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

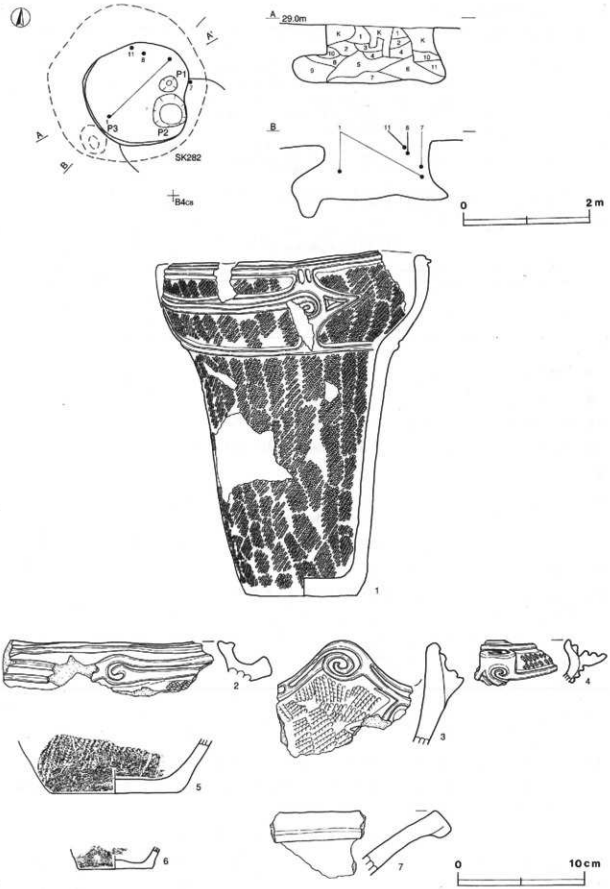
ピット　3か所。P1は東部に位置し，長径30cm，短径24cmの楕円形，深さは24cmである。P2は南東部に位置し，径55cmの円形，深さは29cmである。P3は南西の壁際に位置し，長径50cm，短径38cmの楕円形，深さは32cmである。

覆土　11層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

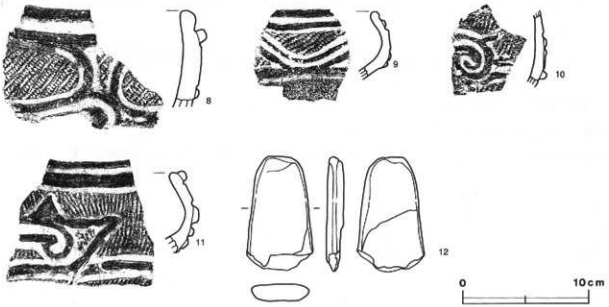
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子多量
8　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
10　褐　色　ローム大ブロック多量
11　暗黒色　ローム大ブロック多量，ローム粒子中量

遺物　縄文土器片225点，磨製石斧1点が出土している。そのうち縄文土器11点，磨製石斧1点を抽出・図示した。第214図1は口縁部，胴部が一部欠損する深鉢で，覆土中層から出土している。7は浅鉢の口縁部片で，東壁際の覆土中層から出土している。8は深鉢の口縁部片で，北部の覆土下層から出土している。11は深鉢の口縁部片で，北部の覆土上層から出土している。2・4・9・10は深鉢の口縁部片，3は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，5は深鉢の底部片，6はミニチュア土器の底部片，12は磨製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利EⅠ式期)と考えられる。



第214図　第221号土坑・出土遺物実測図



第215図　第221号土坑出土遺物実測図

第221号土坑出土遺物観察表（第214・215図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［20.6］ B 27.0 C　8.8	口縁部から胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部は隆帯と沈線で区画や渦巻文を施している。区画内及び胴部にはＲＬの単節縄文を施している。	長石・石英 灰褐色 普通	Ｐ263　98％ ＰＬ28
2	深　鉢 縄文土器	B　(4.6)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部は凹線の沈線が巡る。口縁部は隆帯と沈線で区画され，突出した渦巻文を施している。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	Ｐ264　5％
3	深　鉢 縄文土器	B　(9.2)	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部には隆帯と沈線で渦巻文を描出している。地文はＬの無節縄文を縦や斜方向に施している。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	Ｐ265　5％
4	深　鉢 縄文土器	B　(3.5)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部は沈線が巡る。口唇部直下に突出した隆帯と沈線で渦巻文を施している。口縁部は隆帯で区画文を施し，区画内にはＲＬの単節縄文を横方向に施している。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	Ｐ266　5％
5	深　鉢 縄文土器	B　(4.3) C　10.0	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。3条の沈線を垂下させ，ＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙褐色 普通	Ｐ267　5％
6	ミニチュア土器 縄文土器	B　(1.7) C　5.8	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	Ｐ268　5％
7	浅　鉢 縄文土器	B　(7.4)	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部は外傾して立ち上がり，口唇部で「く」の字状に外傾する。口唇部は平坦。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	Ｐ270　5％ 胴部赤彩
8	深　鉢 縄文土器	B　(7.5)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。口唇部直下には沈線を施している。口縁部は隆帯と沈線で楕円形の区画文や渦巻文を施している。区画内にはＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・礫 灰褐色 普通	ＴＰ129　5％
9	深　鉢 縄文土器	B　(5.5)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯と沈線で楕円形の区画文を施している。区画内にはＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	ＴＰ131　5％
10	深　鉢 縄文土器	B　(6.0)	口縁部片。口唇部欠損。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯で渦巻文を貼付している。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	ＴＰ132　5％
11	深　鉢 縄文土器	B　(6.5)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部には凹線の沈線を施している。口縁部は隆帯と沈線で渦巻状の文様を描出している。地文はＲＬの単節縄文を斜方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	ＴＰ130　5％

図版番号	器 種	計測値				石 質	特 徴	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	磨製石斧	(9.0)	5.2	1.3	(100.0)	緑 泥 片 岩	頭部，刃部一部欠損。刃部の平面形は円刃。	Q69

第222号土坑（第216～218図）

位置　調査１区の北西部，Ｂ４a5区。

規模と平面形　開口部は長径1.22m，短径1.10mの楕円形，底面は長径2.25m，短径2.20mの円形で，深さは90cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

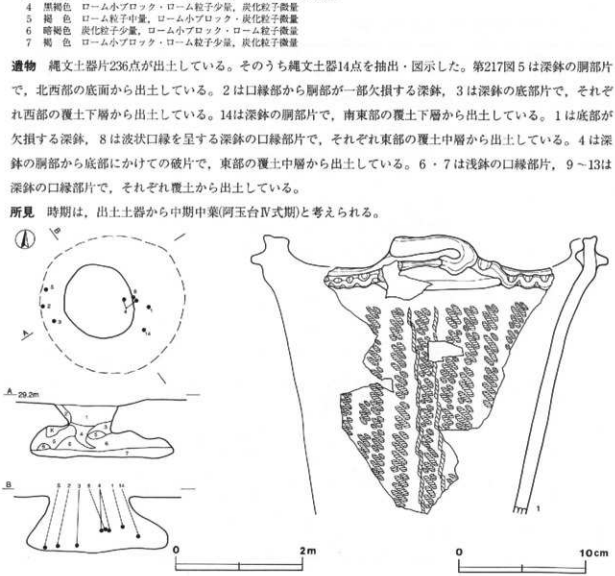
覆土　７層に分層され，不規則な堆積状況やロームブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

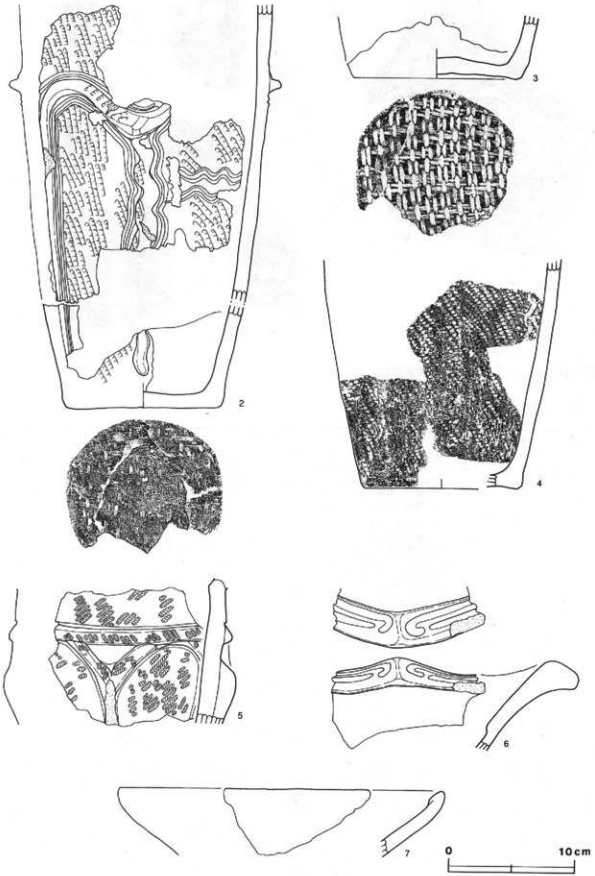
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
7　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　縄文土器片236点が出土している。そのうち縄文土器14点を抽出・図示した。第217図５は深鉢の胴部片で，北西部の底面から出土している。２は口縁部から胴部が一部欠損する深鉢，３は深鉢の底部片で，それぞれ西部の覆土下層から出土している。14は深鉢の胴部片で，南東部の覆土下層から出土している。１は底部が欠損する深鉢，８は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，それぞれ東部の覆土中層から出土している。４は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，東部の覆土中層から出土している。６・７は浅鉢の口縁部片，９～13は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

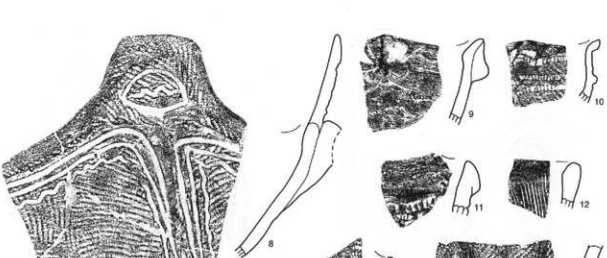
所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。



第216図　第222号土坑・出土遺物実測図



第217図　第222号土坑出土遺物実測図（1）



第218図　第222号土坑出土遺物実測図（２）

第222号土坑出土遺物観察表（第216～218図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A［25.0］ B（21.9）	口縁部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎して立ち上がる。波状口縁を呈する。口唇部には４単位の横Ｓ字を施し，胴部にはＬＲの単節縄文を縦方向に，波頂部下に２条の微隆文を縦に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	Ｐ271　10%
2	深鉢 縄文土器	B（31.7） C　12.3	口縁部欠損，胴部の一部欠損。胴部は内彎して立ち上がる。胴部は並行隆帯を施し，その一部に突出部を作出している。そこから波状の隆帯を縦位に施している。隆帯に沿って平行沈線文を施している。横位に波状沈線文を巡らしている。地文はＬの無節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	Ｐ273　20% 底部柄代痕有り
3	深鉢 縄文土器	B　（5.0） C　13.0	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部は無文で研磨している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	Ｐ272　10% 底部柄代痕有り
4	深鉢 縄文土器	B（18.0） C［12.0］	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部にはＲＬの単節縄文を横方向に施している。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	Ｐ274　20%
5	深鉢 縄文土器	B（11.8）	胴部片。胴部には隆帯が巡り，その一部に「Ｖ」字状の隆帯が貼られている。胴部上面と隆帯にはＲＬの単節縄文を縦方向に施している。地文はＬＲの単節縄文を施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	Ｐ275　5%
6	浅鉢 縄文土器	B　（7.2）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。内側に稜を持つ。外面は無文。内面に沈線で渦巻文を配している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	Ｐ276　5% 内・外面赤彩
7	浅鉢 縄文土器	A［25.4］ B　（5.2）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がり，口唇部で直線的に立ち上がる。内・外面無文。	長石・石英・雲母 黒色粒子 にぶい橙色，普通	Ｐ277　5% 内・外面赤彩
8	深鉢 縄文土器	B（17.6）	口縁部から胴部にかけての破片。波状口縁を呈する。口縁部は内彎して立ち上がる。波状部は沈線で楕円形の区画文を施している。区画内には波状沈線文を施している。波底部は隆帯で「Ｙ」字状に垂下させている。波底部には平行沈線文や波状沈線文を楕円形に区画している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	ＴＰ133　5%
9	深鉢 縄文土器	B　（7.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。波状口縁を呈する。波状部には隆帯で山形状の突出部を作出している。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	ＴＰ134　5%

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
10	深　鉢 縄文土器	B（5.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部には「V」字状の隆帯を貼付し，隆帯に平行して結節沈線文を施している。口縁部には隆帯を巡らし，隆帯の上下に結節沈線文を施している。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP137　5%
11	深　鉢 縄文土器	B（4.3）	口縁部片。波状口縁を呈すると思われる。波状部欠損。口縁部は外傾して立ち上がる。隆帯を巡らし，隆帯に平行して爪形文を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい橙褐 普通	TP136　5%
12	深　鉢 縄文土器	B（4.0）	口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。クシ状工具による条線文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP138　5%
13	深　鉢 縄文土器	B（5.8）	口縁部片。口唇部欠損。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下には断面四角形の隆帯を巡らしている。隆帯上と隆帯の側面に爪形文を施している。口縁部には斜位に爪形文を施している。地文はRLの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	TP140　5%
14	深　鉢 縄文土器	B（9.2）	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP141　5%

第223号土坑（第219図）

位置　調査１区の南西部，Ｃ４d1区。

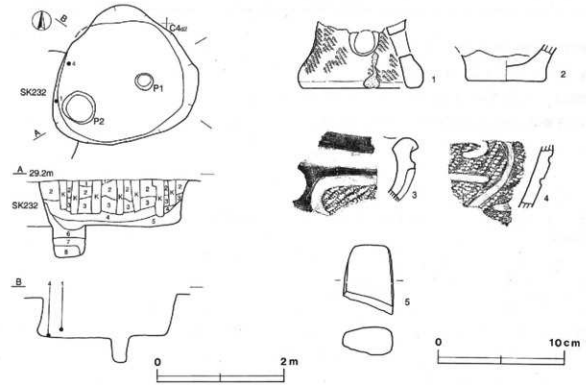
重複関係　本跡が第232号土坑の東側部分を掘り込んでいることから，第232号土坑より新しい。

規模と平面形　第232号土坑と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，開口部は長径2.35m，短径2.17mの円形，底面は長径1.95m，短径1.85mの円形で，深さは70cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　２か所。Ｐ１は東壁寄りに位置し，径28cmの円形で，深さは40cmである。Ｐ２は西壁際に位置し，径55cmの円形で，深さは53cmである。



第219図　第223号土坑・出土遺物実測図

覆土　8層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
7　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
8　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

遺物　縄文土器片164点，磨製石斧1点が出土している。そのうち縄文土器4点，磨製石斧1点を抽出・図示した。第219図4は深鉢の胴部片で，西壁際の底面から出土している。1は台付鉢で，覆土下層から正位で出土している。2は深鉢の底部片，3は深鉢の口縁部片，5は磨製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利E Ⅰ式期)と考えられる。

第223号土坑出土遺物観察表（第219図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	台付鉢 縄文土器	B（5.3） C　9.1	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く張る。4方に穿孔し，Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P279　10% PL29
2	深　鉢 縄文土器	B（3.0） C　6.2	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部は無文で研磨している。	長石・石英・パミス 灰黄褐色 普通	P278　5%
3	深　鉢 縄文土器	B（5.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯と沈線で楕円形の区画文を施している。区画内には R L の単節縄文を縦方向に施している。	長石 灰褐色 良好	TP142　5%
4	深　鉢 縄文土器	B（5.0）	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。沈線で渦巻状の文様や太い沈線を施している。地文は R L の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP143　5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
5	磨製石斧	(5.5)	4.6	2.2	(80.0)	緑色凝灰岩	刃部欠損。	Q71

第227号土坑（第220図）

位置　調査1区の中央部，B 4 h8区。

重複関係　第228号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.57m，短径1.25mの楕円形，底面は長径1.96m，短径1.61mの楕円形で，深さは75cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

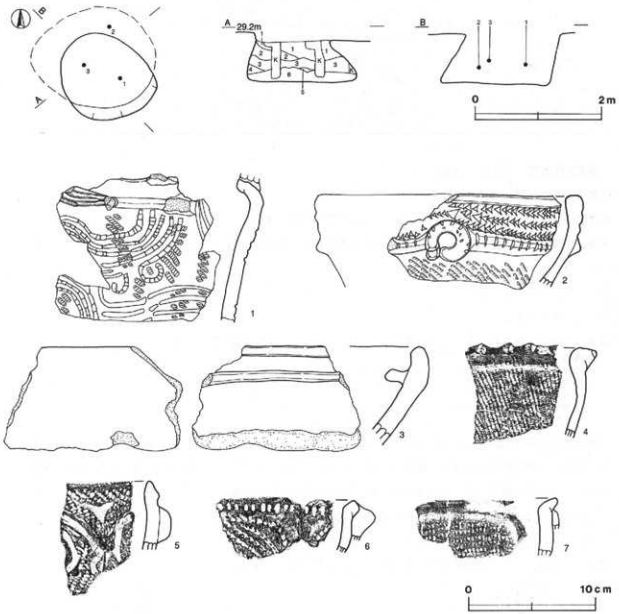
覆土　6層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
2　黒褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　炭化物・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　焼土パミス小ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　褐　色　炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　縄文土器片102点が出土している。そのうち縄文土器7点を抽出・図示した。第220図1は深鉢の口縁部片で，覆土中層から横位で出土している。2は深鉢の口縁部片，3は浅鉢の口縁部片で，覆土中層から出土している。4～7は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台式Ⅳ式期)と考えられる。



第220図　第227号土坑・出土遺物実測図

第227号土坑出土遺物観察表（第220図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B（11.7）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。結節沈線で渦巻状の文様を描出している。地文は RL の単節縄文を施している。	石英・雲母・赤色粒子橙色 普通	P281　5％
2	深鉢 縄文土器	A［20.4］ B（7.4）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下には複列の三角押文を施している。三角押文に沿って隆帯を巡らし，渦巻文を施している。隆帯には爪形文を施している。地文は L の無節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P282　5％
3	浅鉢 縄文土器	B（7.8）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。内側には深い沈線と隆帯を巡らしている。外面は無文。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P283　5％ 内・外面赤彩
4	深鉢 縄文土器	B（7.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。内面肩減。隆帯を巡らし，隆帯には指頭による押圧を施している。地文は LR の単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	TP144　5％

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	深鉢 縄文土器	B〔5.5〕	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆帯を突出させ，「V」字状の隆帯を施している。隆帯に沿って棒状工具による沈線を施している。隆帯にはRLの単節縄文を横方向に，地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母・礫 にぶい赤褐色 普通	TP145　5%
6	深鉢 縄文土器	B〔4.2〕	口縁部片。口縁部は内弯気味に立ち上がる。口縁部の内側に接を持つ。口縁部には隆帯が巡り，一部に形状の突出部を作出している。複列の結節沈線文を施している。隆帯にはキザミを施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP146　5%
7	深鉢 縄文土器	B〔4.6〕	口縁部片。口縁部は内弯気味に立ち上がり，口唇部は外傾して立ち上がる。口縁部には隆帯が巡り，そこから指内状の区画文を施している。区画内には半截竹管による連続刺突文を施している。	長石・石英・雲母・礫 にぶい赤褐色，普通	TP147　5%

第228号土坑（第221～223図）

位置　調査1区の北部，B 4 g8区。

重複関係　第227号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径2.08m，短径1.70mの楕円形，底面は長径2.10m，短径1.97mの楕円形で，深さは40cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

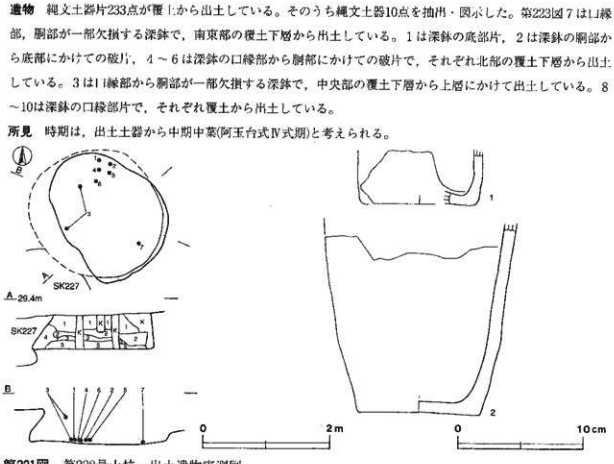
底　ほぼ平坦である。

覆土　5層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

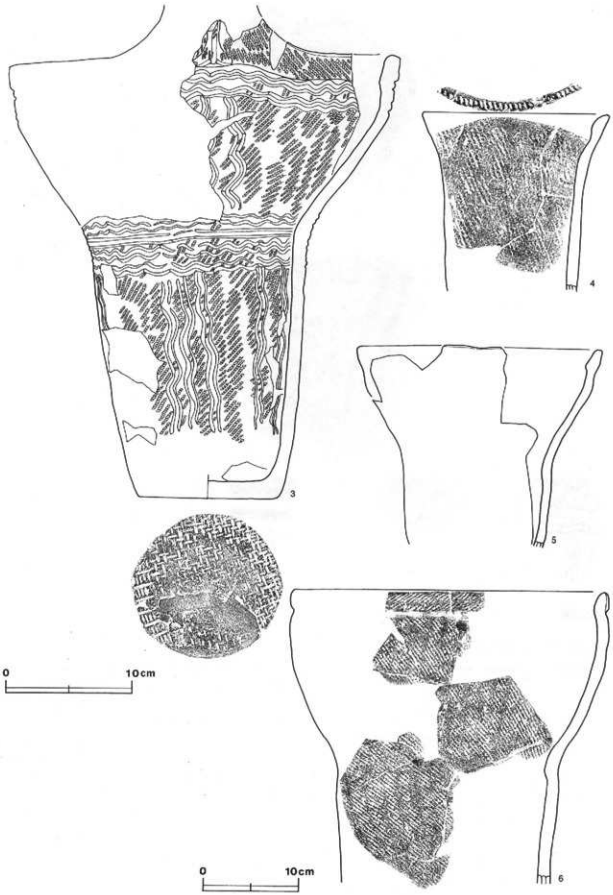
土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片233点が覆土から出土している。そのうち縄文土器10点を抽出・図示した。第223図7は口縁部，胴部が一部欠損する深鉢で，南東部の覆土下層から出土している。1は深鉢の底部片，2は深鉢の胴部から底部にかけての破片，4～6は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，それぞれ北部の覆土下層から出土している。3は口縁部から胴部が一部欠損する深鉢で，中央部の覆土下層から上層にかけて出土している。8～10は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

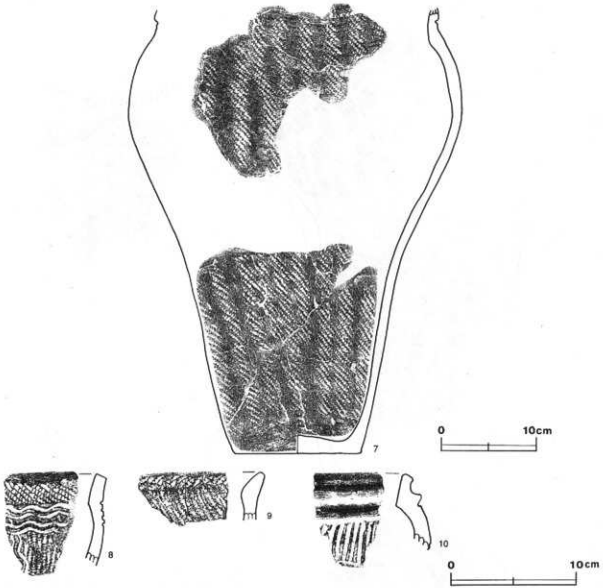
所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台式Ⅳ式期)と考えられる。



第221図　第228号土坑・出土遺物実測図



第222図　第228号土坑出土遺物実測図（1）



第223図　第228号土坑出土遺物実測図（2）

第228号土坑出土遺物観察表（第221～223図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（4.4） C［9.2］	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は無文。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P290　5%
2	深　鉢 縄文土器	B（15.2） C　9.5	口縁部欠損，胴部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P289　40%
3	深　鉢 縄文土器	A［29.5］ B（37.5） C　11.0	口縁部から胴部の一部欠損。波状口縁を呈する。波状部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁はやや内彎する。口縁部には2条の平行波状沈線を巡らしている。口縁部と胴部との境には，3条の波状沈線と平行沈線が巡り，また，波状沈線を垂下させている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P284　60% PL28 底部網代痕有り
4	深　鉢 縄文土器	A　14.8 B（14.0）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。口唇部には，キザミを施している。胴部にはLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P288　40%
5	深　鉢 縄文土器	A［25.6］ B（20.9）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はやや内彎して立ち上がり，口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部の内側に稜を持つ。口唇部は平坦。無文。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P287　30%

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
6	深　鉢 縄文土器	A［32.8］ B（31.0）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部には隆帯が巡り，隆帯にはLの無節縄文が施されている。胴部にはRの無節縄文を施している。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P286　20%
7	深　鉢 縄文土器	B（47.0） C　13.8	口縁部欠損。胴部から口縁部は外傾して立ち上がる。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P285　50%
8	深　鉢 縄文土器	B（7.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。内側に稜を持つ。手載竹管による波状沈線文を巡らしている。また，波状沈線文を垂下させている。隆帯はRLの単節縄文を横方向に施し，地文はRLの単節縄文を斜方向に施している。	長石・雲母・礫 にぶい赤褐色 普通	TP148　5%
9	深　鉢 縄文土器	B（4.0）	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がり，口唇部で外傾して立ち上がる。口唇部にはLRの単節縄文を横方向に施している。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	雲母・礫 にぶい赤褐色 普通	TP149　5%
10	深　鉢 縄文土器	B（6.2）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がり，口唇部でやや外傾して立ち上がる。口唇部直下には太い沈線を巡らしている。口縁部には沈線で区画文を施し，棒状工具で斜方向に沈線を施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	TP150　5%

第229号土坑（第224図）

位置　調査1区の北部，B4g7区。

規模と平面形　開口部は長径1.68m，短径1.20mの楕円形，底面は長径1.40m，短径1.12mの楕円形で，深さは20cmである。

壁　円筒状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

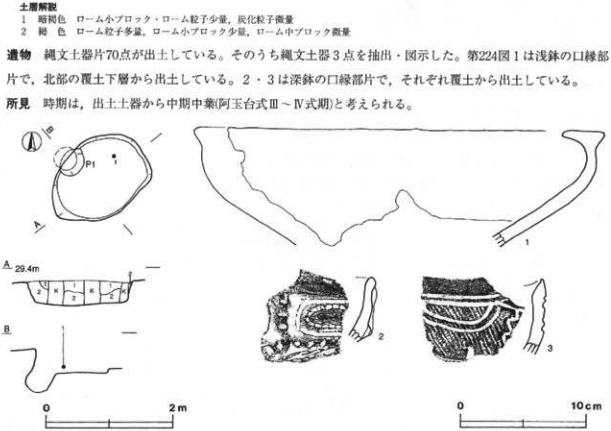
ピット　1か所。P1は北西の壁際に位置し，径48cmの円形で，深さは32cmである。

覆土　2層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物　縄文土器片70点が出土している。そのうち縄文土器3点を抽出・図示した。第224図1は浅鉢の口縁部片で，北部の覆土下層から出土している。2・3は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台式Ⅲ～Ⅳ式期)と考えられる。



第224図　第229号土坑・出土遺物実測図

第229号土坑出土遺物観察表（第224図）

図版番号	器　様	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	浅　鉢 縄文土器	A「31.4」 B（9.2）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部は内面に肥厚する。外面無文。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P291　20% 口縁部赤彩
2	深　鉢 縄文土器	B（5.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。内面に細い稜を持つ。キザミを施した隆帯で区画文を施している。区画内には複列の結節沈線文で楕円形の文様を描出している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP151　5%
3	深　鉢 縄文土器	B（6.0）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。波状部は欠損している。内面に稜を持つ。複列の結節沈線文で文様を描出している。その延長上に波状沈線を垂下させている。縄文はRLの単節縄文を横力向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP152　5%

第238号土坑（ＳＫ259）（第225・226図）

位置　調査１区の西部，Ｂ４i7区。

重複関係　第４号竪穴状遺構に掘り込まれていることから，第４号竪穴状遺構より古い。

規模と平面形　開口部は長径1.24m，短径1.10mの楕円形，底面は長径2.20m，短径2.04mの円形で，深さは120cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

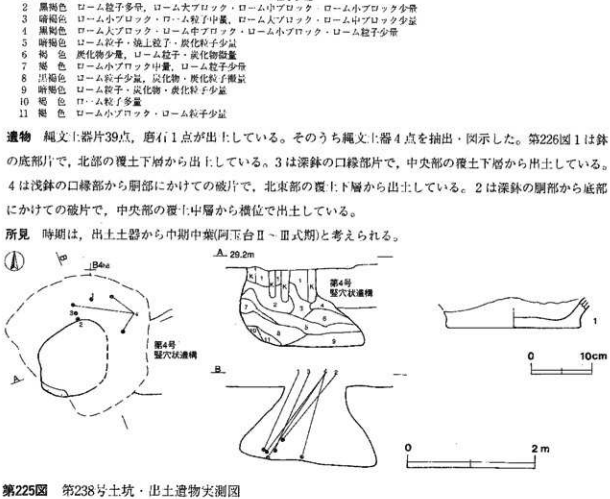
底　ほぼ平坦である。

覆土　11層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

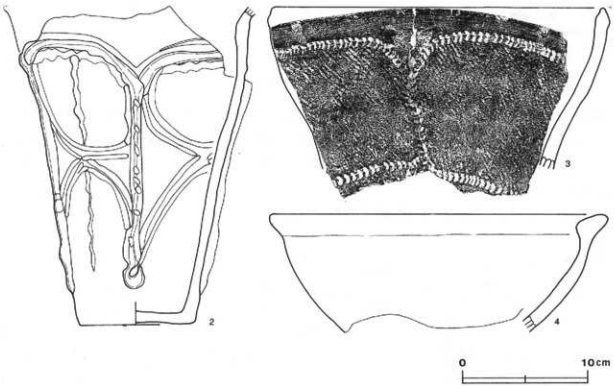
土層解説
1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
4　黒褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　色　炭化物少量，ローム粒子・炭化物微量
7　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
8　黒褐色　ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量
10　褐　色　ローム粒子多量
11　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　縄文土器片39点，磨石１点が出土している。そのうち縄文土器４点を抽出・図示した。第226図１は鉢の底部片で，北部の覆土下層から出土している。３は深鉢の口縁部片で，中央部の覆土下層から出土している。４は浅鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，北東部の覆土下層から出土している。２は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，中央部の覆土中層から横位で出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期)と考えられる。



第225図　第238号土坑・出土遺物実測図



第226図　第238号土坑出土遺物実測図

第238号土坑出土遺物観察表（第225・226図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	鉢 縄文土器	B（2.5） C　10.3	底部片。底部から胴部にかけて外傾して立ち上がる。	石英・パミス 灰黄褐色 普通	P295　5％
2	深　鉢 縄文土器	B（25.0） C　9.0	口縁部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には隆帯と沈線で文様が構成されている。胴部上面から垂下した「Y」字状の隆帯には，指頭による押圧を施している。隆帯内には波状沈線や楕円形状の沈線を施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P293　60％ P L 28
3	深　鉢 縄文土器	A［26.0］ B（12.9）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。内側に稜を持つ。口縁部に隆帯を巡らし，隆帯に沿って三角押文を施している。三角押文で「V」字状の文様を描出している。	長石・雲母 にぶい黒褐色 普通	P292　5％
4	浅　鉢 縄文土器	A　26.0 B（9.3）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はやや内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口唇部は丸味を帯びて立ち上がる。胴部は無文。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P294　10％ P L 29 胴部内・外面赤彩

第239号土坑（第227・228図）

位置　調査１区の北西部，Ｂ４区区。

重複関係　西側部分を第240号土坑に掘り込まれていることから，第240号土坑より古い。第176号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　第176・240号土坑と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，開口部は長径2.21m，短径1.43mの楕円形，底面は長径2.14m，短径1.43mの楕円形で，深さは65cmである。

壁　円筒状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　１か所。Ｐ１は南東の壁際に位置し，径32cmの円形で，深さは28cmである。

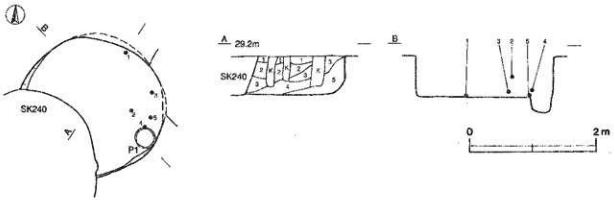
覆土　5層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

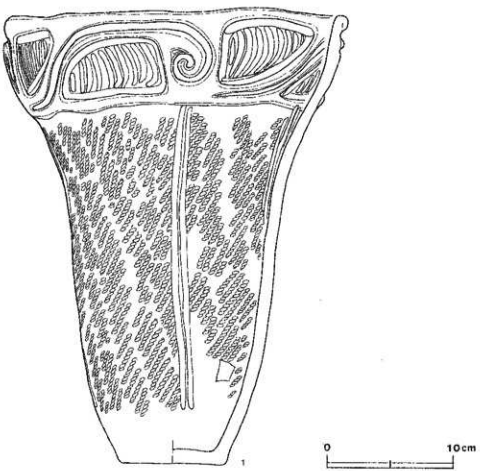
土層所見

1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
5　黒　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

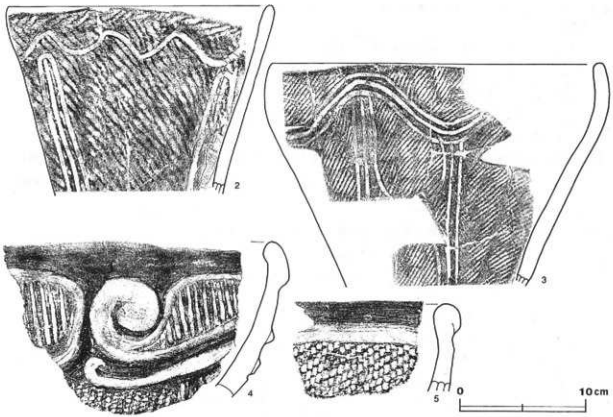
遺物　縄文土器片71点が出土している。そのうち縄文土器5点を抽出・図示した。第227図1は完形の深鉢で，北部の覆土下層から出土している。3は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，4・5は深鉢の口縁部片で，それぞれ東部の覆土下層から出土している。2は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，東部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利EⅡ～Ⅲ式期)と考えられる。





第227図　第239号土坑・出土遺物実測図



第228図　第239号土坑出土遺物実測図

第239号土坑出土遺物観察表（第227・228図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 26.0 B 36.0 C 8.0	平口縁のキャリパー形を呈する深鉢ではほぼ完形。口縁部には隆帯と沈線による渦巻文とそれと連続する区画文を交互に配している。区画文の内側に沈線が伸びて，渦巻文を形成する。胴部には縦位に平行沈線が施されている。胴部にはＲＬの縄文を施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P296　98% PL29
2	深鉢 縄文土器	A 20.8 B (15.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。口唇部直下には波状の沈線が巡る。胴部には３条の沈線を垂下させている。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P298　40% PL29
3	深鉢 縄文土器	A [25.7] B (17.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや内彎する。口縁部には波状沈線が巡る。胴部には３条の沈線を垂下させ，Ｒの無節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・パミス 明赤褐色 普通	P297　20%
4	深鉢 縄文土器	B (12.2)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。沈線で渦巻文や区画文を施している。区画内には棒状工具による沈線を縦位に施している。地文はＲＬＲの複節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 良好	TP153　5%
5	深鉢 縄文土器	B (7.0)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部には隆帯を巡らしている。隆帯に平行して太い沈線を施している。地文はＬＲＬの複節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP154　5%

第241号土坑（第229図）

位置　調査１区の南西部，Ｃ４d2区。

重複関係　第230・231号土坑と重複しているが，両土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.75m，短径1.30mの楕円形，底面は径2.34mの円形で，深さは110cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

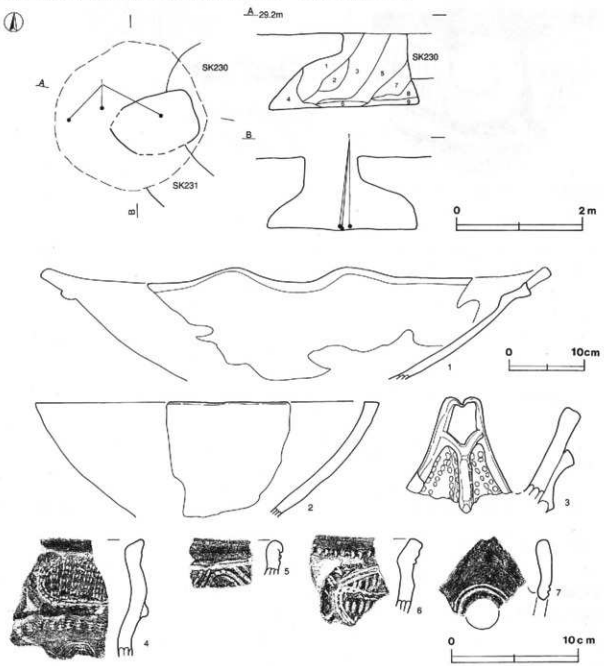
覆土　9層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子・底沼パミス小ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　黒褐色　底沼パミス小ブロック中量，ローム粒子微量
6　黒褐色　底沼パミス小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子・底沼パミス小ブロック中量，炭化粒子少量
8　黒　色　底沼パミス小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
9　黒褐色　底沼パミス小ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量

遺物　縄文土器片106点が出土している。そのうち縄文土器7点を抽出・図示した。第229図1は浅鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，中央部の底面から出土している。2は浅鉢の口縁部片，3～7は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台式Ⅲ～Ⅳ式期)と考えられる。



第229図　第241号土坑・出土遺物実測図

第241号土坑出土遺物観察表（第229図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [65.2] B (15.0)	口縁部から胴部にかけての破片。波状口縁を呈する。胴部は外拡して立ち上がり，口縁部に至る。胴部は無文。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P300 10%
2	深鉢 縄文土器	A [27.2] B (9.0)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部は平坦である。口縁部は無文。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P301 5%
3	深鉢 縄文土器	B (8.4)	波状口縁を呈する口縁部片。波状部には隆帯により区画し，隆帯で「Y」字状の文様を描出している。区画内には棒状工具による連続刺突文を施している。	雲母・パミス 黒褐色 普通	P299 5%
4	深鉢 縄文土器	B (9.1)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がり，口唇部は外傾する。隆帯で楕円形の区画文を施している。区画内・外には棒状工具による刺突文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい黒色 普通	TP155 5%
5	深鉢 縄文土器	B (2.8)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。内面に稜を持つ。隆帯を巡らし，隆帯に沿って結節沈線文を巡らしている。また，複列の結節沈線文で楕円形の文様を描出している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP158 5%
6	深鉢 縄文土器	B (3.8)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆帯にはキザミを施した隆帯で楕円形の区画文を施し，区画内には平行沈線や波状沈線を施している。また，横位に爪形文を施している。	長石・石英・雲母 黄褐色 普通	TP156 5%
7	深鉢 縄文土器	B (4.8)	波状部片。山形の波状を呈し，突端部は欠損している。波底部は孔が穿けられ，孔の周りに複列の結節沈線文を施している。	長石・雲母 褐色 普通	TP157 5%

第242号土坑（第230・231図）

位置　調査1区の北部，B 4 g8区。

規模と平面形　開口部は長径1.82m，短径1.41mの楕円形，底面は長径1.98m，短径1.73mの楕円形で，深さは55cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

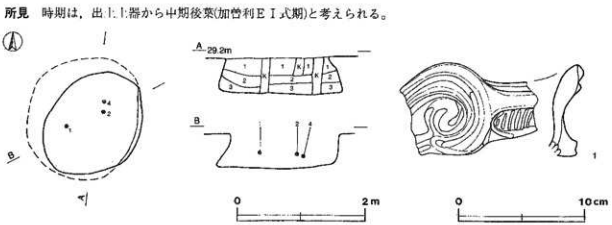
底　ほぼ平坦である。

覆土　3層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・中・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片169点が出土している。そのうち縄文土器4点を抽出・図示した。第230図1は深鉢の口縁部片，2は深鉢の底部片，4は深鉢の口縁部片で，それぞれ中央部の覆土中層から出土している。3は深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利EⅠ式期)と考えられる。



第230図　第242号土坑・出土遺物実測図

第231図　第242号土坑出土遺物実測図

第242号土坑出土遺物観察表（第230・231図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（7.2）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部は隆帯が巡り，隆帯に平行して沈線が巡る。口縁部には隆帯と沈線で渦巻文を施している。	雲母・パミス 黒褐色 普通	P302　5%
2	深　鉢 縄文土器	B（4.0） C　12.1	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P303　5%
3	深　鉢 縄文土器	B（11.0）	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。口縁部直下には沈線と隆帯を巡らしている。口縁部には波状沈線文を巡らしている。また，波状沈線文を垂下させている。地文はＲＬの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP159　5%
4	深　鉢 縄文土器	B（3.9）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下には隆帯と沈線が巡る。口縁部には隆帯で楕円形の隆帯と沈線で区画文を施している。区画内はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	TP160　5%

第250号土坑（第232～234図）

位置　調査１区の北部，Ｂ４g9区。

重複関係　第144・347号土坑と重複しているが，両土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　第144・347号土坑と重複していることから，開口部は推定で，長径1.50m，短径1.42mの円形，底面は長径2.00m，短径1.92mの円形で，深さは93cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

覆土　９層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

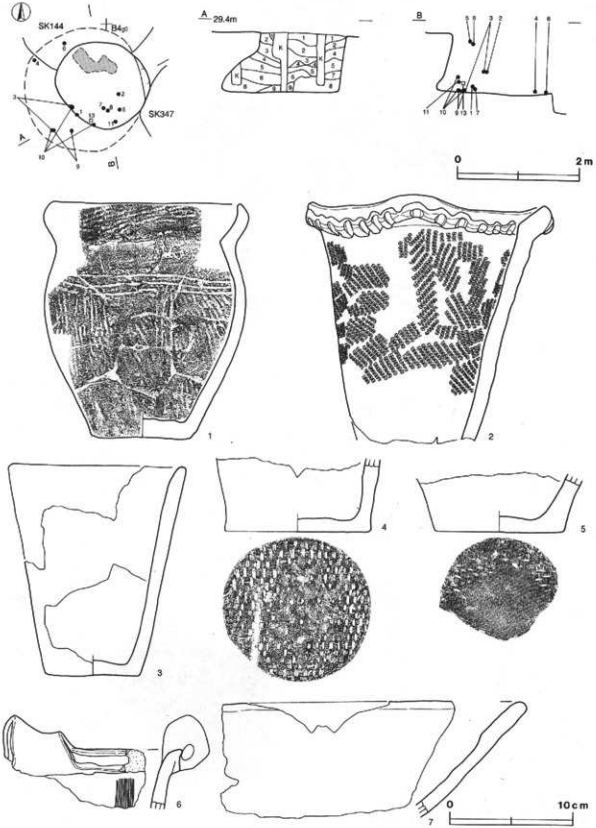
土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム大ブロック多量
6　褐　色　ローム大ブロック多量，ローム粒子少量
7　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
8　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子多量，炭化粒子少量
9　暗褐色　焼土粒子多量

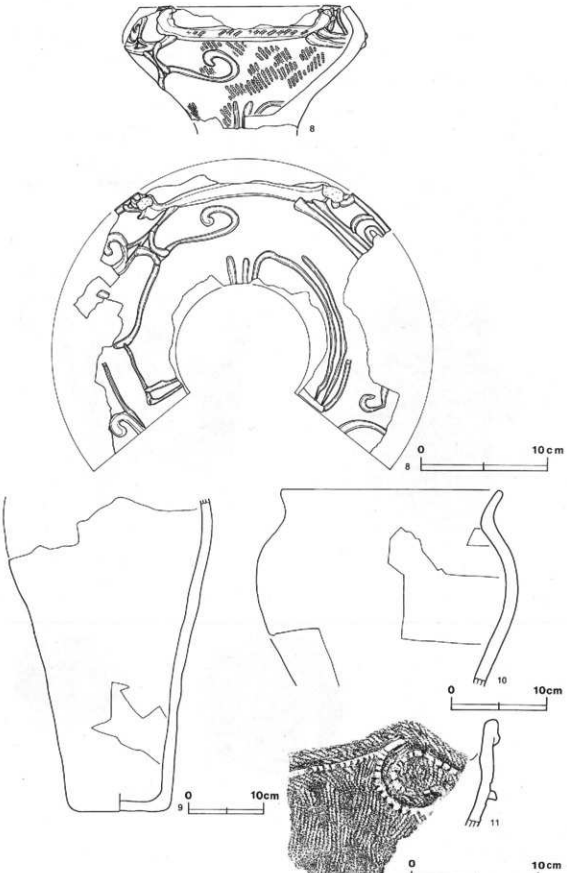
遺物　縄文土器片450点，打製石斧１点，石錘１点が出土している。そのうち縄文土器11点，打製石斧１点，石錘１点を抽出・図示した。第232図６は深鉢の口縁部片で，北部の底面から横位で出土している。９は口縁部が欠損する深鉢で，南西部の底面から出土している。１は口縁部から胴部が一部欠損する深鉢で，南西部の覆土下層から逆位で出土している。３は口縁部から胴部が一部欠損する深鉢で，南西部の覆土下層から中層にかけて出土している。４は深鉢の底部片で，北西部の覆土下層から出土している。７は浅鉢の口縁部片で，中央部の覆土下層から出土している。10は底部が欠損する深鉢で，中央部から南西部にかけての覆土下層から中層にかけて出土している。13は石錘で，南部の覆土下層から出土している。２は底部が欠損する深鉢で，中央部の覆土中層か

ら横位で出土している。11は深鉢の口縁部片で，南東部の覆土中層から出土している。5は深鉢の底部片で，中央部の覆土上層から出土している。8は台付鉢で，中央部の覆土上層から斜位で出土している。11・12は打製石斧で，覆土から出土している。その他に，底面からは性格不明の焼土塊を北壁寄りに検出した。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式)と考えられる。



第232図　第250号土坑・出土遺物実測図



第233図　第250号土坑出土遺物実測図（1）

第234図　第250号土坑出土遺物実測図（2）

第250号土坑出土遺物観察表（第232～234図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［15.2］ B　19.3 C　8.1	口縁部，胴部の一部欠損。胴部は口縁部とともに内弯して立ち上がる。胴部には棒状工具による沈線が巡る。地文はRの無節縄文を施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P307　70% PL29
2	深　鉢 縄文土器	A　19.8 B（20.2）	胴部から底部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口唇部は外傾する。小波状口縁を呈する。口唇部直下には隆帯が巡り，隆帯には下方からの指頭による押圧を施す。地文はRLRの複節縄文を施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P306　40% PL29
3	深　鉢 縄文土器	A［14.0］ B　17.2 C　7.6	口縁部欠損。胴部の一部欠損。胴部は内弯気味に立ち上がる。研磨している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P309　40%
4	深　鉢 縄文土器	B（6.1） C　11.8	底部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P310　5% 底部胴代痕有り
5	深　鉢 縄文土器	B（4.9） C［10.4］	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文。	長石・石英・パミス 黒褐色 普通	P311　5% 底部網代痕有り
6	深　鉢 縄文土器	B（7.7）	口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。隆帯を突出したものを作出している。口縁部直下には沈線を垂下させている。	長石・石英・雲母 黒色 普通	P308　5%
7	浅　鉢 縄文土器	B（9.3）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部は丸みをもって立ち上がる。内側に稜を持つ。無文。	石英・雲母・パミス 黒褐色 普通	P313　5%
8	台付鉢 縄文土器	A　16.5 B（9.7）	口縁部の一部欠損。胴部は緩やかに外傾して立ち上がり，口縁部は内弯する。口縁部には隆帯で楕円形状や渦巻状を組み合わせた文様を描出している。地文はRLの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英 褐色 普通	P312　60%
9	深　鉢 縄文土器	B（41.5） C　12.5	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部は無文。	石英・パミス にぶい黄褐色 普通	P305　70%
10	深　鉢 縄文土器	A［22.4］ B（20.9）	底部欠損。胴部は内弯して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は「く」の字状に外反する。胴部は無文。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P304　40%
11	深　鉢 縄文土器	B　（8.5）	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部には隆帯を施し，その隆帯の延長上に円形状の隆帯を施している。隆帯に沿って結節沈線文や爪形文を施している。隆帯にはLRの単節縄文を横方向に施している。地文はRLの単節縄文を縦方向や一部横方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	TP161　5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	打製石斧	9.3	4.5	1.7	80.0	ホルンフェルス	刃部断面形は片刃。	Q74　PL46
13	石　錘	7.8	11.2	2.9	340.0	砂　岩	短軸の両側面に窪みを呈する。	Q75　PL48

第256号土坑（第235～237図）

位置　調査１区の西部，Ｃ４ｃ4区。

重複関係　第213・258・262号土坑と重複しているが，それらの土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径3.10m，短径2.80mの楕円形，底面は長径3.55m，短径2.90mの楕円形で，深さは55cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

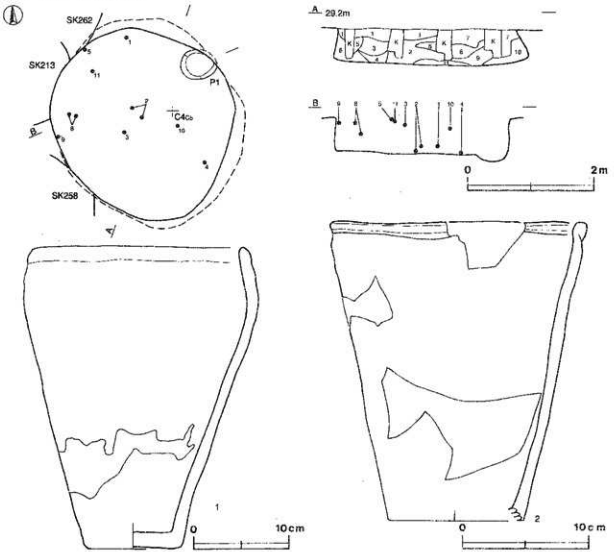
底　ほぼ平坦である。

ピット　１か所。Ｐ１は北東の壁際に位置し，長径58cm，短径48cmの楕円形で，深さは14cmである。

覆土　11層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

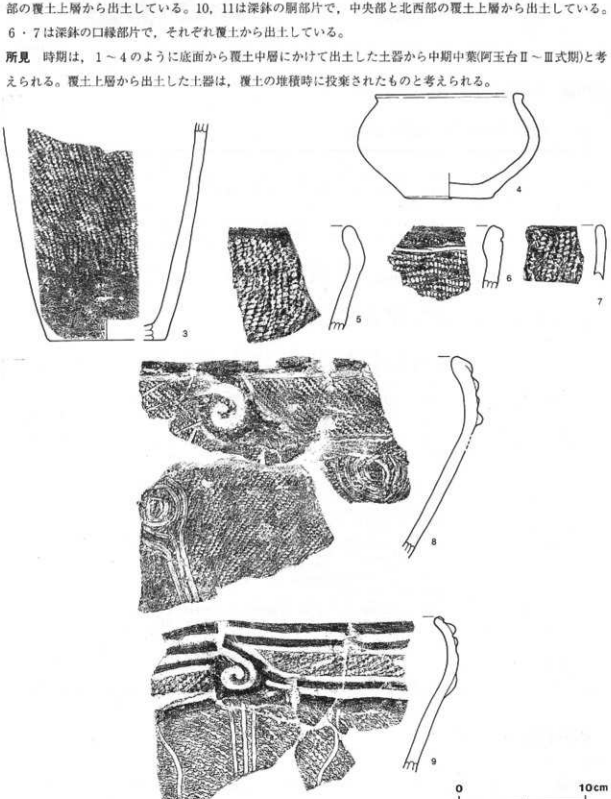
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
4　褐　色　ローム粒子微量
5　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
6　褐　色　ローム粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　褐　色　ローム粒子中量，浅間パミス小ブロック微量
9　褐　色　ローム粒子少量，浅間パミス小ブロック微量
10　褐　色　ローム粒子中量
11　黒褐色　ローム粒子少量



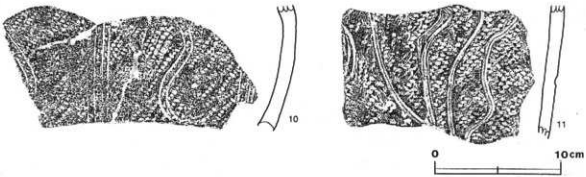
第235図　第256号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片279点が出土している。そのうち縄文土器11点を抽出・図示した。第236図４は鉢で，南東部の底面から正位で出土している。１は胴部が一部欠損する深鉢で，北部の覆土下層から斜位で出土している。２は深鉢の口縁部から底部にかけての破片で，中央部の覆土下層から出土している。３は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，中央部の覆土中層から横位で出土している。５・８・９は深鉢の口縁部片で，それぞれ西部の覆土上層から出土している。10，11は深鉢の胴部片で，中央部と北西部の覆土上層から出土している。６・７は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，１～４のように底面から覆土中層にかけて出土した土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期)と考えられる。覆土上層から出土した土器は，覆土の堆積時に投棄されたものと考えられる。



第236図　第256号土坑出土遺物実測図（１）



第237図　第256号土坑出土遺物実測図（2）

第256号土坑出土遺物観察表（第235～237図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［22.6］ B　31.9 C　9.7	口縁部，胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部で内彎する。口縁部には隆帯を巡らしている。胴部は無文で，研磨している。	長石・石英 におい褐色 普通	P314　70%
2	深　鉢 縄文土器	A　20.0 B　23.7 C［10.7］	口縁部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。口縁部には隆帯を巡らしている。胴部は無文で研磨している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P315　40%
3	深　鉢 縄文土器	B（17.0） C　[9.4]	口縁部から胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。胴部にはＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 におい黄橙色 普通	P316　30%
4	鉢 縄文土器	A　11.6 B　8.3 C　6.8	口縁部から胴部の一部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口唇部は平坦。胴部は無文。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P317　95%
5	深　鉢 縄文土器	B　(8.1)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下にはＲＬの単節縄文を横方向に施し，その他はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 におい橙色 普通	ＴＰ164　5%
6	深　鉢 縄文土器	B　(5.1)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。内側に稜を持つ。口唇部直下には棒状工具による沈線が巡る。地文はＲＬの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	ＴＰ165　5%
7	深　鉢 縄文土器	B　(4.3)	口縁部片。口縁部は直線的に立ち上がる。地文はＲＬＲの複節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	ＴＰ166　5%
8	深　鉢 縄文土器	B（15.8）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部には隆帯で渦巻文を施している。胴部には沈線で渦巻文を施している。口縁部にはＲＬの単節縄文を横方向に，地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 におい橙色 普通	ＴＰ162　5%
9	深　鉢 縄文土器	B（12.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部直下には沈線が巡る。口縁部には隆帯と沈線で楕円形の区画文や渦巻文を施している。胴部には３条の沈線や波状沈線を垂下させている。口縁部にはＬＲＬの複節縄文を横方向に施し，胴部にはＬＲＬの複節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	ＴＰ163　5%
10	深　鉢 縄文土器	B　(9.8)	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。半截竹管による平行沈線や波状沈線を垂下させている。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	ＴＰ167　5%
11	深　鉢 縄文土器	B（10.7）	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部を波状に垂下させている。地文はＲＬＲの複節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 橙色 普通	ＴＰ168　5%

第258号土坑（第238・239図）

位置　調査１区の西部，Ｃ４c4区。

重複関係　本跡が第264号土坑の南東部分を掘り込んでいることから，第264号土坑より新しい。また，第256・313号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　第256・264・313号土坑と重複していることから，開口部の平面形は推定で，長径2.30m，短径2.05mの楕円形，底面は長径2.18m，短径1.70mの楕円形で，深さは52cmである。

壁　円筒状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　4か所。P１は北東の壁寄りに位置し，径50cmの円形で，深さは27cmである。P２はほぼ中央部に位置し，径25cmの円形で，深さは62cmである。P３は南西部の壁際に位置し，径55cmの円形，深さは40cmである。P４は南壁際に位置し，径28cmの円形，深さは45cmである。

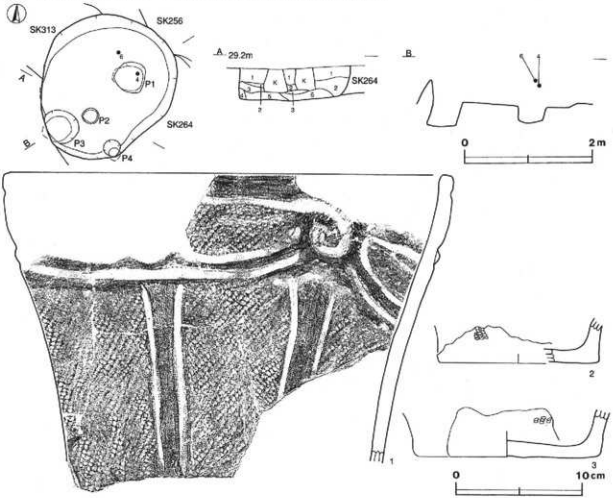
覆土　6層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

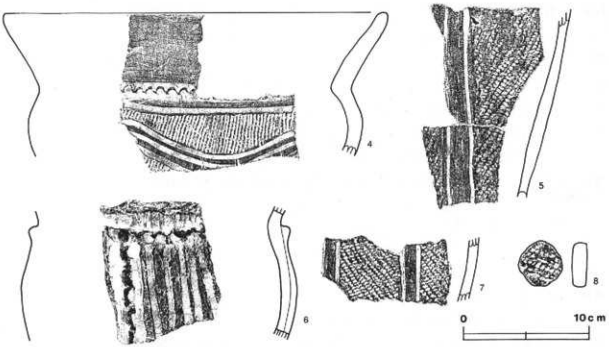
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム中ブロック中量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム中ブロック少量，ローム粒子微量

遺物　縄文土器片253点，土器片円盤１点が出土している。そのうち縄文土器７点，土器片円盤１点を抽出・図示した。第239図４は鉢の口縁部片で，覆土上層から出土している。６は深鉢の頸部から胴部にかけての破片で，北部の覆土上層から出土している。１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，２・３は深鉢の底部片，５・７は深鉢の胴部片，８は土器片円盤で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅡ式期)と考えられる。



第238図　第258号土坑・出土遺物実測図



第239図　第258号土坑出土遺物実測図

第258号土坑出土遺物観察表（第238・239図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［35.2］ B（22.9）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。口縁部には隆帯と沈線で楕円形に区画され，沈線で渦巻文を描出している。区画内・外にはＲＬの単節縄文を縦方向に施している。胴部には沈線による懸垂文を施し，沈線間を磨り消している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P318　10%
2	深　鉢 縄文土器	B　（3.0） C［12.5］	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部はＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P322　5%
3	深　鉢 縄文土器	B　（3.9） C　14.3	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部はＲＬの単節縄文を施している。	雲母・パミス にぶい黄褐色 普通	P321　5%
4	鉢 縄文土器	A［30.2］ B（11.3）	口縁部片。口縁部はやや内彎して立ち上がり，口唇部は外傾して立ち上がる。頸部との境には隆帯に交互刺突文を施している。口縁部は沈線で楕円形に区画され，区画内には懸垂文を施している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P319　5%
5	深　鉢 縄文土器	B（15.0）	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には沈線による懸垂文を施し，沈線間を磨り消している。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP169　5%
6	深　鉢 縄文土器	B（10.3）	頸部から胴部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がる。頸部のくびれ部に押圧を加えた隆帯を巡らし，そこから同様の隆帯を垂下させている。胴部には沈線を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P320　5%
7	深　鉢 縄文土器	B　（5.0）	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には沈線による懸垂文を施し，沈線間を磨り消している。地文はＬＲＬの複節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・礫 にぶい橙色 普通	TP170　5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	土製円盤	3.5	3.5	1.2	14.6	土　製	ＬＲの単節縄文を斜方向に施している。	DP14　PL44

第260号土坑（第240図）

位置　調査１区の南西部，Ｃ４e2区。

重複関係　本跡が第261号土坑の北東部分を掘り込んでいることから，第261号土坑より新しい。

規模と平面形　開口部は長径2.10m，短径1.90mの楕円形，底面は径1.68mの円形で，深さは60cmである。

壁　円筒状を呈する。

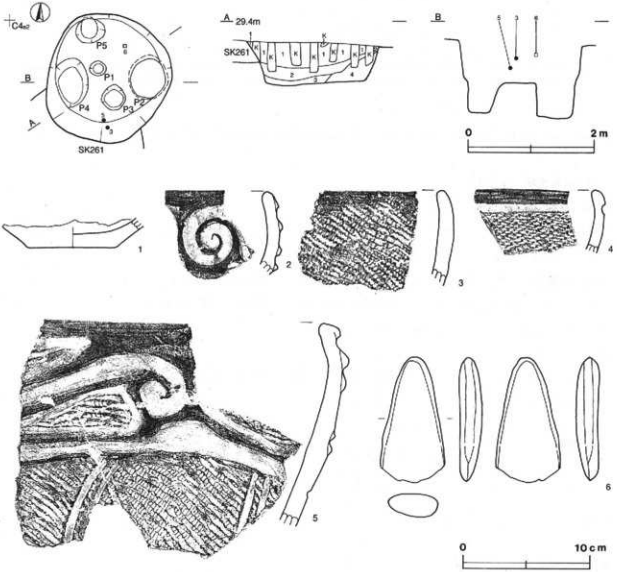
底　ほぼ平坦である。

ピット　５か所。Ｐ１は中央部に位置し，径25cmの円形で，深さは57cmである。Ｐ２は東壁際に位置し，長径70cm，短径62cmの楕円形，深さは55cmである。Ｐ３は南部に位置し，径40cmの円形，深さは11cmである。Ｐ４は西壁寄りに位置し，長径78cm，短径50cmの楕円形，深さは50cmである。Ｐ５は北壁際に位置し，長径46cm，短径40cmの楕円形，深さは44cmである。

覆土　４層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量



第240図　第260号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片67点，磨製石斧1点，敲石1点が出土している。そのうち縄文土器5点，磨製石斧1点を抽出・図示した。第240図3・5は深鉢の口縁部片で，南部の覆土中層から出土している。6は磨製石斧で，北東部の覆土中層から出土している。1は浅鉢の底部片，2・4は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。

第260号土坑出土遺物観察表（第240図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	浅鉢 縄文土器	B（2.2） C　7.1	底部片。底部から胴部にかけて外傾して立ち上がる。胴部は無文。	長石・雲母 明褐色 普通	P323　5%
2	深鉢 縄文土器	B（6.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯が巡るほか，沈線で渦巻文を施している。	長石・雲母 褐色 普通	TP172　5%
3	深鉢 縄文土器	B（7.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。地文はＲＬの単節縄文を横方向に施している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	TP173　5%
4	深鉢 縄文土器	B（5.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下には隆帯が巡り，隆帯に平行して沈線が巡る。地文はＬＲＬの板節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP174　5%
5	深鉢 縄文土器	B（16.0）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部には隆帯で渦巻文や区画文を施している。胴部には太い沈線を巡らしている。また，棒状工具で2条の沈線を垂下させている。地文はＲＬの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	TP171　5%

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
6	磨製石斧	9.8	5.1	1.9	140.0	緑色凝灰岩	刃部平面形は円刃。刃部断面形は四角。	Q76

第264号土坑（第241図）

位置　調査１区の西部，Ｃ４c4区。

重複関係　第259号土坑の北西部分を掘り込んでいることから，第259号土坑より新しい。また，北西部分を第258号土坑に掘り込まれていることから，第258号土坑より古い。

規模と平面形　第258・259号土坑と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，開口部は長径2.45m，短径1.50mの楕円形，底面は長径2.35m，短径1.40mの楕円形で，深さは35cmである。

壁　円筒状を呈し，重複関係から東側が直立することを確認できる。

底　ほぼ平坦である。

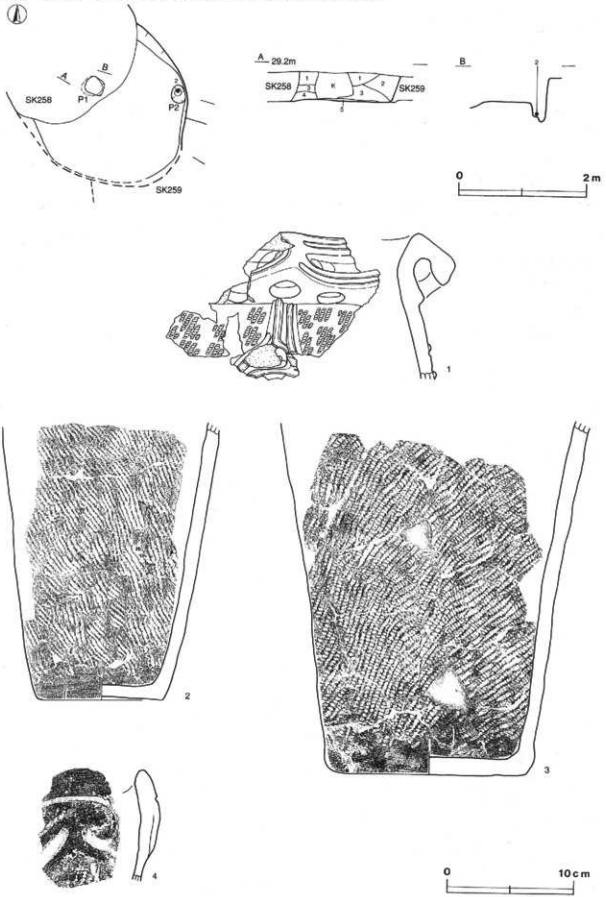
ピット　２か所。Ｐ１は北壁寄りに位置し，径35cmの円形，深さは63cmである。Ｐ２は東壁際に位置し，長径30cm，短径22cmの楕円形，深さは27cmである。

覆土　５層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　縄文土器片18点が出土している。そのうち縄文土器４点を抽出・図示した。第241図２は口縁部が一部欠損する深鉢で，Ｐ２内の覆土から出土している。１は眼鏡状把手を有する深鉢の口縁部片，３は深鉢の胴部から底部にかけての破片，４は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第241図　第264号土坑・出土遺物実測図

第264号土坑出土遺物観察表（第241図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（11.5）	口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。眼鏡状把手を有する。口縁部は隆帯と沈線で楕円形に区画されている。区画内・外には RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P324　5％
2	深　鉢 縄文土器	B（22.0） C　9.8	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。地文は LR の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P325　40％ P L 29
3	深　鉢 縄文土器	B（28.2） C 15.4	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・パミス 橙色 普通	P326　40％
4	深　鉢 縄文土器	B（8.8）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。沈線と隆帯で装飾文を施している。地文は RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P175　5％

第267号土坑（第242・243図）

位置　調査1区の西部，C 4 c3区。

重複関係　第243号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　第243号と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，開口部は長径2.63m，短径1.88mの楕円形，底面は長径2.35m，短径1.90mの楕円形で，深さは40cmである。

壁　円筒状を呈し，重複関係から北東壁側が直立することを確認できる。

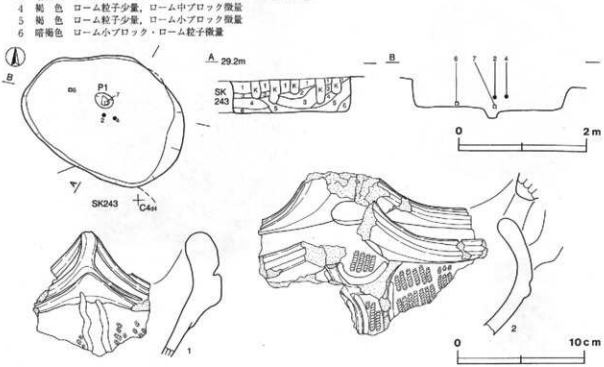
底　ほぼ平坦である。

ピット　1か所。P 1は中央部に位置し，長径30cm，短径22cmの楕円形で，深さは13cmである。

覆土　6層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

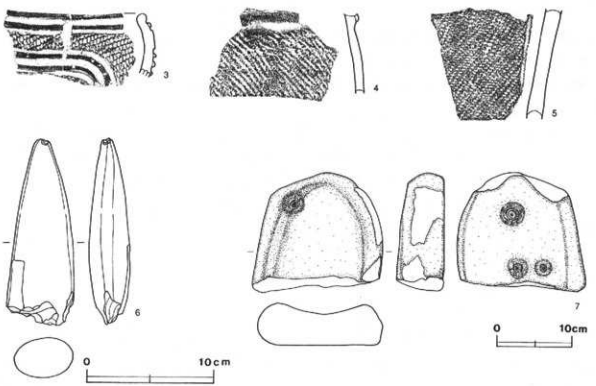
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量



第242図　第267号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片101点，磨製石斧１点，石皿１点が出土している。そのうち縄文土器５点，磨製石斧１点，石皿１点を抽出・図示した。第243図６は磨製石斧で，北西部の覆土下層から出土している。７は石皿で，Ｐ１内の覆土上層から出土している。２は橋状把手を有する深鉢の口縁部片で，中央部の覆土中層から出土している。４は深鉢の口縁部片で，中央部の覆土中層から出土している。１は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，３は深鉢の口縁部片，５は深鉢の胴部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第243図　第267号土坑出土遺物実測図

第267号土坑出土遺物観察表（第242・243図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	Ｂ（9.9）	波状口縁を呈する口縁部片。波状部には太い隆帯と沈線で文様を描出し，隆帯を垂下させ，波状沈線を施している。地文はＲＬの単節縄文を横方向に施している。	長石・雲母 明赤褐色 普通	Ｐ328　５％
2	深　鉢 縄文土器	Ｂ（12.6）	把手を有する口縁部片。把手部は一部欠損していが頭鎚状把手を呈すると思われる。把手部には太い隆帯を施し，隆帯に沿って沈線を施している。区画内にはＲＬの単節縄文を斜方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	Ｐ327　５％
3	深　鉢 縄文土器	Ｂ（5.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下には平行沈線文を巡らしている。口縁部には平行沈線で梅円状に区画文を施している。地文はＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	ＴＰ176　５％
4	深　鉢 縄文土器	Ｂ（6.2）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯と沈線が巡る。口唇突瘤は欠損している。地文はＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 褐色 普通	ＴＰ177　５％
5	深　鉢 縄文土器	Ｂ（8.5）	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。沈線を垂下させている。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	ＴＰ178　５％

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
6	磨製石斧	(14.6)	5.4	3.2	(320.0)	緑色凝灰岩	刃部欠損。	Q80
7	石錘(?)	(15.7)	17.1	6.4	(2160.0)	砂岩	側面に剥離を認めるが、機能面がわずかに残る。表面に1穿孔。裏面に3穿孔。	Q81 PL47

第269号土坑（第244・245図）

位置　調査1区の南西部，C 4 e2区。

重複関係　本跡が第268号土坑の北東部分を掘り込んでいることから，第268号土坑より新しい。また，第307・317号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は，長径2.30m，短径2.23mの円形，底面は径2.20mのほぼ円形で，深さは40cmである。

壁　円筒状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

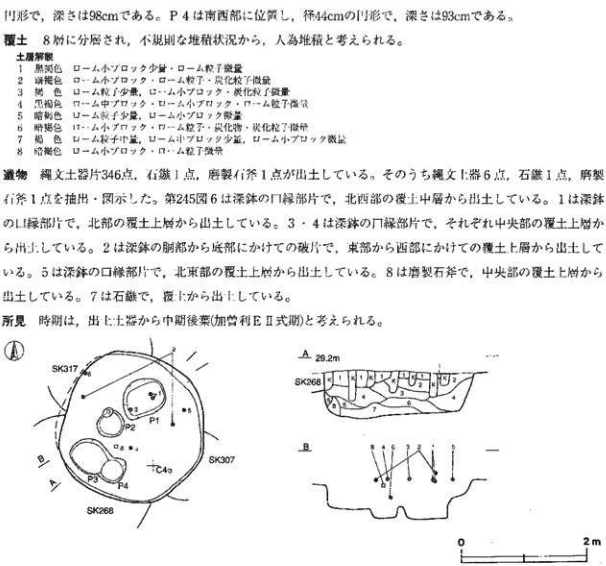
ピット　4か所。P 1は中央部に位置し，長径72cm，短径60cmの楕円形で，深さは92cmである。P 2はほぼ中央部に位置し，径55cmの円形で，深さは56cmである。P 3は南西部に位置し，長径56cm，短径50cmの楕円形で，深さは98cmである。P 4は南西部に位置し，径44cmの円形で，深さは93cmである。

覆土　8層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

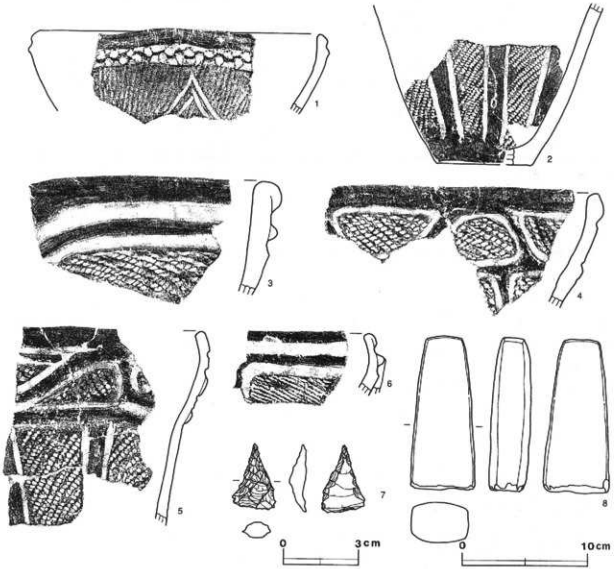
土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック少量・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　縄文土器片346点，石鏃1点，磨製石斧1点が出土している。そのうち縄文土器6点，石鏃1点，磨製石斧1点を抽出・図示した。第245図6は深鉢の口縁部片で，北西部の覆土中層から出土している。1は深鉢の口縁部片で，北部の覆土上層から出土している。3・4は深鉢の口縁部片で，それぞれ中央部の覆土上層から出土している。2は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，東部から西部にかけての覆土上層から出土している。5は深鉢の口縁部片で，北東部の覆土上層から出土している。8は磨製石斧で，中央部の覆土上層から出土している。7は石鏃で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利EⅡ式期)と考えられる。



第244図　第269号土坑実測図



第245図　第269号土坑出土遺物実測図

第269号土坑出土遺物観察表（第245図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［22.0］ B　(6.3)	口縁部片。口縁部は内弾して立ち上がる。口唇部直下には交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。その下には沈線を施している。地文はRの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P329　5％
2	深　鉢 縄文土器	B (13.0) C　[7.7]	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には沈線による懸垂文を施し，沈線間を磨り消している。胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P330　5％
3	深　鉢 縄文土器	B　(9.0)	口縁部片。口縁部は内弾して立ち上がる。太い隆帯と沈線を巡らしている。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	TP179　5％
4	深　鉢 縄文土器	B　(9.0)	口縁部片。口縁部は内弾して立ち上がる。沈線と隆帯で楕円形の区画文を施し，隆帯に沿って沈線を施している。区画内にはLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲 黒褐色 普通	TP181　5％
5	深　鉢 縄文土器	B (15.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内弾する。口縁部には沈線で楕円形の区画文を施している。胴部には2条の沈線を垂下させている。区画内にはRLの単節縄文を横方向に，胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	TP180　5％

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
6	深　鉢 縄文土器	B〔5.0〕	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯と沈線で楕円形の区画文を施している。区画内には撚糸圧痕文を施している。	長石・石英・雲母にぶい赤褐色 普通	TP183　5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
7	石　鏃	2.7	1.7	0.7	0.9	メ ノ ウ	基部形状は凸基を呈する。	Q82
8	磨製石斧	(12.0)	5.2	3.2	(380.0)	緑色凝灰岩	刃部欠損。定角式石斧。	Q83

第270号土坑（第246～248図）

位置　調査1区の北西部，A 4 j4区。

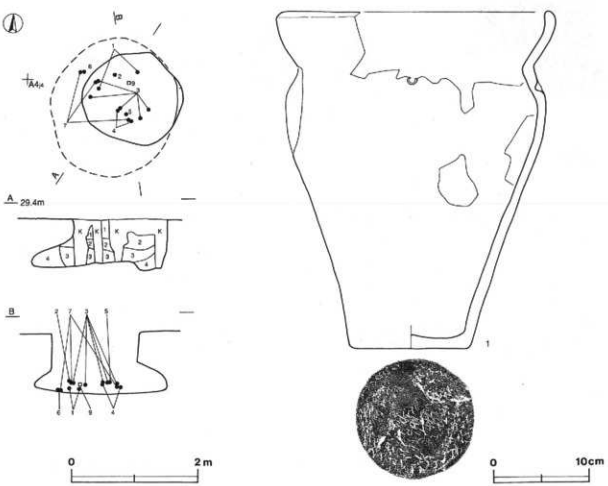
規模と平面形　開口部は長径1.60m，短径1.42mの楕円形，底面は長径2.20m，短径1.95mの楕円形で，深さは93cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

覆土　4層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

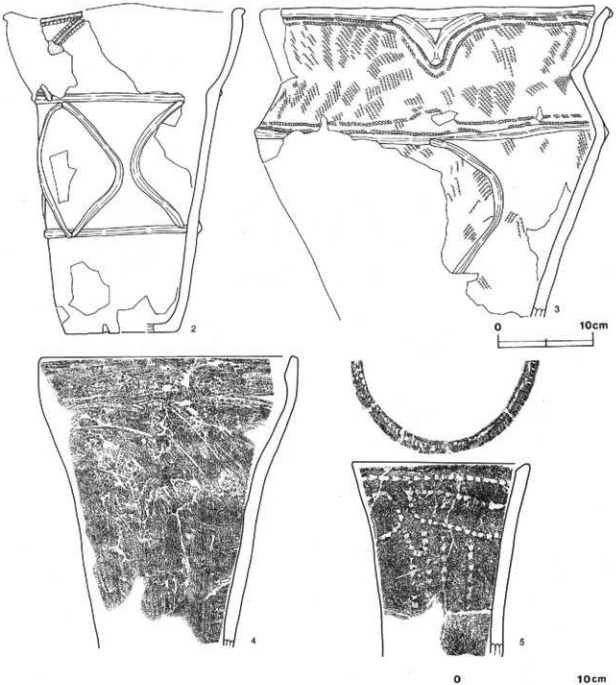
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量



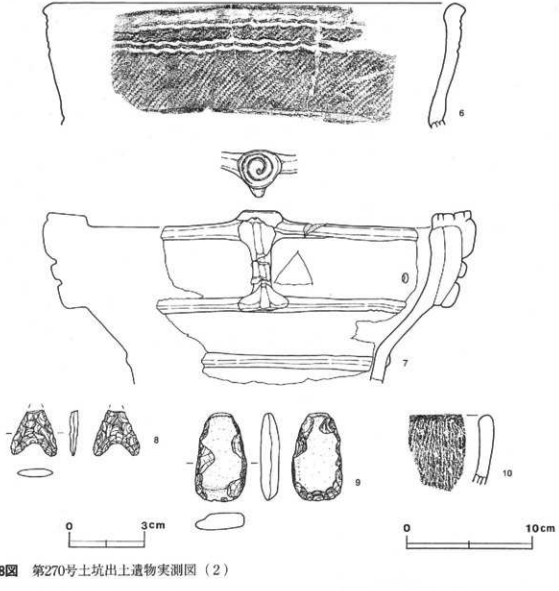
第246図　第270号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片320点，石鏃１点，磨製石斧１点が出土している。そのうち縄文土器８点，石鏃１点，磨製石斧１点を抽出・図示した。第248図６は深鉢の口縁部片で，北西部の底面から出土している。７は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，底面から覆土中層にかけて出土している。１は口縁部から胴部が一部欠損する深鉢で，北東部の覆土下層から横位で出土している。２は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，覆土下層から出土している。３は口縁部から胴部が一部欠損する深鉢で，西部から南部にかけての覆土下層から出土している。５は胴部から底部が欠損する深鉢で，中央部の覆土下層から横位で出土している。４は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，南部の覆土下層から出土している。９は磨製石斧で，中央部の覆土下層から出土している。10は深鉢の口縁部片，８は石鏃で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第247図　第270号土坑出土遺物実測図（１）



第248図　第270号土坑出土遺物実測図（2）

第270号土坑出土遺物観察表（第246～248図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［28.4］ B　35.6 C　12.3	口縁部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部で外傾する。口縁部及び胴部は無文で，研磨している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P331　60% 底部網代痕有り
2	深　鉢 縄文土器	A［24.5］ B　34.2 C［12.1］	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部で内彎気味に立ち上がる。波状部は欠損しているが，波状口縁を呈する。波底部には隆帯を貼付し，隆帯に沿って結節沈線文を施している。胴部には逆而三角形の隆帯で「X」字状の隆帯を貼付している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P333　40%
3	深　鉢 縄文土器	A［36.0］ B（33.0）	胴部の一部欠損,底部欠損。胴部は外傾して立ち上がり,口縁部は外傾する。口唇部直下には隆帯が巡り,その一部に「V」字状の隆帯を貼付している。隆帯に沿って,RLの単節縄文を押圧した文様を施している。胴部の上方に最大径を持ち,RLの単節縄文を押圧した文様を施している。地文はLの無節縄文を縦や横方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P332　60% PL29
4	深　鉢 縄文土器	A［20.0］ B（23.0）	口縁部から胴部の一部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部の内側に稜を持つ。口縁部から胴部にかけてヘラや棒状工具による削りがある。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P334　30%
5	深　鉢 縄文土器	A［13.6］ B（15.2）	胴部の一部，底部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。口唇部にはキザミを施している。胴部には複列の結節沈線文を巡らしている。胴部の内側に結節沈線文を施している。	石英・雲母 にぶい黄色 普通	P336　30% PL29

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
6	深　鉢 縄文土器	A［31.8］ B　(9.9)	口縁部片。口縁部はやや直線的に立ち上がる。口唇部は平坦である。口唇部直下には平行沈線文を２段に巡らしている。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 黒褐色 普通	P335　5％
7	深　鉢 縄文土器	A［29.0］ B（13.6）	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は内傾して立ち上がる。口唇部には隆帯が巡る。隆帯の一部に渦巻状の沈線を施している。ここから垂下した隆帯にキザミを施している。頸部との境に隆帯を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P337　5％
10	深　鉢 縄文土器	B　(5.5)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。撚糸文を施している。	長石 灰褐色 普通	TP184　5％

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	石　鏃	(1.8)	1.8	0.3	(0.8)	チャート	先端部欠損。自然面を基部。両側面調整剥離。	Q84
9	剥製石斧	6.9	4.0	1.4	60.0	斑　脂　岩	頭部と刃部の稜がほぼ同じ。	Q85

第278号土坑（第249・250図）

位置　調査１区の北西部，Ｂ４a3区。

重複関係　第236・277号土坑と重複しているが，両土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径0.93m，短径0.84mの楕円形，底面は長径1.50m，短径1.38mの楕円形，深さは85cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

覆土　５層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

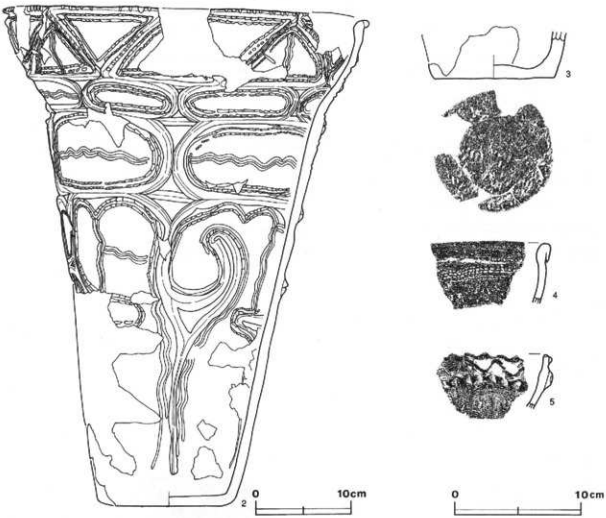
土層解説

1　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

第249図　第278号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片130点が出土している。そのうち縄文土器５点を抽出・図示した。第249図１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，２は口縁部，胴部が一部欠損する深鉢で，それぞれ中央部の底面から出土している。３は深鉢の底部片，４・５は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第250図　第278号土坑出土遺物実測図

第278号土坑出土遺物観察表（第249・250図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 23.4 B (19.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口唇部直下には複列の結節沈線文が巡り，４方向に「Ｖ」字状の隆帯を貼付している。胴部には複列の結節沈線文を２段に巡らしている。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P339　40%
2	深鉢 縄文土器	A 37.0 B 53.0 C 14.5	口縁部,胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口唇部直下には隆帯が巡り，隆帯には棒状工具による押圧を加えている。口縁部には隆帯で三角形の文様を描出し，隆帯上には爪形文を施している。また，隆帯に沿って複列の結節沈線文を施している。胴部には隆帯で楕円形状の区画文を施し，区画内には複列の結節沈線文や波状沈線文を施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P338　80% PL29
3	深鉢 縄文土器	B (3.5) C 9.4	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P340　5% 底部網代痕有り
4	深鉢 縄文土器	B (4.8)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。内面に稜を持つ。隆帯が巡り，隆帯に沿って複列の結節沈線文を巡らしている。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	TP185　5%

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
5	深　鉢 縄文土器	B（4.2）	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。口唇部には縄文で押圧を施している。口唇部直下には波状の隆帯を貼付し，基長上に沈線で波状を施している。またその下方に，隆帯を巡らし，隆帯にはキザミを施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	ＴＰ186　５％

第280号土坑（第251図）

位置　調査１区の北西部，Ｂ４a6区。

規模と平面形　開口部は径1.70mの円形，底面は長径2.17m，短径1.95mの楕円形で，深さは67cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

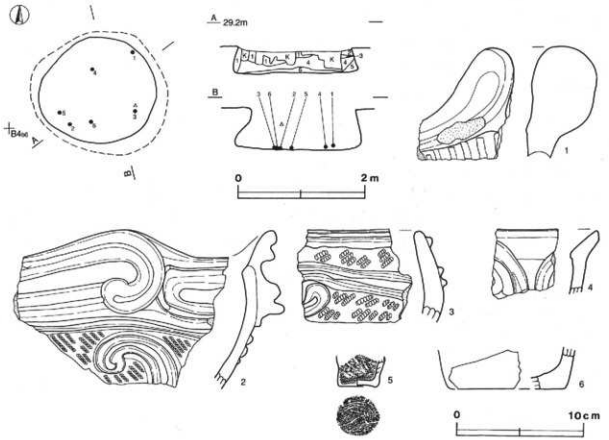
底　ほぼ平坦である。

覆土　６層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物　縄文土器片72点，木の実の炭化物１点が出土している。そのうち縄文土器６点を抽出・図示した。第251図２・３は深鉢の口縁部片で，南部の底面から出土している。４は浅鉢の口縁部片で，中央部の底面から出土している。５はミニチュア土器，６は深鉢の底部片で，南部の底面から出土している。１は深鉢の把手部片で，覆土下層から出土している。木の実の炭化物は，東部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第251図　第280号土坑・出土遺物実測図

第280号土坑出土遺物観察表（第251図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B（9.1）	把手部片。把手部は楕円形を加する。把手の付け根には半截竹管による太い沈線を縦位に施している。	長石・石英 明赤褐色 普通	P343　5%
2	深鉢 縄文土器	B（12.2）	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は内傾して立ち上がる。口唇部には隆帯で渦巻文を突出して作出している。口縁部には隆帯と太い沈線で文様を描出し，地文はLRLの複節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P341　5%
3	深鉢 縄文土器	B（7.2）	口縁部片。口縁部は内傾して立ち上がる。口縁部直下には隆帯が巡り，隆帯による区画文内には渦巻文を施している。区画内には LR の単節縄文を横方向に施している。	長石・雲母・パミス 明赤褐色 普通	P342　5%
4	鉢 縄文土器	B（5.2）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。内側に稜を持つ。隆帯と沈線で文様を描出している。	長石・雲母・パミス 褐色 普通	P345　5%
5	ミニチュア土器 縄文土器	B（2.4） C　3.0	口縁部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がる。Lの無節縄文を横方向に施している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P346　60%
6	深鉢 縄文土器	B（3.3） C「9.2」	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文。	長石・雲母・パミス 明赤褐色 普通	P344　5%

第282号土坑（第252・253図）

位置　調査1区の西部，B4b7区。

重複関係　第221号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.94m，短径1.85mの円形，底面は径1.92mの円形，深さは44cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

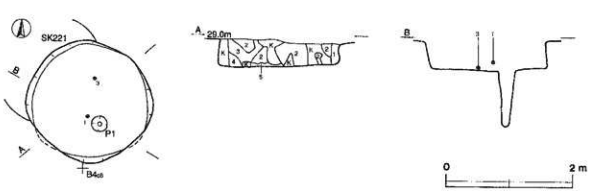
ピット　P1は中央部に位置し，径25cmの円形で，深さは92cmである。

覆土　5層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

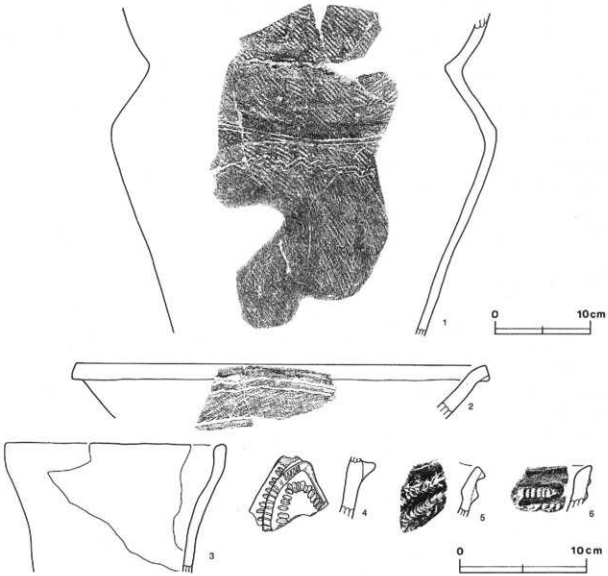
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物　縄文土器片147点が出土している。そのうち縄文土器6点を抽出・図示した。第253図3は深鉢の口縁部片で，北部の覆土下層から出土している。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，中央部の覆土中層から出土している。2・4・5・6は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期)と考えられる。



第252図　第282号土坑実測図



第253図　第282号土坑出土遺物実測図

第282号土坑出土遺物観察表（第253図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	甕 縄文土器	B（34.5）	頸部から胴部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部で外傾する。胴部と頸部との境に波状沈線文を施している。胴部上部の最大径を持つところに平行沈線文を巡らしている。地文はLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P347　30%
2	甕 縄文土器	A［32.5］ B（4.3）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部は平坦。口唇部直下には波状沈線を巡らしている。RLの羊歯縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P349　5%
3	深鉢 縄文土器	A［17.5］ B（10.0）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がり，口縁部はやや内彎する。口縁部の内側に稜を持つ。胴部は無文で研磨している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P348　5%
4	深鉢 縄文土器	B（5.9）	波状口縁を呈する口縁部片。波状部は隆帯で区画されている。隆帯にはキザミが施されている。口唇部と突出した隆帯の境には爪形文を施している。区画内には棒状工具による刺突文が施されている。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P350　5%
5	深鉢 縄文土器	B（3.5）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。波底部には隆帯に沿って爪形文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP187　5%

図版番号	器種	器高(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	深鉢 縄文土器	B（3.6）	口縁部片。口縁部は内傾して立ち上がる。隆帯で楕円形の区画文を施し，区画内・外に系形文を施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP188　5%

第287号土坑（第254図）

位置　調査1区の西部，B4j5区。

重複関係　第286・306号土坑に掘り込まれているので，両土坑より古い。

規模と平面形　開口部は長径2.15m，短径1.87mの楕円形，底面は長径2.04m，短径1.78mの楕円形で，深さは55cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

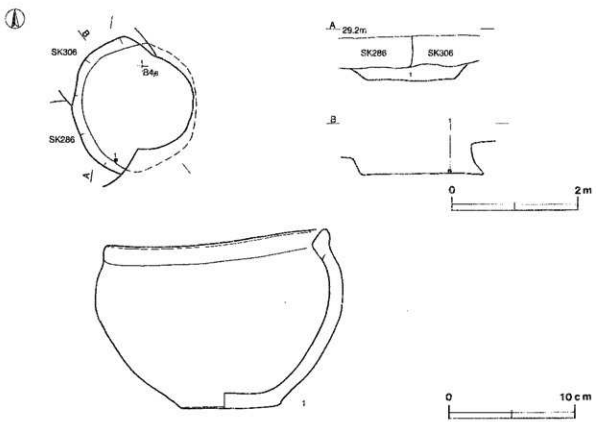
覆土　第286・306号土坑に掘りこまれているため，本跡の土層は第1層のみである。そのため，堆積状況は不明である。

土層解説

1　褐色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片40点が出土している。そのうち縄文土器1点を抽出・図示した。第254図1は鉢の完形で，南西部の底面から斜位で出土している。

所見　1の鉢が無文であるため時期を判断することは困難であるが，遺構の形態や出土した土器細片から中期(阿玉台Ⅳ式～加曽利EⅠ式期)と考えられる。



第254図　第287号土坑・出土遺物実測図

第287号土坑出土遺物観察表（第254図）

図版番号	器種	計測値(cm)	形態及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	鉢 縄文土器	A 17.1 B 14.1 C 7.4	壺形。胴部は内弯して立ち上がり，口縁部でやや外反する。口縁部から胴部は無文。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P351 100% PL29

第290号土坑（第255・256図）

位置　調査1区の北西部，B 4 a5区。

重複関係　第274号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

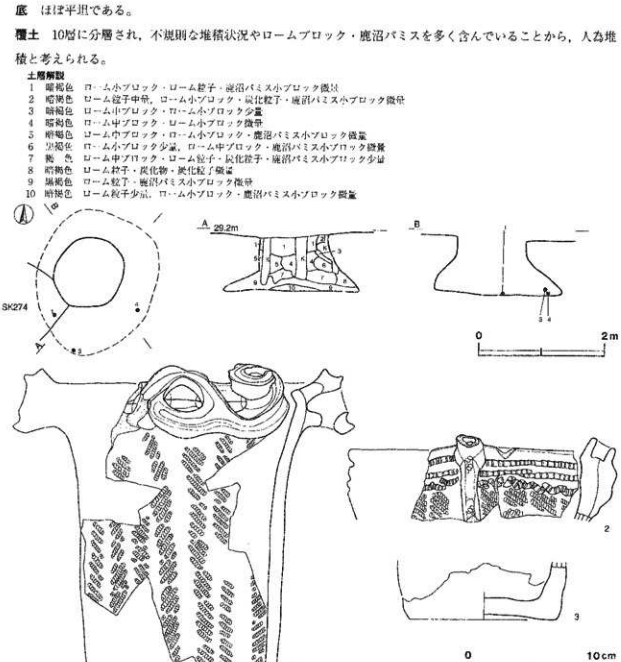
規模と平面形　開口部は長径1.15m，短径1.02mの楕円形，底面は径2.23mの円形で，深さは85cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

覆土　10層に分層され，不規則な堆積状況やローム・ブロック・鹿沼パミスを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

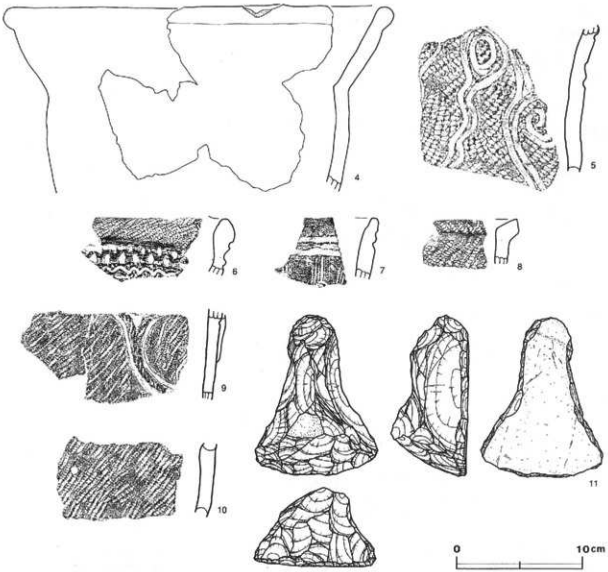
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
6　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
7　黒　色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
9　黒褐色　ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
10　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量



第255図　第290号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片79点，スタンプ形石器１点が出土している。そのうち縄文土器10点，スタンプ形石器１点を抽出・図示した。第255図１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，南西部の覆土下層から出土している。３は深鉢の底部片で，南部の壁際の覆土下層から出土している。４は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，東部の覆土下層から出土している。２は深鉢の口縁部片，６～８は深鉢の口縁部片，５・９・10は深鉢の胴部片，11はスタンプ形石器で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台式Ⅳ式期)と考えられる。



第256図　第290号土坑出土遺物実測図

第290号土坑出土遺物観察表（第255・256図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［22.0］ B（24.6）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部で外反する。口縁部には隆帯と沈線で横Ｓ字状の突出部を作出している。胴部にはＲＬの羊歯縄文を縦や横方向に施している。	長石・石英・雲母・パミス 明赤褐色，普通	P352　5％
2	深　鉢 縄文土器	A［19.2］ B　（6.8）	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆状の隆帯を垂下させ，複列の結節沈線文を巡らし，平行して爪形文を施している。その下方に指頭による押圧を加えた隆帯を施している。ＲＬの羊歯縄文を横方向に施している。	長石・雲母 橙色 普通	P354　5％

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	深鉢 縄文土器	B (4.6) C 11.5	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P355 10%
4	深鉢 縄文土器	A [29.8] B (14.6)	口縁部から胴部にかけての破片。底部は「く」の字状に外反して立ち上がり，口縁部に至る。無文。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P353 5%
5	深鉢 縄文土器	B (11.4)	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。沈線で渦巻文を施している。その延長上に波状沈線を垂下させている。縦文はRLの単節縄文を施している。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	TP192 5%
6	深鉢 縄文土器	B (4.5)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。内側には棧を持つ。隆帯が巡り，隆帯に平行して交互刺突文を施し，その下方に波状沈線文を巡らしている。口縁部はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP189 5%
7	深鉢 縄文土器	B (5.3)	口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。2条の沈線が巡る。タシ状工具による沈線を縦位に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP190 5%
8	深鉢 縄文土器	B (3.6)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がり，口唇部は外傾する。内側に棧を持つ。口縁部には隆帯が巡り，RLの単節縄文を横方向に，地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 黒褐色 普通	TP191 5%
9	深鉢 縄文土器	B (7.2)	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。「Y」字状の隆帯を施している。隆帯で楕円形の区画文を施し，区画内にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲 橙色 普通	TP193 5%
10	深鉢 縄文土器	B (5.9)	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。補修孔と思われる孔が穿けられている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 黒褐色 普通	TP194 5%

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
11	スタンプ形石器	12.6	9.6	6.1	600.0	砂岩	自然面を裏面とし，裏面側から調整剥離を加えるように調整。	Q87 PL47

第293号土坑（第257・258図）

位置　調査1区の南西部，C4f3区。

重複関係　本跡が第294号土坑の南西側部分を掘り込んでいることから，第294号土坑より新しい。

規模と平面形　開口部は長径2.05m，短径1.92mの円形，底面は径1.95mの円形で，深さは35cmである。

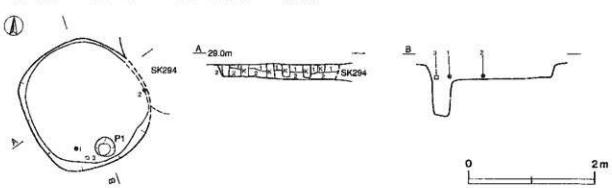
壁　円筒状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　1か所。P1は南東隅際に位置し，径32cmの円形で，深さは59cmである。

覆土　2層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

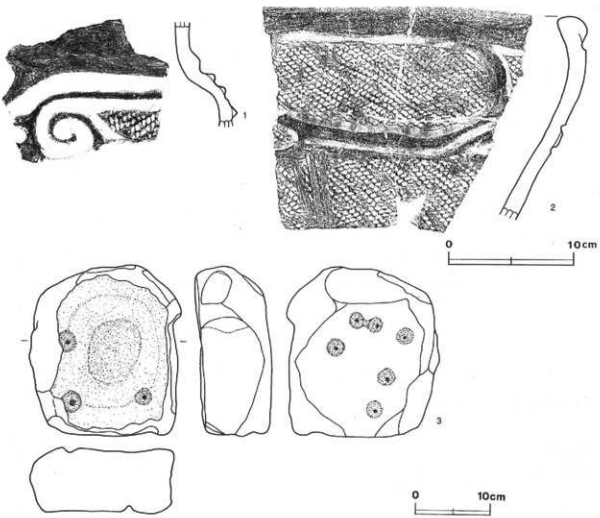
土層解説
1　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量



第257図　第293号土坑実測図

遺物　縄文土器片29点，石皿(凹石)1点が出土している。そのうち縄文土器2点，石皿(凹石)1点を抽出・図示した。第258図2は深鉢の口縁部片で，東部の底面から出土している。1は鉢の頸部片で，南部の覆土下層から出土している。3は石皿(凹石)で，南部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ～Ⅱ式期)と考えられる。



第258図　第293号土坑出土遺物実測図

第293号土坑出土遺物観察表（第258図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	鉢 縄文土器	B（8.3）	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾して立ち上がる。頸部には太い沈線と隆線で渦巻文や区画文を施している。区画内にはＬＲの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P356　5％
2	深　鉢 縄文土器	B（16.0）	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部には隆帯と沈線で楕円形の区画文を施している。胴部には3条の沈線を垂下させている。地文はＬＲＬの複節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明黄褐色 普通	TP195　5％

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	石　皿 （凹　石）	22.6	20.3	10.3	6960.0	花　崗　岩	機能面の周囲の一部に縁を有し，機能面が凹む。表面には3穿孔，裏面には6穿孔。	Q88　PL47

第295号土坑（第259・260図）

位置　調査１区の中央部，Ｂ４i8区。

規模と平面形　開口部は径0.85mの円形，底面は長径1.02m，短径0.97mの円形で，深さは60cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

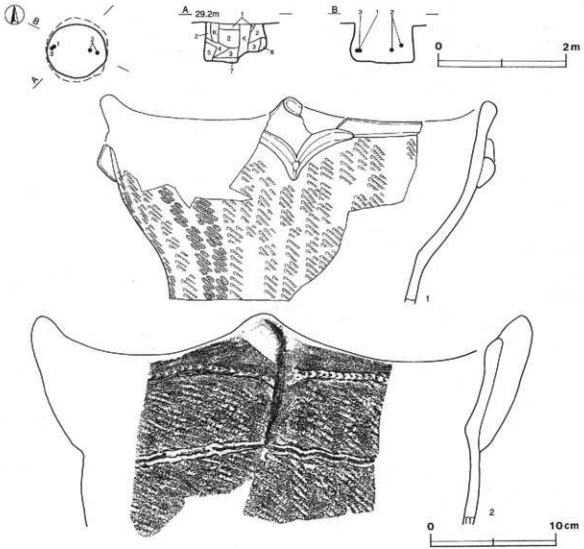
底　ほぼ平坦である。

覆土　７層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

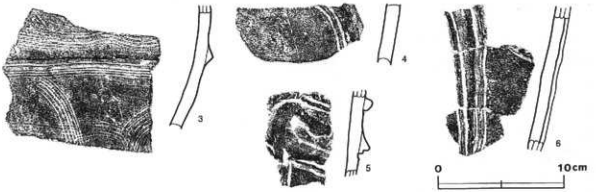
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
6　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
7　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　縄文土器片73点が出土している。そのうち縄文土器６点を抽出・図示した。第259図１は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，２は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，３は深鉢の胴部片で，それぞれ覆土中層から出土している。４～６は深鉢の胴部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第259図　第295号土坑・出土遺物実測図



第260図　第295号土坑出土遺物実測図

第295号土坑出土遺物観察表（第259・260図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［30.5］ B（16.1）	口縁部から胴部にかけての破片。波状口縁を呈する。胴部はやや内弯して立ち上がり，口縁部に至る。口唇部直下には「V」字状の隆帯を施している。胴部にはLの無節縄文とLRの羊歯縄文を施している。	石英・雲母 灰褐色 普通	P357　5％
2	深　鉢 縄文土器	A［34.0］ B（16.6）	口縁部から胴部にかけての破片。波状口縁を呈するが，波状部一部欠損。口縁部には突出した隆帯が垂下し，結節沈線文が巡る。胴部には平行波状沈線が巡る。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P358　5％
3	深　鉢 縄文土器	B（10.0）	胴部片。胴部は内弯して立ち上がる。隆帯を巡らし，隆帯に沿ってタシ状工具による沈線で文様を描出している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	TP196　5％
4	深　鉢 縄文土器	B（5.0）	胴部片。胴部は内弯して立ち上がる。隆帯を施し，隆帯に沿って複列の結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP197　5％
5	深　鉢 縄文土器	B（7.0）	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。蛇行隆帯を施し，隆帯に沿って沈線を施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	TP198　5％
6	深　鉢 縄文土器	B（11.5）	胴部片。胴部は内弯して立ち上がる。隆帯を垂下させ，隆帯に沿って平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母・礫 橙色，普通	TP199　5％

第297号土坑（第261・262図）

位置　調査1区の南西部，C 4 d3区。

重複関係　西側部分を第289号土坑に掘り込まれていることから，第289号土坑より古い。

規模と平面形　開口部は長径1.50m，短径1.15mの楕円形，底面は径2.73m，短径2.48mの楕円形で，深さは77cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　2か所。P 1は北西壁際に位置し，長径54cm，短径48cmの楕円形で，深さは24cmである。P 2は西壁寄りに位置し，径30cmの円形で，深さは16cmである。

覆土　14層に分層され，土層断面図中，第1層から第9層は，第289号土坑の覆土である。第10層から第13層が本跡の土層で，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

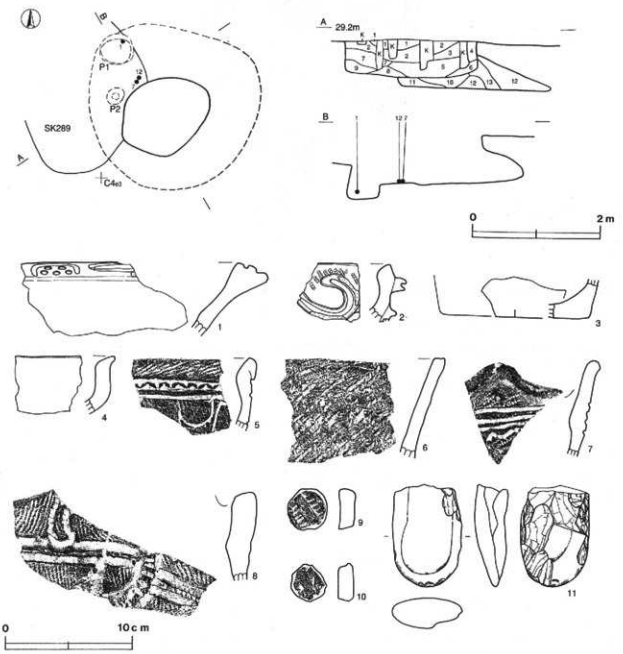
土層解説

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

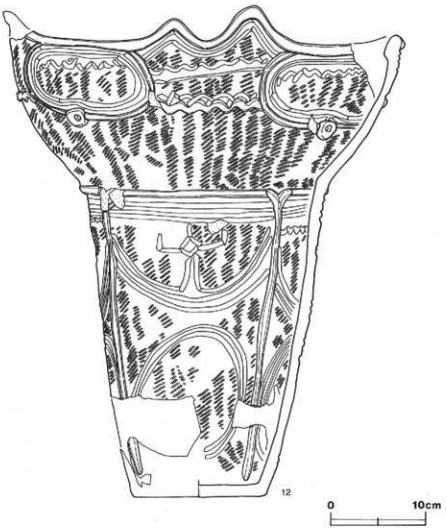
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
9　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
10　明褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
11　明褐色　ローム小ブロック少量・ローム粒子微量
12　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
13　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物　縄文土器片99点，土器片円盤２点，磨製石斧１点が出土している。そのうち縄文土器９点，土器片円盤２点，磨製石斧１点を抽出・図示した。第262図７は深鉢の口縁部片，12は口縁部から胴部が一部欠損する深鉢で，それぞれ北西部の底面から出土している。１は浅鉢の口縁部片で，Ｐ１の覆土から出土している。３は深鉢の底部片，２・４・５・６・８は深鉢の口縁部片，９・10は土器片円盤，11は磨製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，底面から出土した１の深鉢から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第261図　第297号土坑・出土遺物実測図



第262図　第297号土坑出土遺物実測図

第297号土坑出土遺物観察表（第261・262図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	浅　鉢 縄文土器	B　(5.7)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部は平坦。沈線で楕円形に区画し，区画文の中には刺突で文様を描出している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P363　5%
2	深　鉢 縄文土器	B　(4.5)	口縁部片。隆帯と沈線で渦巻状に突出した文様を作出している。RLの単節縄文を横方向に施している。	石英・パミス・針状鉱物 褐色 普通	P360　5%
3	深　鉢 縄文土器	B　(3.3) C [11.8]	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。無文。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P362　5%
4	深　鉢 縄文土器	B　(4.5)	口縁部片。口縁部は「く」の字状に立ち上がる。無文。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P361　5%
5	深　鉢 縄文土器	B　(5.8)	口縁部片。口縁部は内湾して立ち上がる。内側に稜を持つ。隆帯が巡り，隆帯に沿って交互刺突文を施している。沈線で文様を描出している。	長石・石英・雲母・礫 黒褐色 普通	TP200　5%
6	深　鉢 縄文土器	B　(8.0)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部は平坦である。Lの無節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	TP202　5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	深鉢 縄文土器	B (7.5)	波状口縁を呈する口縁部片。波状部には隆帯を施している。波底部には三条の沈線と波状沈線を施している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP201 5%
8	深鉢 縄文土器	B (7.0)	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部は欠損。口縁部は内傾気味に立ち上がる。隆帯と沈線で文様を描出している。隆帯にはキザミを施し，沈線内には爪形文を施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP203 5%
12	深鉢 縄文土器	A 40.2 B 51.7 C 14.0	口縁部から胴部の一部欠損。底部は外開して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。小波状口縁を呈する。口唇部は隆帯で楕円形の区画文を施し，区画内には波状沈線を施している。胴部と頸部との境には隆帯と平行沈線が巡る。頸部には隆帯を垂下し，菜帯風に沈線で文様を描出している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P339 90% PL29

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
9	土師片錘	3.2	3.1	1.3	13.0	土製	隆帯に沿って，結節沈線文を施している。	DP15 PL44
10	土器片円盤	2.9	2.8	1.2	11.3	土製	ほぼ円形で無文。周縁部は荒削り。	DP16

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
11	磨製石斧	(8.5)	5.5	2.7	(140.0)	安山岩	基部欠損。刃部平面形は円刃で，断面形は両刃	Q89

第303号土坑（第263・264図）

位置 調査1区の北西部，B4g6区。

重複関係 北西部の上面を第319号土坑に掘り込まれていることから，第319号土坑より古い。

規模と平面形 開口部は長径2.23m，短径1.76mの楕円形，底面は径2.75m，短径2.62mの楕円形で，深さは100cmである。

壁 フラスコ状を呈する。

底 ほぼ平坦である。

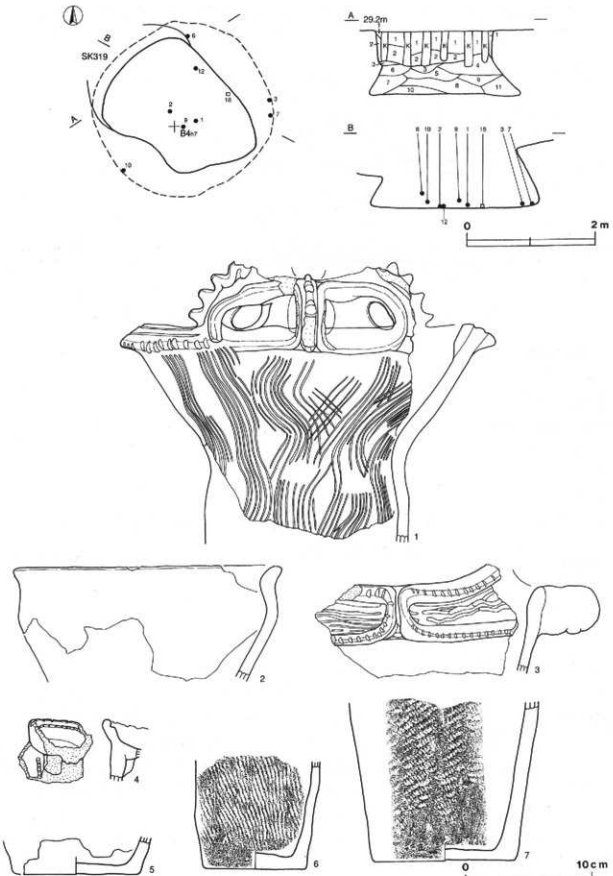
覆土 11層に分層され，土層断面図中，第1・2層は第319号土坑の覆土である。第3層から第11層が本跡の土層で，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

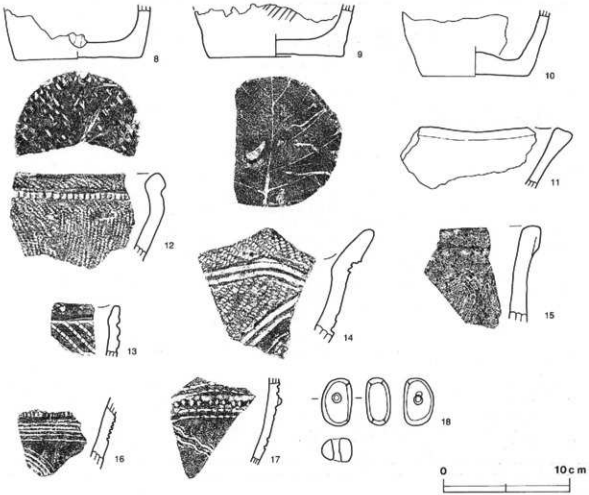
1 暗褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム小ブロック少量・ローム粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼沼パミス小ブロック微量
4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
5 暗褐色 ローム粒子・焼沼パミス小ブロック微量
6 黒褐色 ローム大ブロック多量，ローム中ブロック中量
7 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼沼パミス小ブロック少量
8 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・焼沼パミス小ブロック微量
10 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
11 黒褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼沼パミス小ブロック微量

遺物 縄文土器片215点，大珠1点が出土している。そのうち縄文土器17点，大珠1点を抽出・図示した。第264図18は大珠で，東部の底面から出土している。3は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，7は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，それぞれ東壁際の底面から出土している。12は深鉢の口縁部片で，北東部の底面から出土している。1は深鉢の眼鏡状把手を有する口縁部片，2は深鉢の口縁部片，9は深鉢の底部片で，中央部の覆土下層から出土している。10は深鉢の底部片で，南西部の覆土下層から出土している。6は口縁部が一部欠損する深鉢で，北部の覆土中層から出土している。4は深鉢の口縁の把手部，5・8は深鉢の底部片，11は浅鉢の口縁部片，13・14・15は深鉢の口縁部片，16・17は深鉢の胴部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台式Ⅳ式期)と考えられる。



第263図　第303号土坑・出土遺物実測図



第264図　第303号土坑出土遺物実測図

第303号土坑出土遺物観察表（第263・264図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［25.2］ B（20.9）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎する。把手は頭縁状把手を呈する。把手の突端には波状の隆帯を貼付させている。把手の突出部の中央には指頭による押圧を施している。胴部にはクシ状工具による波状文を波状に施している。	長石・石英・雲母 赤色粒子 にぶい橙色 普通	P364　5％ PL30
2	深　鉢 縄文土器	A［20.8］ B（9.0）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がり，「く」の字状に外反する。無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P365　10％
3	深　鉢 縄文土器	B（8.8）	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。隆帯と沈線を施している。隆帯で楕円形に区画し，区画内には波状沈線を施している。隆帯にはキザミを施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P366　5％
4	深　鉢 縄文土器	B（5.0）	把手部片。把手部は円形状を呈している。円形の周縁にはキザミを施している。その内側には結節沈線文を巡らしている。	長石・石英・雲母。 褐色 普通	P367　5％
5	深　鉢 縄文土器	B（3.1） C　10.0	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P371　5％
6	深　鉢 縄文土器	B（8.5） C　7.9	口縁部から胴部一部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部にはRの無節縄文を横方向や斜方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P369　10％
7	深　鉢 縄文土器	B（12.5） C　11.2	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部にはRLの羽節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい褐色，普通	P368　10％

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	深鉢 縄文上器	B (4.2) C 9.8	底部から胴部にかけての破片。底部から胴部にかけてやや外傾して立ち上がる。胴部には隆帯を垂下させている。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色、普通	P372 5% 底部側代裏有り
9	深鉢 縄文上器	B (4.1) C 10.6	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。斜位の条線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P370 10% 底部木葉痕有り
10	深鉢 縄文土器	B (5.0) C 8.4	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文で研磨している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P373 5%
11	浅鉢 縄文土器	B (4.8)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。波状口縁を呈する。口唇部は平坦。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P374 5% 口縁部内・外面 赤彩
12	深鉢 縄文上器	B (7.0)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。内側に浅をもつ。隆帯が巡り、隆帯に沿って結節沈線文を施している。地文はLRの単節縄文を縦や横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP204 5%
13	深鉢 縄文上器	B (4.0)	波状口縁を呈する口縁部片。波状部欠損。口縁部には隆帯を巡らせ、隆帯に沿って沈線を施している。そこから斜方向に複列の結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP207 5%
14	深鉢 縄文土器	B (9.2)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内弯気味に立ち上がり、波状部は外傾する。波底部には平行沈線文を巡らしている。口縁部には隆帯と平行沈線で文様を描出している。胴部は長しの単節縄文を横方向に、口縁部はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	TP205 5%
15	深鉢 縄文土器	B (7.6)	口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。隆帯を巡らせ、クシ状工具で渦巻状の文様を描出している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP206 5%
16	深鉢 縄文土器	B (5.5)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。結節沈線文と櫛歯状工具による沈線を巡らしている。クシ状工具で楕円形状に文様を描出している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP209 5%
17	深鉢 縄文土器	B (7.0)	胴部片。胴部は内弯して立ち上がる。後帯と平載竹管による連続押圧点と波状沈線で文様を描出している。隆帯にはキザミを施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP208 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
18	大珠	3.7	2.4	1.9	36.7	翡翠	平面形は一側縁が弧状を呈し、他の一側縁が直線的である。全長の約1／3のところに1か所穿孔されている。	Q90 PL44

第305号土坑（第265・266図）

位置　調査1区の北西部，B4b6区。

規模と平面形　開口部は長径1.60m，短径1.07mの楕円形，底面は長径2.75m，短径2.43mの楕円形で，深さは100cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

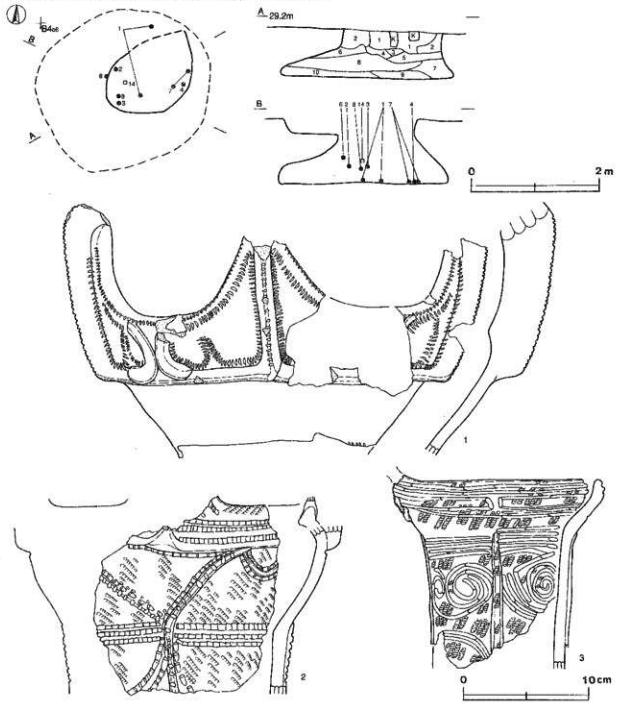
覆土　10層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

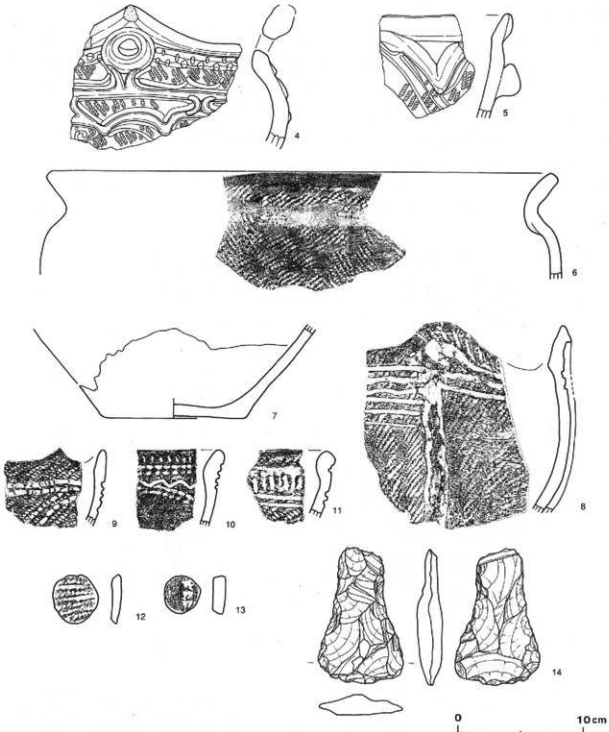
1 暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量
2 黒褐色　ローム粒子微量
3 黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
5 暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
8 暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
9 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
10 にぶい褐色　ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片212点，土器片円盤２点，打製石斧１点が出土している。そのうち縄文土器11点，土器片円盤２点，打製石斧１点を抽出・図示した。第265図１は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，北部から中央部にかけての底面から出土している。４は波状口縁を呈する深鉢，７は鉢の底部片で，それぞれ東部の底面から出土している。２は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片，３は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，６は甕の口縁部片，８は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，それぞれ中央部の覆土中層から出土している。14は打製石斧で，中央部の覆土中層から出土している。５・９～11は深鉢の口縁部片，12・13は土器片円盤で，それぞれ覆土から出土している。

所見　土器は中期中葉(阿玉台Ⅱ～Ⅳ式期)のものが出土している。時期は，底面から覆土下層にかけて出土している出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第265図　第305号土坑・出土遺物実測図



第266図　第305号土坑出土遺物実測図

第305号土坑出土遺物観察表（第265・266図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［25.0］ B（20.2）	波状口縁を呈する口縁部片。4単位の波状を呈する。波状部には隆帯を突出させ，隆帯に沿って結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P375　20% PL30
2	深　鉢 縄文土器	A［21.2］ B（15.7）	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部直下と頸部に縦列の結節沈線文を巡らしている。隆帯を「X」字状に施し，隆帯に沿って結節沈線文を施している。Rの無節縄文を横方向に施している。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	P377　5% PL30

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	素土・色調・焼成	備考
3	深鉢 縄文土器	A［15.2］ B（15.0）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部・口縁部はともに外傾して立ち上がる。口縁部には沈線で楕円形に区画文を施している。区画部との隙には平行沈線文を施している。胴部の上部に沈線が巡り，隆帯を垂下させている。胴部中位には渦巻状の沈線が巡る。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P376 10% PL30
4	深鉢 縄文土器	B（11.4）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。波頂部直下に貫通孔を渡り込むように隆帯が施され，隆帯と沈線で区画されている。区画内には隆帯に沿って連続刺突文が施されている。また，区画内には RL の羽節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P378 5%
5	深鉢 縄文土器	B（8.1）	口縁部片。口縁部はやや内弯して立ち上がる。IV，字状の隆帯を施している。隆帯に沿って沈線を施している。RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P379 5%
6	深鉢 縄文土器	A［39.2］ B（8.4）	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がり，口縁部は外傾する。口唇部直下には棒状工具による沈線を巡らしている。地文は LR の単節縄文を横方向に施している。	石英・長石・スコリア にぶい褐色 普通	P380 5%
7	鉢 縄文土器	B（7.6） C 11.2	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色，普通	P381 5% 外面赤彩
8	深鉢 縄文土器	B（15.0）	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部は隆帯と沈線で渦巻文を描出し，そこから隆帯を波状に垂下させている。頂部には隆帯に沿って沈線を施している。また，棒状工具による沈線を縦位に施している。口縁部は RL の単節縄文を縦方向に，地文は RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・礫 にぶい褐色 普通	TP210 5%
9	深鉢 縄文土器	B（6.0）	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内弯する。波底部には複列の結節沈線文を縦を描出している。地文は RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 灰褐色 普通	TP211 5%
10	深鉢 縄文土器	B（6.0）	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部には隆帯が巡り，キザミを施している。口縁部には隆帯に沿って複列の結節沈線文や波状沈線を施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	TP212 5%
11	深鉢 縄文土器	B（5.4）	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口唇部直下には隆帯が巡り，隆帯に沿って，粘土隆帯を描出し，間部に結節沈線文を施している。それに平行して平行沈線文を施している。地文は RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 褐色 普通	TP213 5%

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
12	土錘形円盤	3.9	3.6	0.7	12.6	土師	L の羽節縄文を施し，周縁部は部分的に研磨。	DP17 PL44
13	土錘形円盤	3.0	2.9	1.1	11.0	土師	板岩の結節沈線文を施している。	DP18 PL44

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
14	打製石斧	10.7	6.6	2.0	120.0	粘板岩	基部の幅が狭く，刃部の幅が広い。	Q91 PL46

第309号土坑（第267図）

位置　調査1区の西部，C 4 a5区。

規模と平面形　開口部は長径1.33m，短径1.08mの楕円形，底面は径2.07mの円形で，深さは72cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

覆土　13層に分層され，不規則な堆積状況から，人為埋積と考えられる。

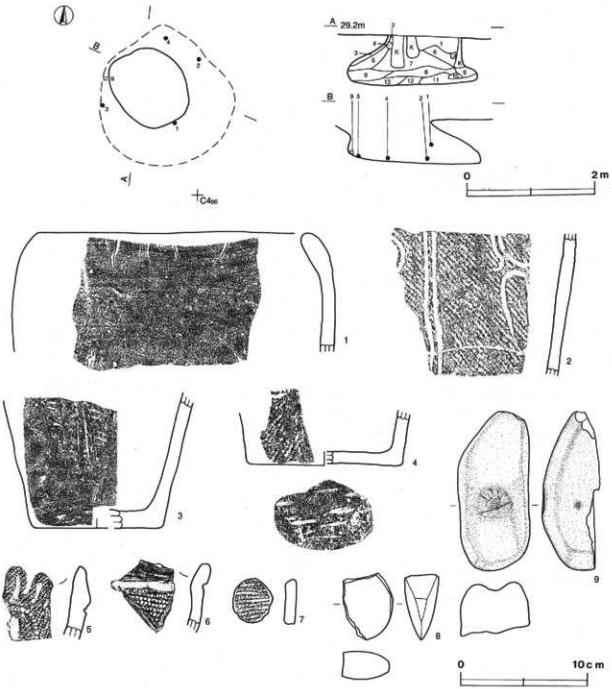
土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
5　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼油パミス小ブロック微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
9　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

10　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
11　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
12　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
13　黒褐色　ローム粒子微量

遺物　縄文土器片160点，土器片円盤１点，磨製石斧１点，凹石１点が出土している。そのうち縄文土器６点，土器片円盤１点，磨製石斧１点，凹石１点を抽出・図示した。３は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，西部の底面から出土している。９は凹石で，北西部の底面から出土している。２は深鉢の胴部片で，北東部の覆土下層から出土している。４は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，北部の覆土下層から出土している。１は深鉢の口縁部片で，中央部の覆土中層から出土している。５は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，６は深鉢の口縁部片，７は土器片円盤，８は磨製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台式Ⅳ式期)と考えられる。



第267図　第309号土坑出土遺物実測図

第309号土坑出土遺物観察表（第267図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A［21.6］ B（9.3）	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部は内彎して立ち上がる。内側に浅い稜を持つ。胴部は無文。	長石・雲母・スコリアにおい褐色 普通	P382 5%
2	深鉢 縄文土器	B（11.3）	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。平行沈線文を縦位に垂下させ，沈線で楕円形の区画文を施している。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 におい褐色 普通	P383 5%
3	深鉢 縄文土器	B（10.7） C［10.0］	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。無文。	長石・雲母 におい褐色 普通	P384 5%
4	深鉢 縄文土器	B（4.4） C［11.8］	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には縦位の沈線とLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・パミス におい褐色 普通	P385 5% 底部剥離痕有り
5	深鉢 縄文土器	B（5.8）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。粘行隆帯を貼付している。爪形文で楕円形状の文様を描出している。地文はLRの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP214 5%
6	深鉢 縄文土器	B（5.5）	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部は欠損。波底部には沈線を巡らしている。その直下には沈線で文様を描出している。地文はLRの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	TP215 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
7	土器片円盤	3.5	3.2	0.9	11.1	土器	Lの無節縄文を施している。	DP19 PL44

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	磨製石斧	(5.1)	3.9	2.8	(80.0)	緑色凝灰岩	刃部，刃部一部欠損。刃部平面形は円刃。	Q92
9	円石	12.5	5.7	4.6	430.0	砂岩	表面に1穿孔。	Q93

第312号土坑（第268～271図）

位置　調査1区の南西部，C4d3区。

重複関係　第267号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.54m，短径1.30mの楕円形，底面は長径2.84m，短径2.70mの円形で，深さは90cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　1か所。P1は西部に位置し，径28cmの円形で，深さは26cmである。

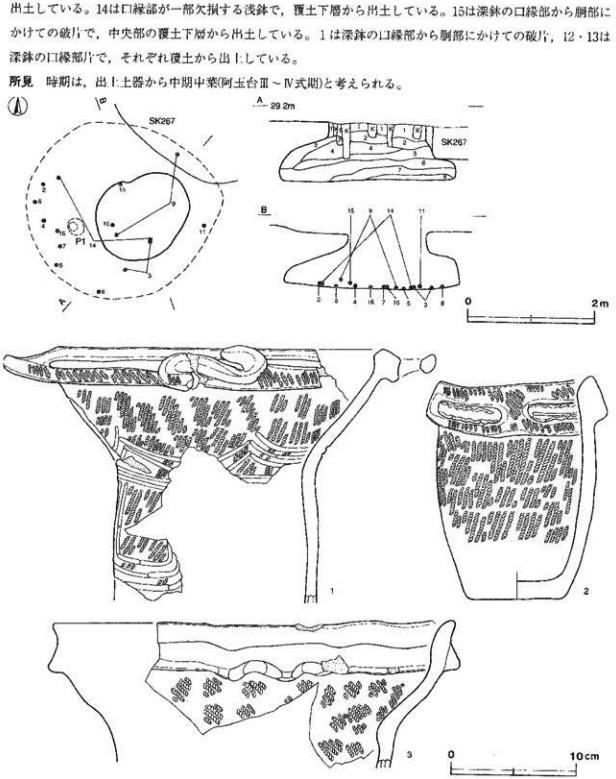
覆土　8層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
6　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
8　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量

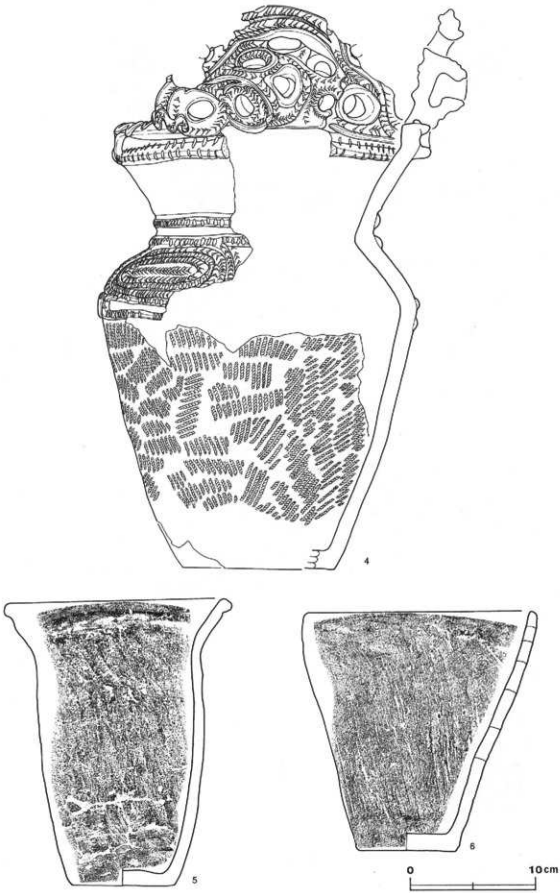
遺物　縄文土器片395点が出土している。そのうち縄文土器16点を抽出・図示した。第268図2は完形の深鉢で，西部の底面から正位で出土している。3は深鉢の口縁部片で，中央部から南部にかけての底面から出土している。4は口縁部，胴部が一部欠損する深鉢で，西部の底面から横位で出土している。5は胴部が一部欠損する

深鉢で，南西部の底面から正位で出土している。6は口縁部が一部欠損する深鉢で，西部の底面から出土している。7は口縁部及び底部が一部欠損する深鉢で，南西部の底面から逆位で出土している。8は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，南部の底面から出土している。10はミニチュア土器で，中央部の底面から出土している。11は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，東部の底面から出土している。16は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，西部の底面から出土している。9は甕の口縁部から胴部にかけての破片で，覆土下層から出土している。14は口縁部が一部欠損する浅鉢で，覆土下層から出土している。15は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，中央部の覆土下層から出土している。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，12・13は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

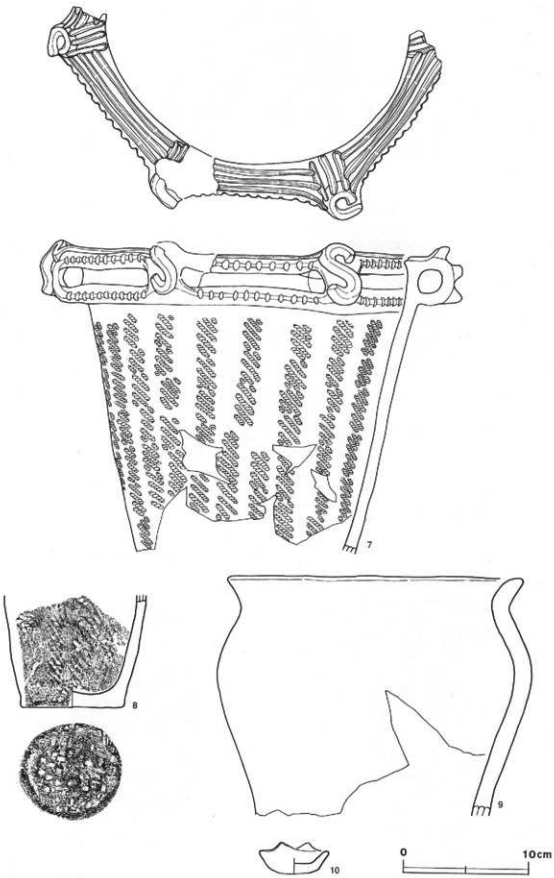
所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期)と考えられる。



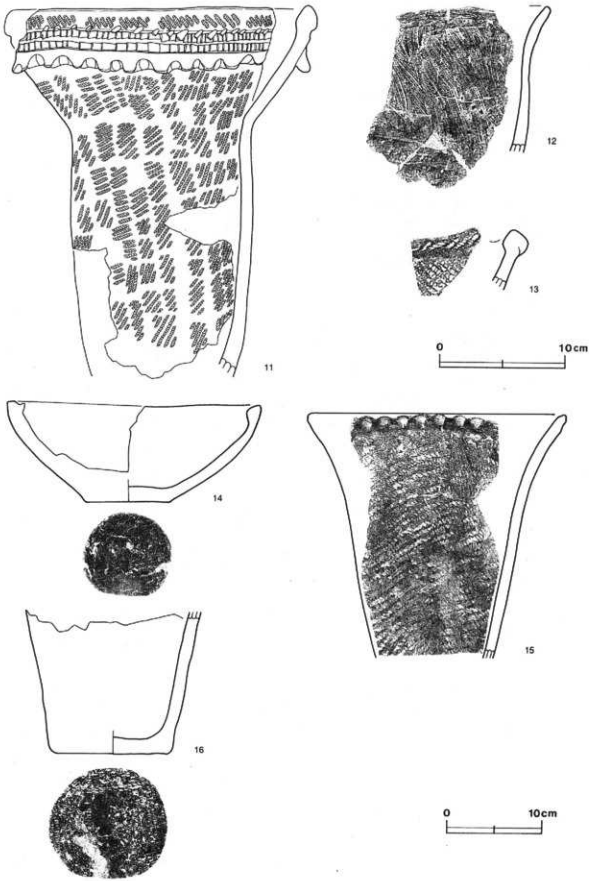
第268図　第312号土坑・出土遺物実測図



第269図　第312号土坑出土遺物実測図（1）



第270図　第312号土坑出土遺物実測図（２）



第271図　第312号土坑出土遺物実測図（3）

第312号土坑出土遺物観察表（第268～271図）

図版番号	器種	法量値(cm)	形状及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [25.6] B (19.9)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は外開する。口唇部直下には4単位の横5字状の隆帯を突出させている。胴部には2条の沈線で逆円形文方形の区画文を施している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P391 30% PL30
2	深鉢 縄文土器	A 12.0 B 17.4 C 7.2	完形。胴部はやや内弯して立ち上がり，口縁部は丸味をもって立ち上がる。口縁部には太い隆帯で治円形に区画され，区画内には波状の沈線を施している。地文はRLの半截縄文を施している。	長石・石英 橙色 普通	P388 100% PL30
3	深鉢 縄文土器	A [31.0] B (11.7)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。内側に段を持つ。口唇部直下には，一部に粗面による押圧を加えた太い隆帯を巡らしている。地文はRLの半截縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P392 20%
4	深鉢 縄文土器	A 23.0 B 44.5 C [11.8]	口縁部・胴部の一部欠損。波状口縁を呈する。胴部は内弯して立ち上がり，口縁部は外傾する。波状部は穿孔された孔の周囲を隆帯で突出させ，その隆帯に三角押文で文様を描出している。波底部や胴部との接には爪形文を巡らしている。胴部には三角押文や爪形文で，楕円形状の文様を描出している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P390 60% PL30
5	深鉢 縄文土器	A 16.8 B 22.9 C 7.9	胴部の一部欠損。胴部はやや内弯して立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部及び胴部は無文。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P386 90% PL30
6	深鉢 縄文土器	A 17.6 B 19.2 C 7.6	口縁部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。胴部には条痕文を施している。	長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P387 80% PL30
7	深鉢 縄文土器	A 30.0 B (24.3)	口縁部の一部欠損，底部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口唇部は平坦で，平坦部に沿線の沈線が巡る。口唇部には5字状の隆帯で突出部を6単位作出している。隆帯にはヘザミを施している。底部にはLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・赤色粒子 灰褐色 普通	P389 60% PL30
8	深鉢 縄文土器	B (8.8) C 8.0	口縁部から胴部の一部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部にはLRの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P396 15% 底部網代痕有り
9	鉢 縄文土器	A [23.0] B (19.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内弯して立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外反する。胴部は無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P397 30%
10	注口土器 縄文土器	A 5.2 B 2.5 C 3.9	波状部の一部欠損。波頂の波状口縁で2単位を有する。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P399 90%
11	深鉢 縄文土器	A [23.4] B (29.6)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部は内弯する。口唇部直下には隆帯が巡り，隆帯には棒状工具による押圧を施している。その下には短列の結節沈線文を巡らしている。さらにその下には太い沈線による押圧を施した隆帯が巡る。口縁部はRLの半截縄文を横方向に施し，胴部には長Lの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P393 40%
12	深鉢 縄文土器	B (11.6)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内傾して立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。胴部にはクシ状工具による沈線を施している。	石英・雲母・銀 にぶい褐色 普通	TP216 5%
13	深鉢 縄文土器	B (4.8)	波状口縁を呈する口縁部片。波状部を欠損。口唇部直下には隆帯が巡る。隆帯にはRLの半截縄文を縦方向に，地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	TP217 5%
14	浅鉢 縄文土器	A [26.8] B 10.6 C 9.0	口縁部から胴部の一部欠損。胴部はやや内傾して立ち上がり，口縁部は丸味をもって立ち上がる。胴部は無文。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P398 60% PL30 底部当て具痕有り
15	深鉢 縄文土器	A [27.0] B (25.9)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口唇部には隆帯が巡り，指頭による押圧を加えた隆帯を施している。	石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P394 30%
16	深鉢 縄文土器	B (15.1) C 12.7	胴部から底部にかけての破片。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部は無文で研磨している。	長石・石英・雲母・パミス にぶい橙色，普通	P395 30% 底部網代痕有り

第315号土坑（第272図）

位置　調査1区の西部，B4g6区。

重複関係　本跡が第316号土坑の西側部分を掘り込んでいることから，第316号土坑より新しい。また，第354・364号土坑と重複しているが，両土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　第316・354・364号土坑と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，開口部は長径2.30m，短径1.78mの楕円形，底面は長径2.73m，短径2.10mの楕円形で，深さは83cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

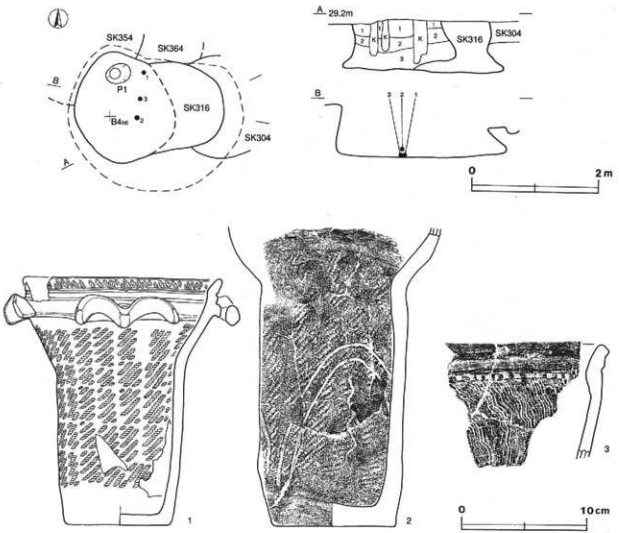
ピット　1か所。P1は北壁寄りに位置し，長径42cm，短径32cmの楕円形で，深さは37cmである。

覆土　3層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　縄文土器片140点が出土している。そのうち縄文土器3点を抽出・図示した。第272図1は口縁部が一部欠損する深鉢で，北東部の底面から出土している。3は深鉢の口縁部片で，中央部の底面から出土している。2は口縁部が一部欠損する深鉢で，中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。



第272図　第315号土坑・出土遺物実測図

第315号土坑出土遺物観察表（第272図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 15.5 B 19.6 C 8.1	口縁部の一部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がり，口縁部は外反してひろがる。口縁部直下には結節沈線文と太い隆帯を施している。口縁部には短い縦押によって4単位の波状に分けられている。波状部には孔が施されている。地文は R L の単節縄文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P400 90% PL30
2	深鉢 縄文土器	B (23.8) C 9.8	口縁部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外反する。胴部には沈線で U 字状の弧を描き，その内側に波状の沈線を施している。胴部には L R の単節縄文を施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P401 70% PL30
3	深鉢 縄文土器	B (9.0)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。口縁部は外傾する。口唇部直下には結節沈線文を巡らし，タシ状工具で波状沈線を縦位に施している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	TP218 5%

第316号土坑（第273図）

位置　調査1区の西部，B4g6区。

重複関係　西側部分を第315号土坑に掘り込まれていることから，第315号土坑より古い。また，第304・364号土坑と重複しているが，両土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形　第315・304・364号土坑と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，開口部は長径1.32m，短径0.75mの楕円形，底面は長径1.40m，短径1.04mの楕円形で，深さは83cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

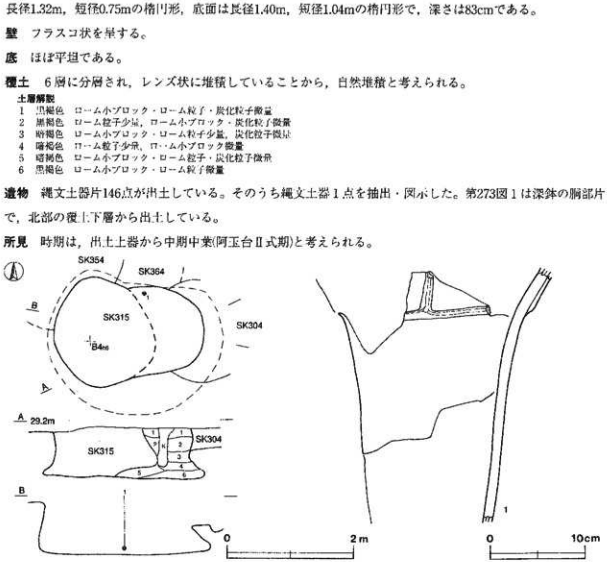
底　ほぼ平坦である。

覆土　6層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　縄文土器片146点が出土している。そのうち縄文土器1点を抽出・図示した。第273図1は深鉢の胴部片で，北部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第273図　第316号土坑・出土遺物実測図

第316号土坑出土遺物観察表（第273図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B（27.0）	頸部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，頸部で外傾する。頸部は隆帯で区画枠に文様を描出している。胴部は無文。	長石・石英・雲母にぶい褐色 普通	P402　30%

第321号土坑（第274～277図）

位置　調査1区の西部，C 4 a8区。

重複関係　北部の上面を第320号土坑に掘り込まれていることから，第320号土坑より古い。

規模と平面形　開口部は長径1.93m，短径1.22mの楕円形，底面は長径2.85m，短径2.57mの楕円形で，深さは105cmである。

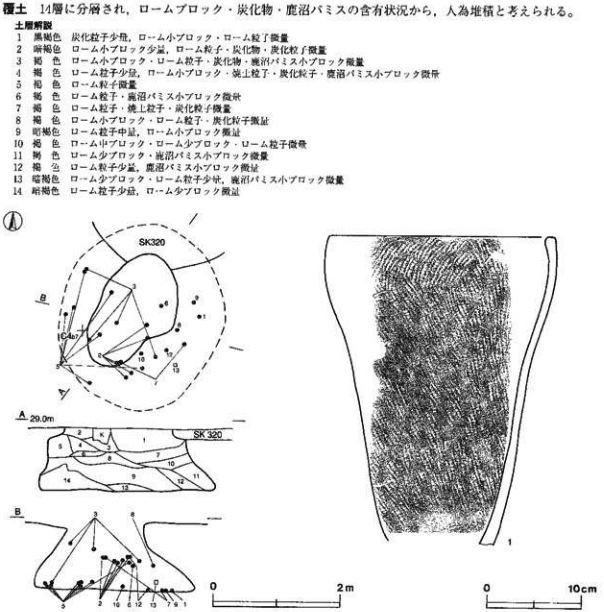
壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

覆土　14層に分層され，ロームブロック・炭化物・鹿沼パミスの含有状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

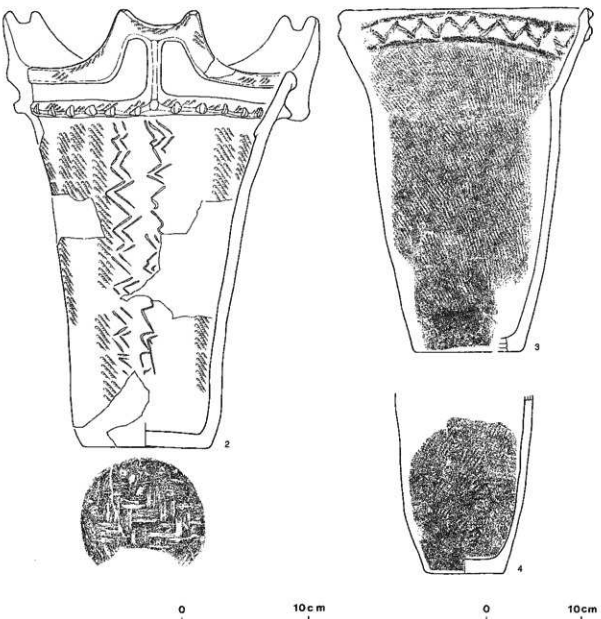
1　黒褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・鹿沼パミス小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子微量
6　褐　色　ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
10　褐　色　ローム中ブロック・ローム少ブロック・ローム粒子微量
11　褐　色　ローム少ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
12　褐　色　ローム粒子少量，鹿沼パミス小ブロック微量
13　暗褐色　ローム少ブロック・ローム粒子少量，鹿沼パミス小ブロック微量
14　暗褐色　ローム粒子少量，ローム少ブロック微量



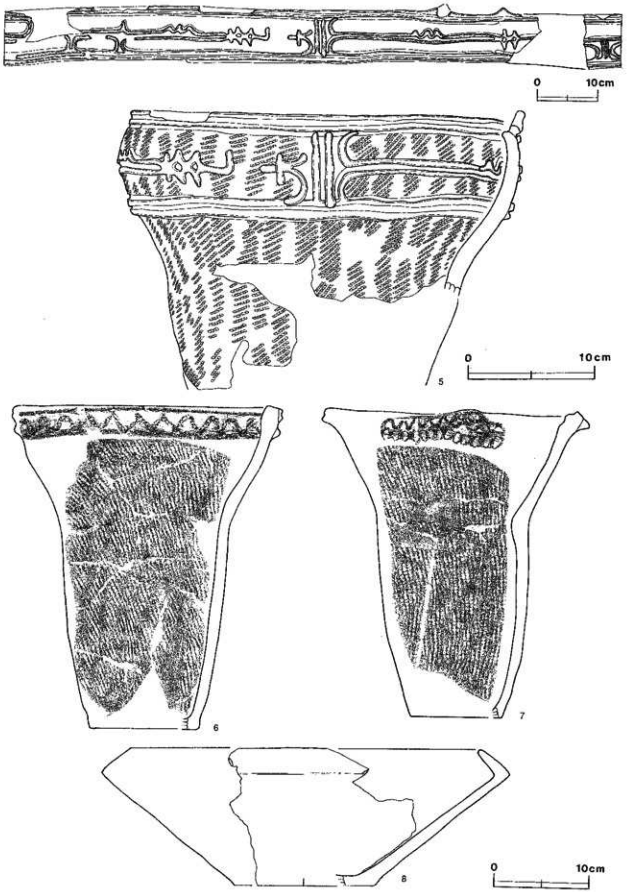
第274図　第321号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片252点，石皿１点が出土している。そのうち縄文土器12点，石皿１点を抽出・図示した。第274図１は底部が欠損する深鉢で，東部の底面から出土している。９は口縁部から胴部が一部欠損する深鉢で，東部の底面から横位で出土している。12は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，南東部の底面から横位で出土している。５は底部が欠損する深鉢で，中央部から西部にかけての底面から覆土下層にかけて出土している。７は胴部が一部欠損する深鉢で，南部から東部にかけての底面から覆土中層にかけて出土している。３は胴部が一部欠損する深鉢で，中央部から北西部にかけての覆土下層から中層にかけて出土している。10は深鉢の口縁部片で，南部の覆土下層から出土している。13は石皿で，南東部の覆土下層から出土している。２は口縁部が一部欠損する深鉢で，中央部の覆土中層から出土している。６は胴部が一部欠損する深鉢で，中央部の覆土中層から横位で出土している。８は浅鉢の口縁部から底部にかけての破片で，東部の覆土中層から出土している。４は深鉢の胴部から底部にかけての破片，11は深鉢の胴部片で，それぞれ覆土から出土している。

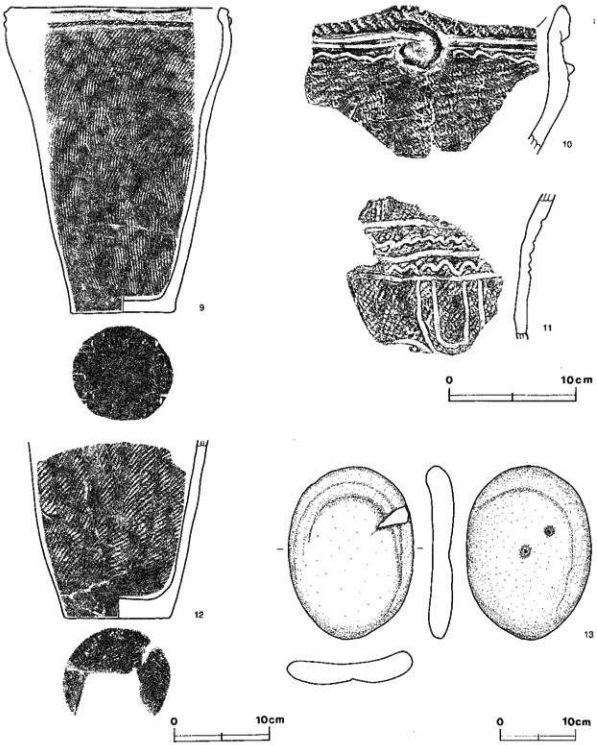
所見　時期は出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)にかけてと考えられる。



第275図　第321号土坑出土遺物実測図（１）



第276図　第321号土坑出土遺物実測図（2）



第277図　第321号土坑出土遺物実測図（3）

第321号土坑出土遺物観察表（第274～277図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A　23.8 B（33.0）	底部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内弯気味に立ち上がる。口縁部はLRの半截縄文を横方向に，胴部には縦方向に施している。	長石・雲母 胴部上半にぶい褐色 胴部下半黒褐色 普通	P 406　90% P L 31 外面スス付着

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	深鉢 縄文上器	A [21.9] B 34.5 C 10.0	口縁部、胴部の一部欠損。3単位の波状口縁を呈する。胴部・口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部直下には、指頭による押圧を加えた隆帯が巡されている。胴部にはLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P403 70% P L31 底部網代痕有り
3	深鉢 縄文上器	A 25.2 B 36.3 C [11.0]	底部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや内弯して立ち上がる。口縁部は幅の狭い2本の隆帯が巡り、その中に、波状の降帯を巡らしている。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 胴部上半黒褐色 胴部下半にぶい褐色 普通	P409 60% P L31 外面スス付着
4	深鉢 縄文土器	B (19.0) C 8.2	口縁部欠損。胴部は直線的に立ち上がる。胴部はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 胴部上半黒褐色 胴部下半にぶい褐色 普通	P412 30%
5	深鉢 縄文上器	A 29.7 B (21.7)	底部欠損。胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は内弯する。口唇部直下には隆帯と沈線が巡る。口縁部には隆帯で楕円形状や「大」の字状などの文様を描出し、また、2本の隆帯を巡らしている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P408 60% P L31
6	深鉢 縄文上器	A 26.0 B 34.3 C [11.4]	底部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや内弯して立ち上がる。口縁部は幅の太い隆帯が巡り、その上部に、波状の隆帯が貼り付けられ、巡っている。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 胴部上半黒褐色 胴部下半にぶい黄橙色,普通	P410 70% P L31
7	深鉢 縄文上器	A 26.8 B 32.5 C [9.8]	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部で外傾する。口縁部の内側に段を持つ。4単位の小波状口縁を呈する。口唇部直下には押圧文を有する隆帯を巡らし、口縁部には波状の降帯を貼付している。隆帯にはキザミを施している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・赤色粒子 胴部上半一部黒褐色 胴部下半にぶい褐色 普通	P404 60% P L31 外面スス付着
8	浅鉢 縄文土器	A [37.0] B 14.6 C [14.6]	口縁部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は「く」の字状に内傾する。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P413 20%l.
9	深鉢 縄文土器	A 22.1 B 32.4 C 11.0	口縁部から胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は丸味をもって立ち上がる。口縁部直下には降帯と沈線が巡り、隆帯及び胴部にはLRの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 胴部上半にぶい橙色 胴部下半黒褐色 普通	P405 70% P L31 外面スス付着 底部網代痕有り
10	深鉢 縄文土器	B (11.7)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。内側に稜を持つ。波頂部にはキザミを施している。口唇部には隆帯を巡らし、降帯に平行して平行沈線文と波状沈線文を巡らしている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP220 5%
11	深鉢 縄文土器	B (11.5)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。沈線と波状沈線を巡らしている。その下方に沈線で「U」字状の文様を描出している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP221 5%
12	深鉢 縄文土器	B (18.7) C 10.9	口縁部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。胴部はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P411 30% 底部網代痕有り

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
13	石皿 (凹石)	22.9	16.6	3.6	1840.0	安山岩	機能面の周囲に明瞭な線を有さず、機能面がわずかに凹む。裏面に2穿孔。	Q95 P L47

第322号土坑（第278・279図）

位置 調査1区の西部，C 4 a8区。

重複関係 南側部分を第320号土坑に掘り込まれていることから，第320号土坑より古い。第352号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 第320・352号土坑と重複していることから，規模及び平面形はともに推定で，開口部は長径1.63m，短径1.52mの円形，底面は長径2.50m，短径2.38mの円形で，深さは85cmである。

壁 フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

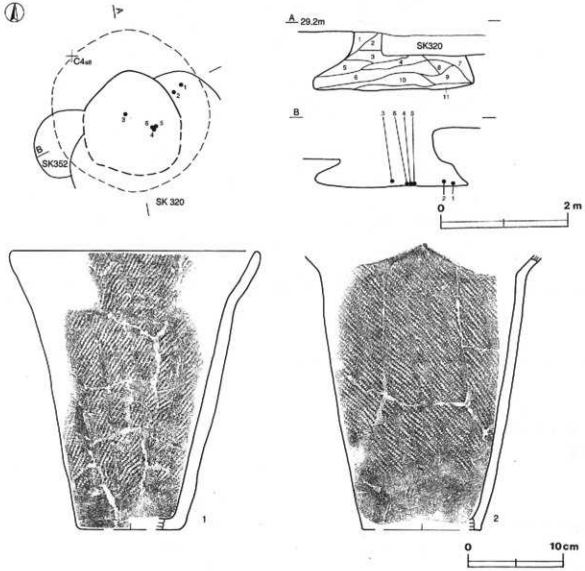
覆土　11層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

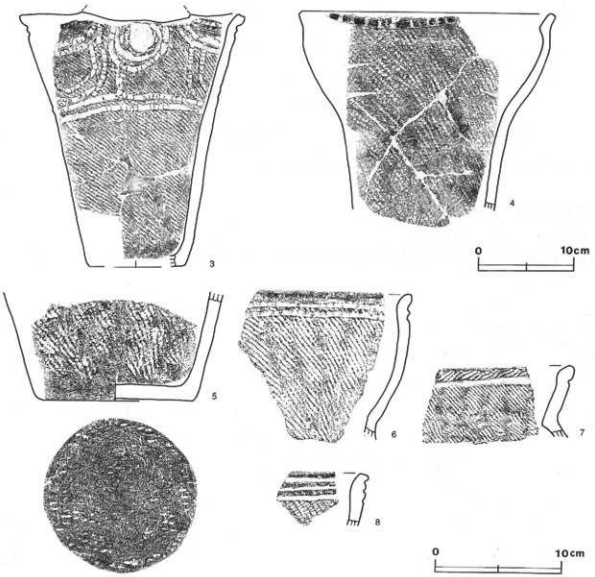
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
11　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　縄文土器片198点が出土している。そのうち縄文土器８点を抽出・図示した。第278図１は口縁部が一部欠損する深鉢で，東部の覆土下層から横位で出土している。２は深鉢の口縁部から底部にかけての破片で，東部の覆土下層から横位で出土している。３は口縁部及び胴部が一部欠損する深鉢，４は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，５は深鉢の底部片，６は深鉢の口縁部片で，それぞれ中央部の覆土下層から出土している。７・８は深鉢の口縁部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第278図　第322号土坑・出土遺物実測図



第279図　第322号土坑出土遺物実測図

第322号土坑出土遺物観察表（第278・279図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 26.0 B 29.6 C [10.5]	胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部はやや内彎する。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P415 90% P L.31
2	深鉢 縄文土器	B (29.3) C [12.6]	口縁部・底部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，頸部で屈折する。胴部にはＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母。 胴部上半黒褐色 胴部下半にぶい黄橙色，普通	P418 40% P L.31 外面スス付着
3	深鉢 縄文土器	A [23.0] B 27.4 C [10.2]	口縁部，底部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には円形の隆帯が施され，その外側に複列の結節沈線文を施している。結節沈線文で２重に楕円形を描出している。胴部は横位に結節沈線文を巡らし，Ｌの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・礫 胴部上半黒褐色 胴部下半にぶい橙色 普通	P416 40% 外面スス付着
4	深鉢 縄文土器	A [26.4] B (20.9)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部の内側に稜を持つ。口唇部にはキザミを施している。口縁部から胴部にかけてＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P417 10% 外面スス付着
5	深鉢 縄文土器	B (8.6) C 12.2	口縁部欠損。胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。胴部はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P419 20% 底部調代痕有り

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
6	深　鉢 縄文土器	B（11.6）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯が巡り，隆帯に沿って複列の結節沈線文を施している。地文はLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP222　5%
7	深　鉢 縄文土器	B（5.5）	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。口唇部直下には隆帯が巡り，隆帯に平行して沈線が巡る。隆帯にはLRの単節縄文を横方向に，地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP223　5%
8	深　鉢 縄文土器	B（4.1）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部に平行して複列の結節沈線文を施している。地文はRLの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP224　5%

第325号土坑（第280・281図）

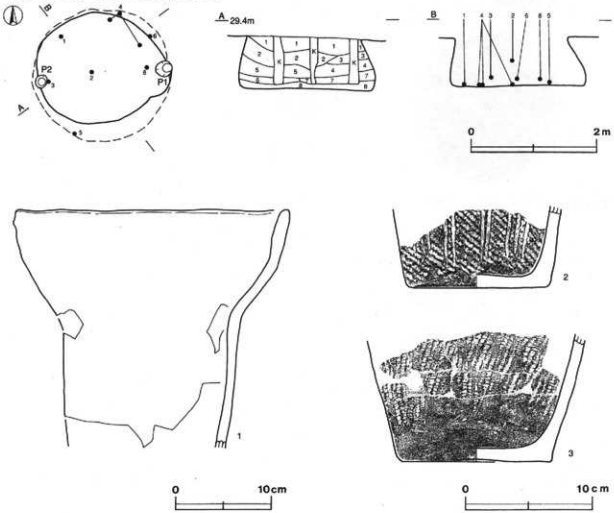
位置　調査1区の北部，B4g0区。

規模と平面形　開口部は長径2.10m，短径1.73mの楕円形，底面は長径2.18m，短径2.08mの円形で，深さは80cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

ピット　2か所。P1は東壁際に位置し，径25cmの円形で，深さは20cmである。P2は西壁際に位置し，径18cm，の円形で，深さは17cmである。



第280図　第325号土坑・出土遺物実測図

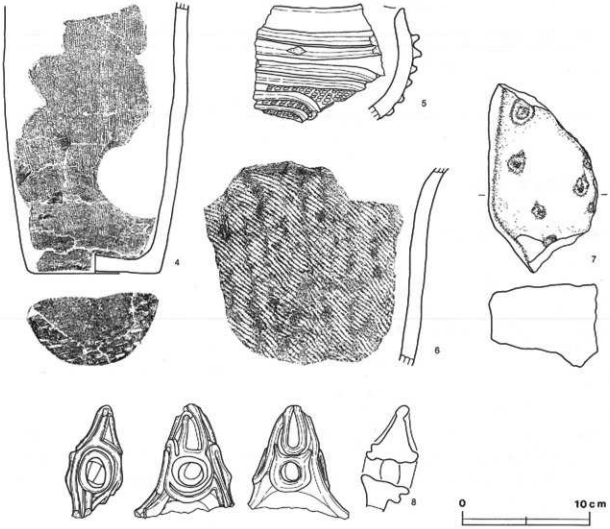
覆土　8層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　縄文土器片220点，凹石1点が出土している。そのうち縄文土器7点，凹石1点を抽出・図示した。第280図1は底部が欠損する深鉢で，北西壁際の底面から出土している。4は口縁部及び胴部が一部欠損する深鉢で，北部の底面から出土している。5は深鉢の口縁部片で，南壁際の覆土下層から出土している。3は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，西部の覆土下層から逆位で出土している。8は波状口縁を呈する深鉢の波頂部片で，東部の覆土下層から出土している。6は深鉢の胴部片で，北東部の覆土下層から出土している。2は深鉢の底部片で，中央部の覆土中層から出土している。7は凹石で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



第281図　第325号土坑出土遺物実測図

第325号土坑出土遺物観察表（第280・281図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 28.5 B (25.4)	底部、胴部の一部欠損。胴部は真線的に立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部直下には微を持つ。胴部は無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P420 40% PL31 外面スス付着
2	深鉢 縄文土器	B (6.5) C 11.1	口縁部、胴部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には縦位に沈線を施している。胴部はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 橙色 普通	P425 10%
3	深鉢 縄文土器	B (10.1) C 11.8	口縁部、胴部の一部欠損。器部は外傾して立ち上がる。胴部はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・スコリア 橙色，普通	P424 20%
4	深鉢 縄文土器	B (21.5) C 10.3	口縁部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。胴部は撚り糸文を施している。	長石・雲母。 明赤褐色 普通	P423 20% 底部網代痕有り
5	深鉢 縄文土器	B (9.4)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下には2本の隆帯を巡らしている。口縁部には2本の隆帯で区画文を施している。区画内にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P421 5%
6	深鉢 縄文土器	B (15.6)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	TP225 5%
8	深鉢 縄文土器	B (9.0)	把手部片。把手部の4面に孔が空けられている。孔の周りには隆帯と沈線で，区画文を施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P422 5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
7	円石	15.0	8.6	6.6	980.0	砂岩	機能面の周囲に明瞭な縁を有さず，機能面がわずかに凹む。表面が穿孔。	Q99

第326号土坑（第282図）

位置　調査1区の西部，B4h0区。

規模と平面形　開口部は長径1.50m，短径1.30mの楕円形，底面は長径1.80m，短径1.70mの円形で，深さは43cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

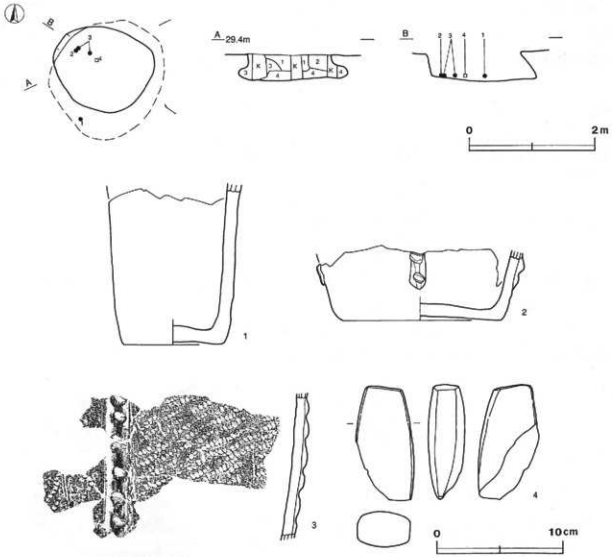
覆土　4層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　縄文土器片70点，磨製石斧1点が出土している。そのうち縄文土器3点，磨製石斧1点を抽出・図示した。第282図1は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，南西壁際の覆土下層から出土している。2は深鉢の底部片，3は深鉢の胴部片で，それぞれ北西部の覆土下層から出土している。4は磨製石斧で，中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。



第282図　第326号土坑・出土遺物実測図

第326号土坑出土遺物観察表（第282図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B（12.7） C　8.0	口縁部欠損。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は無文。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P426　30% 外面スス付着
2	深鉢 縄文土器	B（5.9） C　12.4	口縁部、胴部の一部欠損。胴部はやや外傾して立ち上がる。胴部には隆帯を垂下させ,その一部に押圧を加えた隆帯を施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P427　10%
3	深鉢 縄文土器	B（11.3）	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。隆帯を垂下させ、指頭による押圧を加えた隆帯を施している。地文は玉し の草筋縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	TP226　5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	磨製石斧	(8.8)	5.0	3.0	(160.0)	緑色凝灰岩	刃部欠損。定角式石斧。	Q100

第327号土坑（第283図）

位置　調査１区の北部，Ｂ５g1区。

規模と平面形　開口部は長径1.54m，短径1.50mの円形，底面は長径2.30m，短径2.02mの楕円形で，深さは50cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

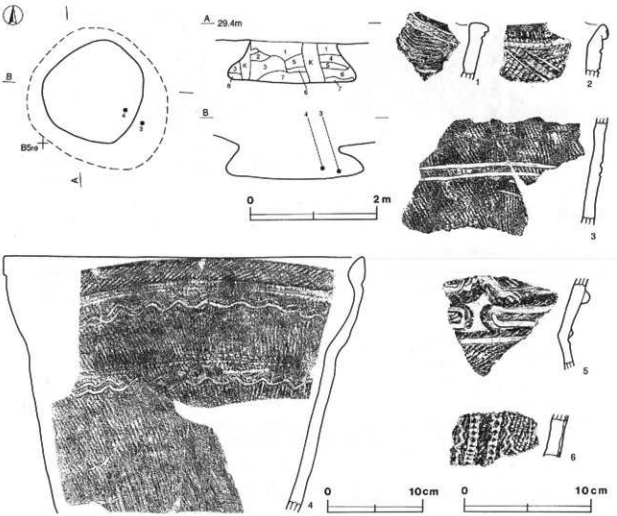
覆土　７層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
7　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片160点が出土している。そのうち縄文土器６点を抽出・図示した。第283図３は深鉢の胴部片で，南東部の覆土下層から出土している。４は底部が欠損する深鉢で，中央部の覆土中層から出土している。１・２は深鉢の口縁部片，５は深鉢の頸部片，６は深鉢の胴部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第283図　第327号土坑・出土遺物実測図

第237号土坑出土遺物観察表（第283図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B（4.5）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部直下には縦列の結節沈線文を施している。口縁部はクシ状工具による沈線を施している。	長石・石英・雲母に赤褐色 普通	TP227 5%
2	深鉢 縄文土器	B（4.2）	波状口縁を呈する口縁部片。波状部は欠損。隆帯が走り、隆帯に沿って結節沈線文を施している。また、結節沈線文を斜位に施している。隆帯にはキザミを施している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母・礫に赤褐色 普通	TP228 5%
3	深鉢 縄文土器	B（8.4）	頸部片。頸部は外傾して立ち上がる。棒状工具による沈線文を施している。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母に赤褐色 普通	TP230 5%
4	深鉢 縄文土器	A 37.6 B（27.5）	口縁部から胴部にかけての破片。頸部は外傾して立ち上がり、口縁部は内彎する。口縁部には縦列の結節沈線文と波状沈線を巡らしている。地文はLRの単節縄文を縦や斜方向に施している。	長石・石英・雲母 胴部上半に赤褐色 胴部下半黒褐色 普通	P428 50% PL32
5	深鉢 縄文土器	B（7.0）	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。断面三角形の隆帯で「X」字状の隆帯による文様を描出している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	TP229 5%
6	深鉢 縄文土器	B（3.5）	胴部片。頸部は外傾して立ち上がる。隆帯を垂下させ、隆帯に沿って爪形文と波状沈線を施している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母に赤褐色 普通	TP231 5%

第329号土坑（第284図）

位置　調査1区の中央部，B4h0区。

重複関係　第330号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は径0.90mの円形，底面は径2.30mの円形で，深さは130cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

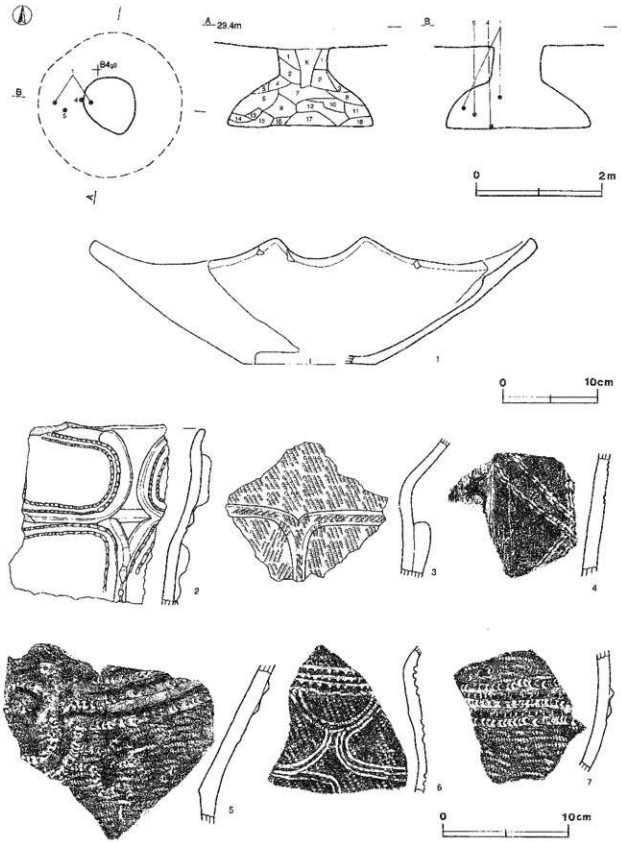
底　ほぼ平坦である。

覆土　18層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　黒褐色　炭化物・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
7　黒褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
9　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
10　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒褐色　ローム粒子・地山パミス小ブロック微量
12　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
13　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
14　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
15　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子微量
17　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
18　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　縄文土器片246点が出土している。そのうち縄文土器7点を抽出・図示した。第284図4は深鉢の胴部片で，中央部の覆土下層から出土している。1は浅鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，中央部から西部にかけての覆土中層から出土している。5は深鉢の胴部片で，西部の覆土中層から出土している。2は深鉢の口縁部片，3は深鉢の頸部片，6・7は深鉢の胴部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期)と考えられる。



第284図　第329号土坑・出土遺物実測図

第329号土坑出土遺物観察表（第284図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	浅鉢 縄文土器	A [46.0] B 13.3 C [14.0]	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎気味に立ち上がり,口縁部に至る。波状口縁で,波状部は双頭を呈する。口縁部の内側に稜を持つ。胴部は強文で研磨している。	長石・石英 橙色 普通	P431 20%
2	深鉢 縄文土器	B (13.8)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり,口縁部に至る。口縁部直下には「X」字状に隆帯を施し,隆帯の内側に複列の結節沈線文を施している。その下に「V」字状の隆帯を施し,垂下した隆帯には指頭による押圧を施している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P429 5%
3	深鉢 縄文土器	B (11.2)	頸部片。頸部は外傾して立ち上がる。Lの無節縄文を横方向に施した「V」字状の隆帯を貼付している。地文はLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母・赤色粒子 灰褐色 普通	P430 5%
4	深鉢 縄文土器	B (9.6)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。隆帯を垂下させ,棍棒による押圧を加えた隆帯を施している。隆帯に沿って沈線を施している。また,半截竹管による連続押圧で,文様を描出している。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP232 5%
5	深鉢 縄文土器	B (12.8)	胴部片。胴部は内彎気味に立ち上がる。新面三角形の隆帯で区画文と蕨巻文を施している。隆帯に沿って爪形文を施している。地文はRLの羽節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP235 5%
6	深鉢 縄文土器	B (11.7)	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。平行沈線文を巡らし,平行沈線内に棒状工具による刺突文を施している。また,複列の結節沈線文で楕円形状の区画文を描している。地文はRLの羽節縄文を横方向に施している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	TP233 5%
7	深鉢 縄文土器	B (9.5)	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。2本の隆帯を巡らせ,隆帯に沿って爪形文を施している。地文はRLの羽節縄文を斜方向に施している。	長石・雲母・礫 暗褐色 普通	TP234 5%

第330号土坑（第285・286図）

位置　調査1区の中央部，B4h0区。

重複関係　第329号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形　開口部は長径1.74m，短径1.45mの楕円形，底面は長径2.10m，短径1.92mの円形で，深さは58cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

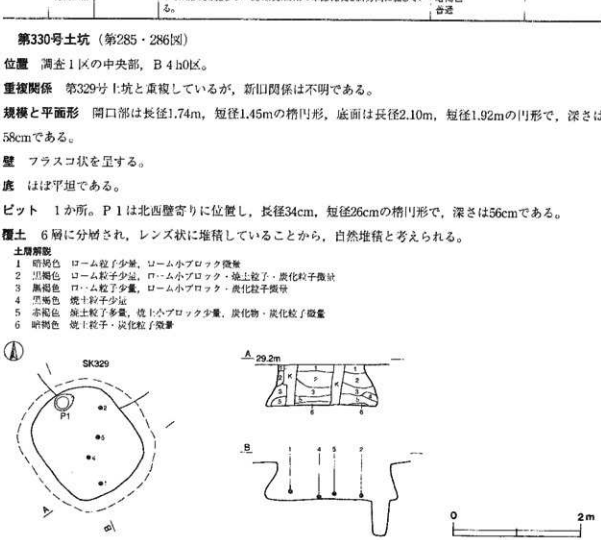
底　ほぼ平坦である。

ピット　1か所。P1は北西壁寄りに位置し，長径34cm，短径26cmの楕円形で，深さは56cmである。

覆土　6層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

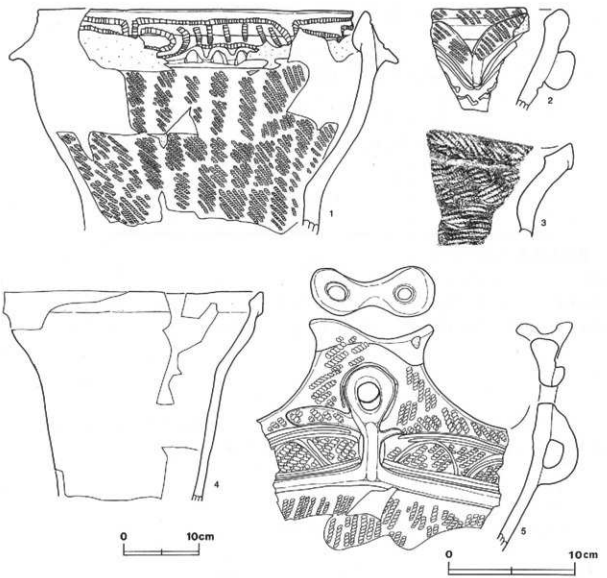
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　焼土粒子少量
5　赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
6　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量



第285図　第330号土坑実測図

遺物　縄文土器片272点が出土している。そのうち縄文土器５点を抽出・図示した。第286図１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，南部の覆土下層から出土している。２は深鉢の口縁部片で，北部の覆土下層から出土している。４は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，中央部の覆土下層から出土している。５は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，中央部の覆土下層から横位で出土している。３は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第286図　第330号土坑出土遺物実測図

第330号土坑出土遺物観察表（第286図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	A［26.0］ B（17.6）	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部で内彎する。口唇部直下には結節沈線文で文様を描出している。また，短い隆帯を施し，隆帯の下方から指頭による押圧を施している。隆帯に沿って沈線を施している。地文は撚糸の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 に赤い赤褐色 普通	P432　10%
2	深　鉢 縄文土器	B（8.0）	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。口唇部直下には隆帯を「V」字状に折り曲げて貼付し，小突起を作出している。「V」字状の外側には二重に沈線を施している。隆帯には撚糸の単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 に赤い褐色 普通	P435　5%

図版番号	器種	計測値(cm)	形態及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	深鉢 縄文土器	B（8.2）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内傾して立ち上がる。隆帯にはRLの単節縄文を横方向に施した隆帯を巡らしている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP236　5%
4	深鉢 縄文土器	A（33.8） B（27.6）	口縁部，胴部の一部欠損。胴部・口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部には隆帯を巡らしている。胴部は縄文で調整している。	長石・石英・雲母 に赤い褐色 普通	P434　40%
5	深鉢 縄文土器	B（18.2）	波状口縁を呈する口縁部片。波状部は及川を並する。波頂部には眼鏡状の突出部を施している。波状部の中央には円形状に隆帯を施し，そこから下方に隆帯を突出させている。波底部には波頂で隆帯状の区画文を張出している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 に赤い橙色 普通	P433　10%

第334号土坑（第287・288図）

位置　調査1区の北西部，A 4 i5区。

規模と平面形　開口部は長径2.18m，短径1.75mの楕円形，底面は長径2.00m，短径1.75mの楕円形で，深さは140cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

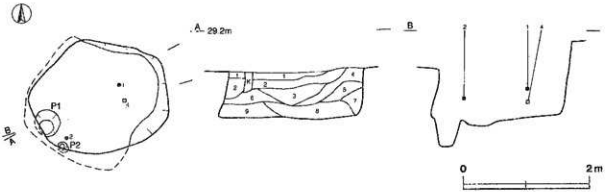
ピット　2か所。P 1は南西壁際に位置し，径40cmの円形で，深さは46cmである。P 2は南西部に位置し，径18cmの円形で，深さは26cmである。

覆土　9層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

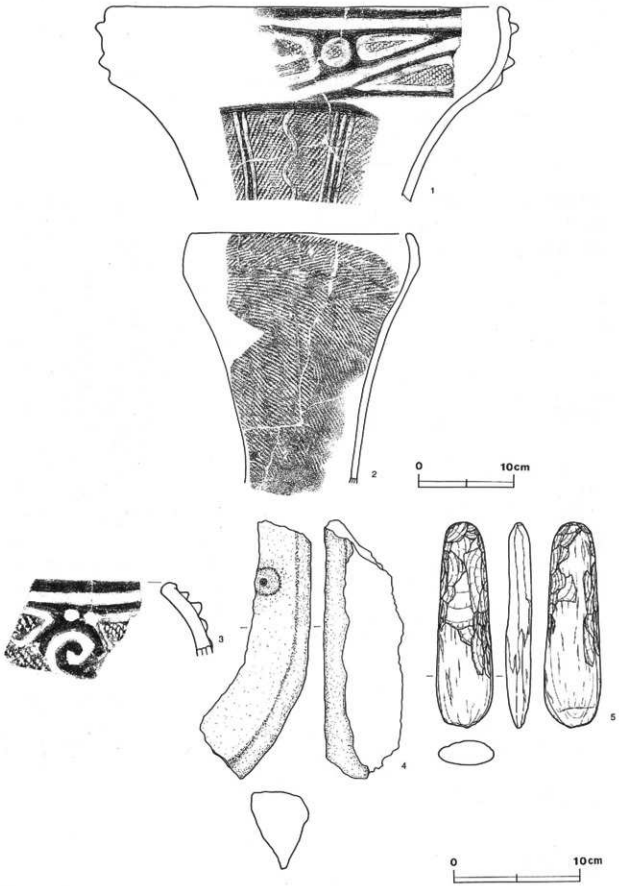
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
7　褐　色　ローム粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　縄文土器片130点，石皿(凹石)1点，磨製石斧1点が出土している。そのうち縄文土器3点，石皿(凹石)1点，磨製石斧1点を抽出・図示した。第288図2は底部が欠損する深鉢で，南西部の覆土中層から横位で出土している。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，4は石皿(凹石)で，それぞれ中央部の覆土中層から出土している。3は深鉢の口縁部片，5は磨製石斧で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉(加曽利E 1式期)と考えられる。



第287図　第334号土坑実測図



第288図　第334号土坑出土遺物実測図

第334号土坑出土遺物観察表（第288図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A［41.0］ B（20.6）	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。隆帯には RL の単節縄文を横方向に施した隆帯を巡らしている。地文は RL の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P437 10%
2	深鉢 縄文土器	A 23.2 B（26.6）	口縁部、胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部には隆帯を巡らしている。胴部は無文で磨している。	長石・石英・雲母 バミス にぶい赤橙色、普通	P436 70% PL31
3	深鉢 縄文土器	B（6.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部直下には沈線を巡らしている。口縁部には沈線と浮帯で渦巻文や区画文を施している。区画内には RL の単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	TP237 5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	石皿 (凹石)	20.3	5.3	6.1	800.0	砂岩	機能面の周囲に明瞭な縁を有さず、機能面がわずかに凹む。表面1穿孔。	Q102
5	磨製石斧	(16.3)	4.4	2.0	(200.0)	緑泥片岩	刃部欠損。	Q101 PL46

第335号土坑（第289・290図）

位置　調査1区の中央部，B 5 h1区。

規模と平面形　開口部は長径1.68m，短径1.50mの楕円形，底面は長径1.85m，短径1.60mの楕円形で，深さは62cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

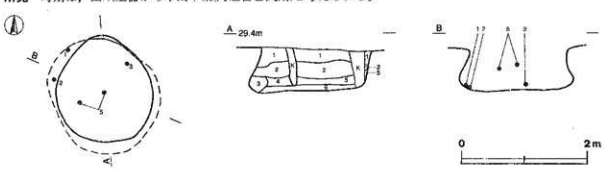
覆土　6層に分層され，第1・2層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。第3～6層は不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

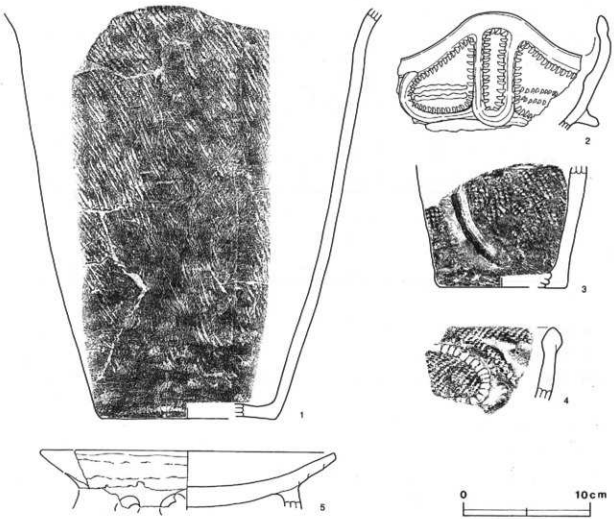
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　黒　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量
5　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
6　褐　色　ローム粒子・鹿沼パミス小ブロック微量

遺物　縄文土器片90点が出土している。そのうち縄文土器5点を抽出・図示した。第290図1は口縁部が欠損する深鉢，2は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，それぞれ北西壁際の底面から出土している。3は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，北東部の覆土下層から出土している。5は器台片で，中央部の覆土中層から出土している。4は深鉢の口縁部片で，覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第289図　第335号土坑実測図



第290図　第335号土坑出土遺物実測図

第335号土坑出土遺物観察表（第290図）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
1	深　鉢 縄文土器	B（32.6） C［13.8］	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部にはＲＬの単節縄文を横方向に施している。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P438　30%
2	深　鉢 縄文土器	B（9.5）	波状部片。波状部には隆帯で楕円形状に区画文を施し，区画内には隆帯に沿って爪形文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P439　5%
3	深　鉢 縄文土器	B（9.6） C［10.0］	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。隆帯を垂下させている。地文はＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P440　10%
4	深　鉢 縄文土器	B（5.5）	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯が巡り，その延長上に隆帯で楕円形の区画文を施している。区画内には隆帯に沿って結節沈線文を施し，ＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP238　5%
5	器　台 縄文土器	A［23.0］ B（4.5） E（2.4）	底部から口縁部にかけての破片。台部は「ハ」の字状に開く。胴部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	長石・石英・雲母・赤色粒子 にぶい橙色，普通	P441　60% PL31

第337号土坑（第291～294図）

位置　調査1区の北部，B 5 f2区。

規模と平面形　開口部は長径1.80m，短径1.60mの楕円形，底面は長径2.35m，短径2.10mの楕円形で，深さは95cmである。

壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

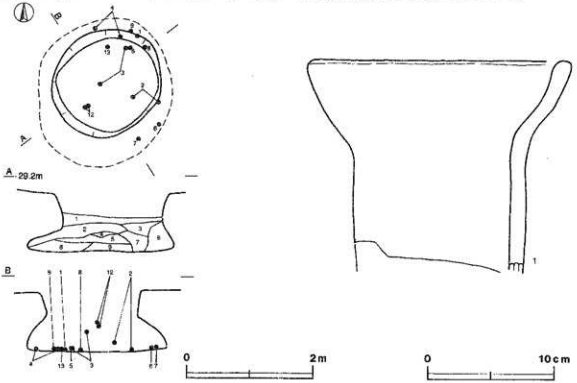
覆土　9層に分層され，不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

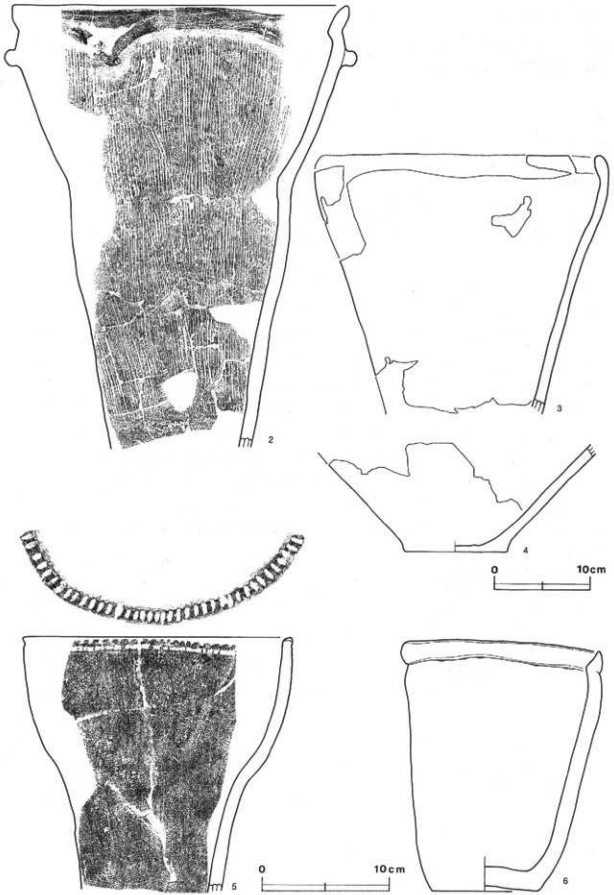
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・腐植パミス小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子・腐植パミス小ブロック微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
5　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
8　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
9　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物　縄文土器片266点が出土している。そのうち縄文土器13点を抽出・図示した。第291図1は底部が欠損する深鉢で，北東壁際の底面から横位で出土している。4は浅鉢の胴部から底部にかけての破片で，北部の底面から出土している。6は深鉢で，南東壁際の底面から横位で出土している。7は口縁部，胴部が一部欠損する深鉢で，南東部の底面から横位で出土している。8は口縁部から底部にかけて一部欠損する深鉢で，北東部の底面から横位で出土している。9は深鉢の底部片で，北東部の底面から横位で出土している。13は深鉢の胴部片で，北部の底面から出土している。2は底部が欠損する深鉢で，東部の覆土下層から出土している。5は底部が欠損する深鉢で，北東部の覆土下層から出土している。3は底部が欠損する深鉢で，中央部から北部にかけての覆土下層から中層にかけて出土している。12は深鉢の胴部片で，南西部の覆土中層から出土している。10は深鉢の口縁部片，11は深鉢の胴部片で，それぞれ覆土から出土している。

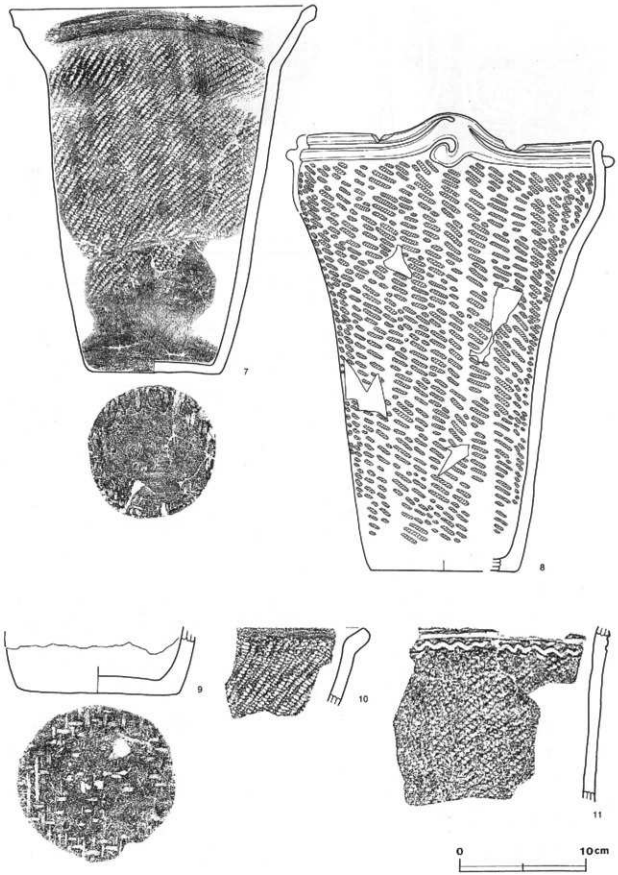
所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)から中期後葉(加曽利ＥⅠ式期)と考えられる。



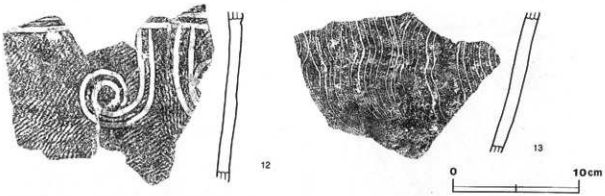
第291図　第337号土坑・出土遺物実測図



第292図　第337号土坑出土遺物実測図（1）



第293図　第337号土坑出土遺物実測図（2）



第294図　第337号土坑出土遺物実測図（3）

第337号土坑出土遺物観察表（第291～294図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 20.0 B (16.7)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部は内彎する。胴部は無文で研磨している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P446 40% PL32
2	深鉢 縄文土器	A 26.2 B (35.0)	口縁部，底部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部で内彎する。口縁部の内側に稜を持つ。口縁部には隆帯を巡らし，隆帯の延長上に２単位の「V」字状の隆帯を貼付している。口縁部から胴部にかけてクシ状工具による条縄文を施している。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P442 70% PL32 外面スス付着
3	深鉢 縄文土器	A [29.5] B (27.7)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部の内側に稜を持つ。口縁部には隆帯を巡らしている。胴部は無文で，研磨している。	石英・雲母 胴部上半にぶい褐色 胴部下半黒褐色 普通	P444 40%
4	浅鉢 縄文土器	B (11.3) C 11.2	口縁部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。胴部は無文で研磨している。	長石・雲母 橙色 普通	P450 20%
5	深鉢 縄文土器	A [21.0] B (20.2)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口唇部にはキザミを施している。胴部は無文で研磨している。	長石・石英・雲母 胴部上半褐色 胴部下半黒褐色 普通	P445 30% PL32
6	深鉢 縄文土器	A 15.4 B 19.9 C 8.4	口縁部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。胴部は無文。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P447 80% PL32
7	深鉢 縄文土器	A 23.9 B 29.3 C 10.4	胴部一部欠損。胴部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部には隆帯を巡らしている。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 胴部上半橙色 胴部下半黒褐色 普通	P443 70% PL32 底部網代痕有り
8	深鉢 縄文土器	A [23.1] B 36.1 C [11.6]	口縁部から底部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎気味に立ち上がる。１単位の波状口縁を呈する。口唇部には沈線を巡らしている。波状部には隆帯で渦巻文を施している。地文はＬＲの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 胴部上半明赤褐色 胴部下半暗赤灰色 普通	P448 60% PL32
9	深鉢 縄文土器	B (5.3) C 12.5	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。	長石・雲母・雲母 橙色 普通	P449 10% 底部網代痕有り
10	深鉢 縄文土器	B (6.1)	口縁部片。口縁部はやや外傾して立ち上がる。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP239 5%
11	深鉢 縄文土器	B (13.9)	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。沈線と波状沈線を巡らしている。地文はＲＬＲの複節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP240 5%
12	深鉢 縄文土器	B (13.4)	胴部片。胴部はやや外傾して立ち上がる。２条の沈線で渦巻文を施している。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP242 5%
13	深鉢 縄文土器	B (11.0)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。クシ状工具による波状沈線を縦位に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP241 5%

第340号土坑（第295・296図）

位置　調査1区の南西部，C 4 e6区。

規模と平面形　開口部は長径1.25m，短径1.20mの円形，底面は長径2.54m，短径2.15mの楕円形で，深さは110cmである。

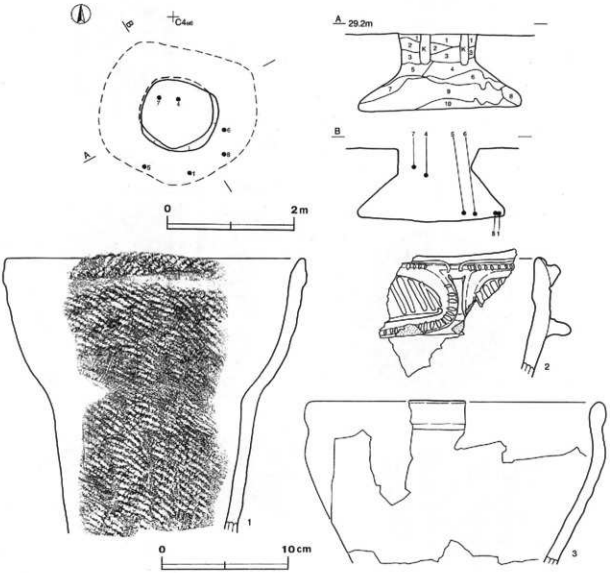
壁　フラスコ状を呈する。

底　ほぼ平坦である。

覆土　10層に分層され，第1～3層はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。第4～10層は不規則な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

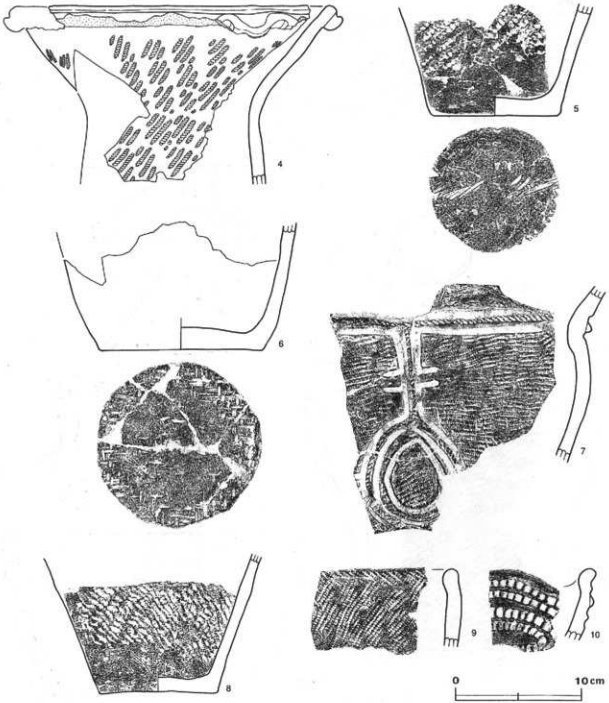
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
4　黒　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
5　黒褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，鹿沼パミス小ブロック微量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
8　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，鹿沼パミス小ブロック微量
9　明褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化物微量
10　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量



第295図　第340号土坑・出土遺物実測図

遺物　縄文土器片75点が出土している。そのうち縄文土器10点を抽出・図示した。第295図１は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，南部の覆土下層から出土している。８は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，南東部の覆土下層から正位で出土している。５は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，南部の覆土下層から正位で出土している。６は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，東部の覆土下層から逆位で出土している。４は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，中央部の覆土中層から出土している。７は深鉢の胴部片で，中央部の覆土上層から出土している。２は深鉢の口縁部片，３は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，９は深鉢の口縁部片，10は波状口縁を呈する深鉢の波頂部片で，それぞれ覆土から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第296図　第340号土坑出土遺物実測図

第340号土坑出土遺物観察表（第295・296図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [23.3] B (21.7)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内弯する。口縁部には，LRの単節縄文を横方向に施した隆帯を巡らしている。胴部にはLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 胴部上半にぶい橙色 胴部下半明灰色 普通	P451　20%
2	深鉢 縄文土器	B (10.2)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。爪形文を施した隆帯で楕円形状に区画文を施している。区画内には沈線を横位に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P454　5%
3	深鉢 縄文土器	A [22.6] B (12.8)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内弯する。胴部は無文。	長石・石英 黒褐色 普通	P453　10%
4	深鉢 縄文土器	A [24.8] B (14.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内湾気味に立ち上がり，口縁部は内弯する。口唇部直下には波状の隆帯を巡らしている。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母・パミス 黒褐色 普通	P452　10%
5	深鉢 縄文土器	B (8.5) C 10.1	口縁部欠損。胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P456　30% 底部胴代痕有り
6	深鉢 縄文土器	B (10.0) C 12.9	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部は無文。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P457　30% 底部胴代痕有り
7	深鉢 縄文土器	B (14.0)	胴部片。胴部は内弯して立ち上がる。胴部と頸部との境に隆帯を巡らしている。そこから垂下させた隆帯と沈線で円形の文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP245　5%
8	深鉢 縄文土器	B (11.0) C 9.3	口縁部欠損。胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がる。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P455　30%
9	深鉢 縄文土器	B (6.3)	口縁部片。口縁部は内弯して立ち上がる。内側に波を持つ。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP243　5%
10	深鉢 縄文土器	B (5.7)	波状部片。波状部には隆帯に沿って複列の結節沈線文で羽状に描出している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP244　5%

茨城県教育財団文化財調査報告第188集

宮 後 遺 跡 1
上 巻

平成14年(2002)3月20日　印刷
平成14年(2002)3月25日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸市生涯学習センター分館内
TEL　029　225　6587

印刷　株式会社　イセブ
〒305-0005　つくば市天久保2丁目11-20
TEL　0298－51－2515